

フハッ

「題字」水木しげる筆





目玉おやじ特集

第60号

◆更新手続のご案内◆

会報が送られてきた封筒の宛名シールを見て下さい。氏名の下に{　}された数字が書かれてあります。例えば{100123/200303} なら貴方の会員番号は100123で会員期限が2003年３月となります。期限が切れると会報や案内が送られませんのでご注意下さい。会費はなるべく有効期限内に納めて頂きます様お願い致します。年会費は４０００円ですが手続が面倒な方は何年分送って頂いても結構です。送金方法は下記のとおりです。

●無記名郵便小為替で納金

郵便局の窓口で現金を小為替に変えて封書で送ります。手紙等、他の郵便物と一緒に送れるし普通郵便料金で送れますが、郵便事故の可能性があり保証もない。

●現金書留で納金

現金書留用の封筒（郵便局の窓口で販売）で現金をそのまま送れます。当方としてはこの方法は換金する手間が省けますが、送金料がすこし高くつきます。

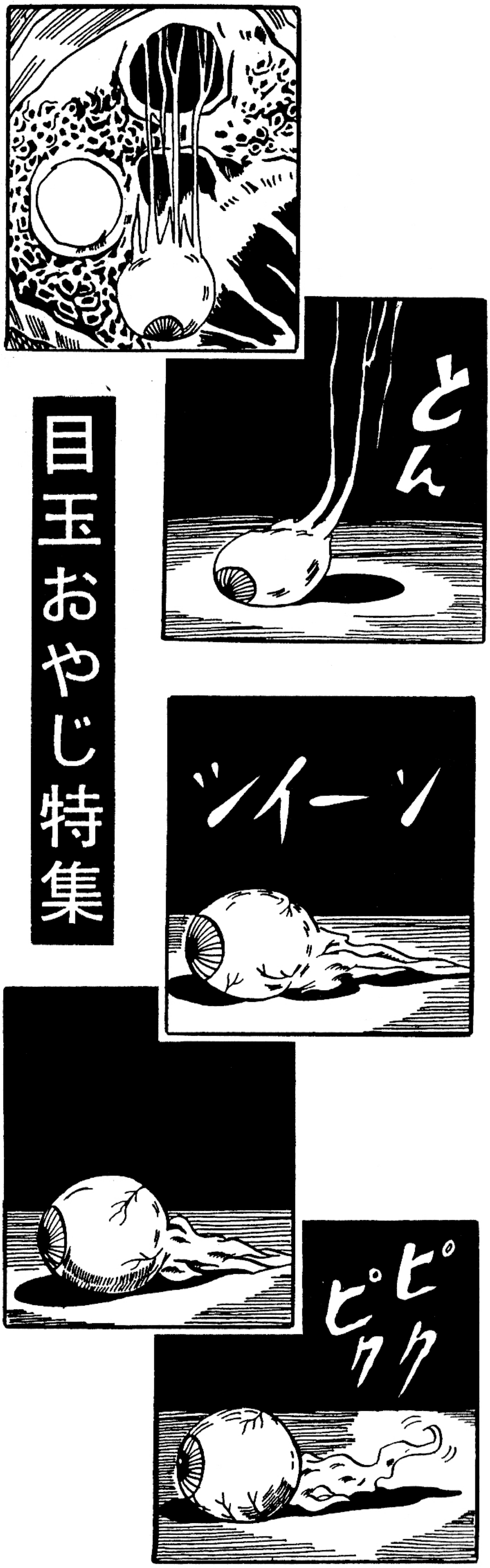
●郵便振込で納金

郵便口座振替用紙で郵便局の窓口で送金する方法。この方法は費用も安く一番確実と言えます。

口座番号　００９００－３－３０９０８　　口座名　馬場様方　水木伝説

◆目　　次◆

目玉おやじ特集



水木キャラクターの中では、『目玉おやじ』は鬼太郎にもひけをとらぬほどのトップスターとして、幅広い年齢層に親しまれ、グッズ、フィギュアやCMの出演、パチンコ機械にいたるまで多方面にわたって活躍を続けている。グッズ、フィギュアなどはその数の多さに、全てを把握することはかなり困難であり資料収集ができないことから、今回の「目玉おやじ特集」はそのルーツに迫ってみたい。

貸本や雑誌での目玉おやじの誕生はそれぞれの「鬼太郎誕生編」の中で描かれているとおり父親ミイラ男の腐乱死体から目玉が溶け落ちて手足が生えたという設定で統一されている。その愛らしい姿から大きくかけはなれたグロテスクの極みといった誕生である。ちなみに鬼太郎が片目であるのは生まれついてのものと、墓石の角にぶっつけられて潰れてしまったという、二通りの設定はご承知の事と思うが、それではオリジナル元版である紙芝居での目玉おやじの誕生はどの様なものであったのか、非常に興味深いものであり一見したいものであるが何分にもその紙芝居自体が現存していないため真実は闇の中とされている。そこで「目玉おやじ誕生秘話」について二年程前に、読売テレビで放送されている「波瀾万丈」という番組で水木先生が語られていたので紹介しよう。

●水木先生談　（今、明かされる目玉親父誕生秘話）

紙芝居時代に鬼太郎を描いていた頃、その・・・紙芝居ってのは最後の、一番最後をですね・・・あとどうなるかで終らなくっちゃならないわけですよ。あとどうなるかが次、見たくなかったら子供が集まって来ないから

・・・。ヒキと称して一番重要だったんですよ。だからヒキに意外な事をしなきゃいかん・・・、で私はヒキの時に、お父さんが死んだけどもお父さんの声が聞こえる・・・、なんでだろう・・・。で終ったわけです。それでアンタ、苦しまぎれに・・・その・・・次のスジをそれに沿うて考えなきゃイカンじゃないですか・・・。だから死んだ人間の声がするっていったいどういう事か・・・ところがそれは鬼太郎を想う心が化して、その・・・・目玉になって片方の目に入ってた・・・ってなね。



実に珍しい紙芝居の『墓場奇太郎』（富士会）

もう苦しまぎれに・・・。そういうヒキを作ったため、その晩寝られないですよ。あくる日どうしたらいいかって事ですよ・・・ね。

というふうに語られている。この貴重な証言を元にその状況は各々で想像を巡らして頂きたい。

「鬼太郎」にまつわる作家が水木先生以外に二人いたという事はすでにご承知だと思うが、まず一人目として伊藤正美氏の名前があげられる。伊藤氏は紙芝居の製造・貸出しをしていた『富士会』で「ハカバキタロー」（墓場奇太郎）を発表した。資料によるとそのストーリーは次のようなものである。

姑女の嫁いじめの話で、意地悪姑女にいびり殺された嫁

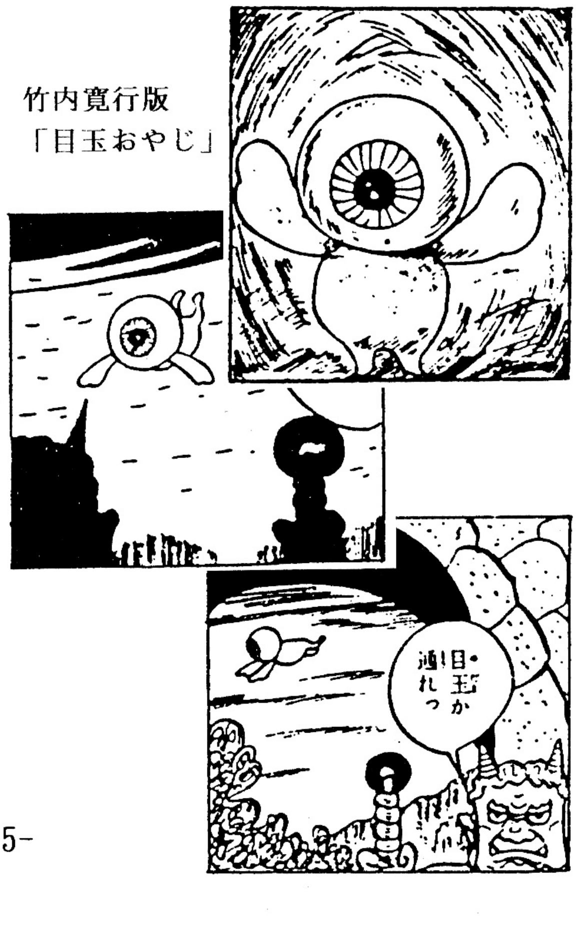

『ハカバキタロー』は、醜い顔の少年で、墓石の上を跳びまわっては、悪人を地獄へ送っていた（伊藤正美・作）


これも紙芝居版『ハカバキタロー』（伊藤正美・作）

が土葬された。嫁はすでに子供を身ごもっていて墓の土の下で赤ん坊がうまれた。赤ん坊は母の屍肉を食べて地上に出て姑女に復讐するという陰惨な内容で、お爺さんが家に帰ってきたがお婆さん、意地悪姑女の姿が見えない。水を汲もうと井戸へ行ってつるべの綱を引くと水桶でなく首をくくられた姑女の死骸が上がってきた、屋根の上で奇怪な子供「墓場奇太郎」がイヒヒヒと笑っていた・・・・。伊藤正美版「墓場奇太郎（ハカバキタロー）」の話の内容からすると奇太郎の両親は人間でり、目玉おやじは存在していない。この荒筋を阪神画劇社（紙芝居の貸し元）の鈴木勝丸氏が水木に話し、水木が「墓場奇太郎」を描くに至った（クイックジャパン第十五巻による）。後年書かれ資料（別冊新評・水木しげるの世界／昭和五十五年刊）によれば鬼太郎もの紙芝居で目玉おやじが初登場するのは「空手鬼太郎」という事である。「空手鬼太郎」は水木の完全オリジナルのものであり『目玉おやじ』は水木の創造のものであるという事がここに再確認できる。



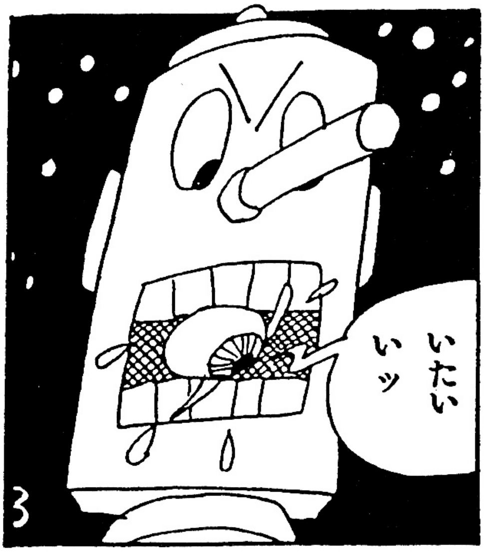
竹内寛行版「鬼太郎」



竹内寛行版「目玉おやじ」

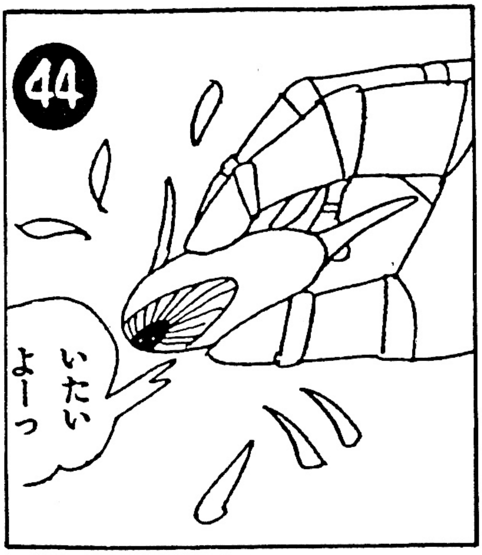
もう一人の「鬼太郎」にまつわる作家といえばすでにご承知のとおり竹内寛行氏である。貸本出版兎月書房で水木が鬼太郎を描いていたのだが三巻で打ち切られ、そのあと四巻目から引き継いで描いたのが竹内寛行である。「あう時はいつも死人」の続編として描かれたのでキャラクター

や物語の設定は水木版鬼太郎を受け継いでいた訳であるが竹内版になってから目玉おやじはいつの間にか手が羽根のようになって自由に空を飛べるようになっている。竹内版鬼太郎について述べるのは別の機会として今回、竹内寛行が鬼太郎を引き継いで描くに当たってのいきさつや思いが語られた水木先生のインタビュー記事を収録した。



●「マメ博士の冒険」は水木先生のデビュー作とされている「ロケットマン」が発表された同年の昭和33年の作品である。初期の頃はこういったギャグ漫画が何作品かあるが、この「マメ博士の冒険」は白骨ゴジラや妖怪たちが登場する、総ページ数95ページ、水木カラーが色濃く出ているSF・怪奇ギャグ漫画である。

（兎月書房刊）



貸本時代での目玉おやじのデビューは昭和三十四年「妖奇伝／墓場の鬼太郎・幽霊一家」が一般的だが、実はこれ以前の昭和三十三年に発表された「マメ博士の冒険」「地獄の水」にも目玉おやじ風のキャラクターが登場している。「マメ博士の冒険」では、目玉星から食料である目玉を求めて地球にやって来た目玉星人として登場しており、「地獄の水」では主人公の少年の父親が『チョコリザの水』に溶かされてしまい、目玉だけが残り、その目玉に手足が生



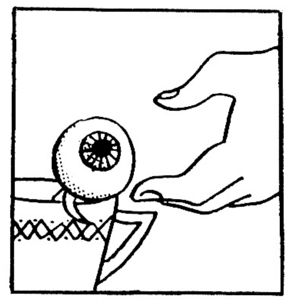
●目玉星から食料である目玉を求めて地球にやってきた目玉星人。貸本デビュー当時から、すでに目玉おやじのキャラクターは鬼太郎作品以外のところで活躍が始まっていた。

えた姿となってしまった。このエピソードは非常に『鬼太郎』と酷似している。このように目玉おやじのルーツを探ってゆくと興味深い事実があり、目玉おやじに対する水木先生の愛着の深さが感じられる。残念なことに「マメ博士の冒険」は現在は未復刻であり原本でしか読む事が出来ない。原本は言うまでもなく、古書市場でも殆ど見かける事はない超希少本であり入手は極めて困難である。「地獄の水」においても原本は「マメ博士の冒険」同様に超希少本だが、昭和五十五年古書の中野書店から『水木しげる初期作品集』全四巻で復刻されておりデビュー作「ロケットマ

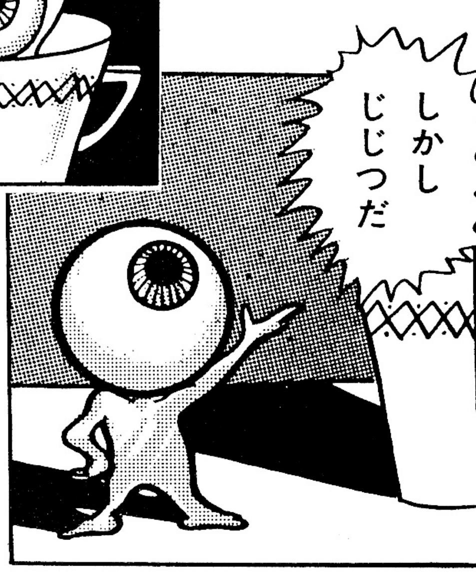




●「地獄の水」もデビュー作と同年、昭和三十三年の作品である。すでに今の水木のスタイルが完成されている。（暁星出版刊）







●茶碗に入っているところは目玉おやじその物である。

ン」「怪奇猫娘」「怪獣ラバン」が同時収録されている。しかしこの復刻本でさえ限定五百部というプレミア本であるため容易に入手出来ないときている。が、古書店をこまめに探せば入手可能だが価格のほうは十万円前後は覚悟しておかなければならないだろう。

今回は「目玉おやじ特集」としてそのルーツにふれてみたが初出の紙芝居が現存していない事や資料が乏しいため曖昧なかたちになってしまったが、フィギュアやグッズ等についてまとまった資料が集まればまた別の機会に特集を組みたいと考えています。

文責／てんめい

水木しげる インタビュー



――鬼太郎特集ということで、まずその発想、アイデアについてお尋ねしたいと思います。

〈水木〉終戦直後、紙芝居をやっておりまして、その中にあった因果もの、親の因果が子に報いってやつですね。それがヒントといえばヒントです。でも、あんまり受けなくってね。「空手鬼太郎」あたりで少し人気がでた。紙芝居は昭和28年から33年あたりまでですね。だいたい鬼太郎ってのは兄の子供をモデルにしてるんですよ。彼も、もう24才ぐらいの青年になってるけど、鬼太郎は少しも年をとっていない。

――戦前に紙芝居で「**ハカバキタロウ**」ってのがあったそうですが？

〈水木〉ええ、でも私はそれを全然見てないし、内容も知らない。知人に言われて名前だけ借りたのであって、鬼太郎はそれとはまったく関係ないキャラクターですよ。強いていえば「餅屋の幽霊」――ユーレイが子供を育てる話がヒントかな。そしてその子が大きくなって正義の味方になるというわけですね。

――次に「**妖奇伝**」ということになりますね？

〈水木〉これがまたグロテスクすぎるというので全然売れない。ところが、一人の読者から長文の手紙が届きましてね。この作品は絶対続けるべきだというんですね。この手紙がなければこんなに鬼太郎は続いてなかったかもしれませんね。

――次が名作「**鬼太郎夜話**」ですね？

〈水木〉実は、これは第五巻目があるんですよ。「**カメ男の巻**」というんですが、出版屋に渡して、金を三万円受け取ったんですよ。ところが原稿を失くされましてね。でも、そのへんで文句をいうわけにはいかない。金を返せと言われそうでね。当時は貧乏でしたからねえ。で、まあ、兎目をやめて、三洋社で二作、佐藤プロで三作鬼太郎ものを描きました。

――「カメ男の巻」ってのはまさしく幻の名作ですね。ところで、兎月で竹内寛行って人が、「**墓場鬼太郎**」を描いていますが、あれはどういうイキサツなんですか？

〈水木〉竹内寛行って人はもとペンキ屋で、まあぼくの友人だったから、「**鬼太郎シリーズ**」を続けたいと言ってきた時OKしたんですよ。一、二冊だと思いましたからね。ところが、ほっとくとどんどん出るんですよ。それで、いいかげんでやめてくれないかということになったんです。あれは「地獄の片道切符」の後を受けて4巻目から始まったんだけど、9冊ほどもでましたね。みんなあの頃は困ってたからおんまりいいたくなかったんだけど、なんか嫌な気になりましてね。

――それでいよいよ少年マガジンに登場ということですね。

〈水木〉アレも最初は宇宙ものをやってくれといってきたんですよ。それはやれないってことで半年ぐらいたってから今度は自由にやってくれってことになりまして、鬼太郎の登場ということになったんです。最初月一本の読み切りで、しばらくしたら連載。

――鬼太郎のキャラクター、性格とかスタイルが単行本時代と雑誌ではずいぶん違うようですが？単行本時代はずいぶんとひねくれたガキでしたが、後では正義の味方になるみたいな。

〈水木〉まあ、"可愛く"しなければ子供が不快感を持ちますからね。それに、戦いを描かないと少年マンガ誌では決して人気がでませんから。なにしろ「**吸血鬼エリート**」なんて、少年マガジンのマンガではビリですよ。でも、編集長が、ビリでも続けるとえらくみこんでくれましてね。エライですよ。

――でも、当時ずいぶん人気があったんでしょう？

〈水木〉「**妖怪大戦争**」なんてのは人気があり

ましたね。やっぱりTVの影響でしょう。小学生中心の人気みたいだったですね。所謂「角川商法」ってやつで、TVでやるとなんでも人気がでる。

――よく「妖怪図解、ゲゲゲの鬼太郎の世界」みたいなものがありましたが、あれはいかがでしたか。

〈水木〉あれはずいぶんと人気がありましてね。昔から、妖怪ってのは子供に人気があったんですよ。もともと形のないものを、自分なりに絵にしていくんだから大変でした。

――そのへん、つまり妖怪みたいなのが人気のあった部分でしょうか？

〈水木〉いろいろな妖怪が出てくるので、子供達は知識欲をそそられるんでしょうね。柳田国男なんかに登場してくる気のおけない妖怪達。おもにその姿形を自分で考えたものは鬼太郎の味方にし、その頃見つけた「百鬼夜行図絵」などからおこした妖怪達を敵ということにしましてね。江戸時代の絵草子からの妖怪も、まあ敵側ですね。だいたい、絵が既にあったものは敵にしました。

――毎回どんな妖怪がでてくるかというのが読者にとっては興味がありましたから。ところで、その後、少年マガジンから少年サンデーに発表紙がうつりますが、それはどういうわけですか？

〈水木〉TVがまた始まったからです。鬼太郎を描いてくれと注文してきたので引き受けたわけです。TVでやったのも、ほとんど自分のアイデアです。辻真先さんなんかが、マンガから起こすという形でした。

――当時は、他に「河童の三平」「悪魔くん」と三本連載をやっておられましたね。

〈水木〉いやあ大変でしたよ。仕事をセーブできなくて、身体をコワしましてね。ああいう状態じゃ、いい仕事ができるわけがない。頭まであの頃はコワしましたよ。

――一時期、編集長が来るとバットを持ってオソイかかるみたいなエピソードがありましたが。

〈水木〉ええ、今思えば、一本にしぼっておけばよかった。なんのかんのといっても、週に三本もやれるわけがない。もう最初は大変でしたね。立ってアイデアを考えるようなことをしてた。でも、いつのまにか体が慣れてしまいましたよ。今じゃ日曜日だけが休みです。

――鬼太郎のアニメは人気があったそうですが？

〈水木〉今年の夏も、「銀河鉄道999」「スクランブルエッグ」「ゲゲゲの鬼太郎」と三本が企画に残ったんです。TV局の人は鬼太郎と決めていたらしいんですが、結局「銀河鉄道999」になったようです。

――鬼太郎ではオモチャになりにくいですからね。それはそうと、これからも鬼太郎はお描きになりますか？

〈水木〉注文次第ですよ。

――描き下しはもうやられないんですか？

〈水木〉時間がかかりますからね。ところが出版社が待ってくれるのは一年ぐらい。やはり雑誌のほうが先になりますよ。今、鬼太郎は「週刊実話」でやっています。前に「漫画サンデー」でやったのはうまくなかった。やはりSEXがでてくると、どうも鬼太郎ものは……

――少年誌では？

〈水木〉やりたくはあるが、そうなるとまた大変で、アリガタメイワク。酷使されるとアキマセン。でも、この頃は肉体が忙しさに慣れて、いらぬ心配をしなくなりました。本当は一年ほど休憩したいんですがね。緊張感がないといいストーリーはできませんしね。

――大分アシスタントの方がいらしたようですが？

〈水木〉つげ義春君には女の子やバック。池上遼一はうますぎて、妖怪とバックしか描かせませんでした。あと土山槇吾はそそっかしい男でした。

――ニューギニアに移住するという話は？

〈水木〉今でも考えています。自由業って名はついてますけれど、本当は不自由業ですね。それに比べれば南方の土人は金はないけど自由なんです。景色もいいしね。

――まだまだ描き続けていかれますか？

〈水木〉眼に見える世界と眼に見えない世界。死後の世界、妖精の世界だとか、そういったものを勉強したいと思ってます。

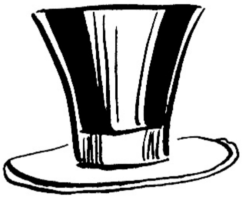
――本日はどうもアリガトウございました。

昭和55年　小学館入門百科シリーズ101『鬼太郎なんでも入門』より

お父さんのひみつ

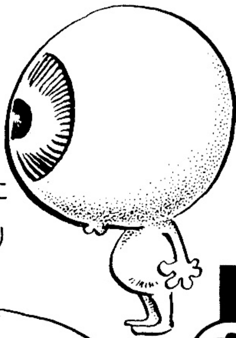
帽子

イギリスの小鬼からおくられたもの。



口

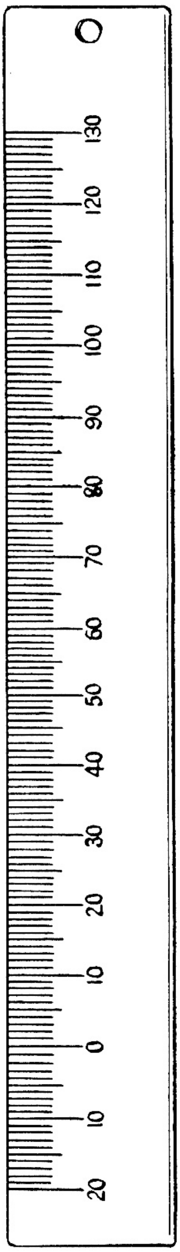
飛行機の車輪のように出したり引っこめたりできる。





身長

身長＝9センチ9ミリ



靴

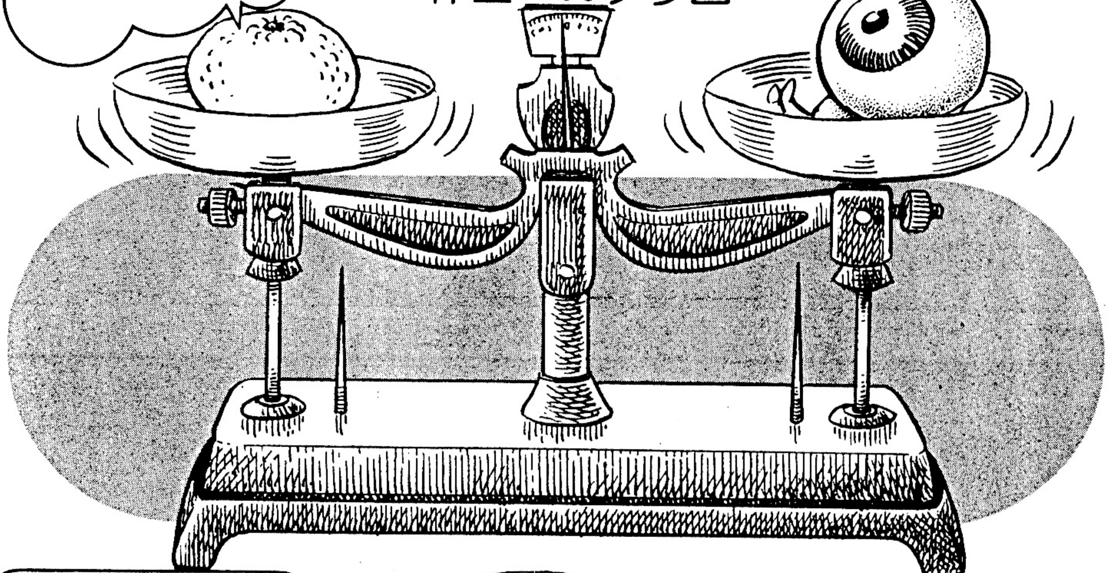
サンタ・クローズからとくべつにプレゼントされたもので、世界にひとつしかないといわれる。

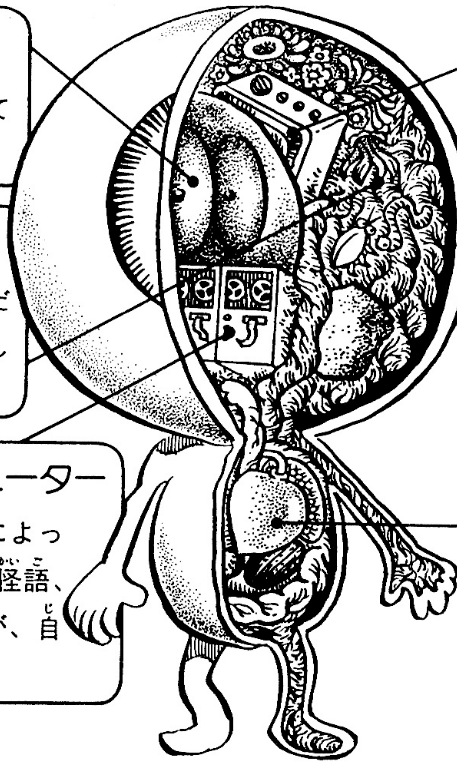


(37)

体重

体重＝33グラム

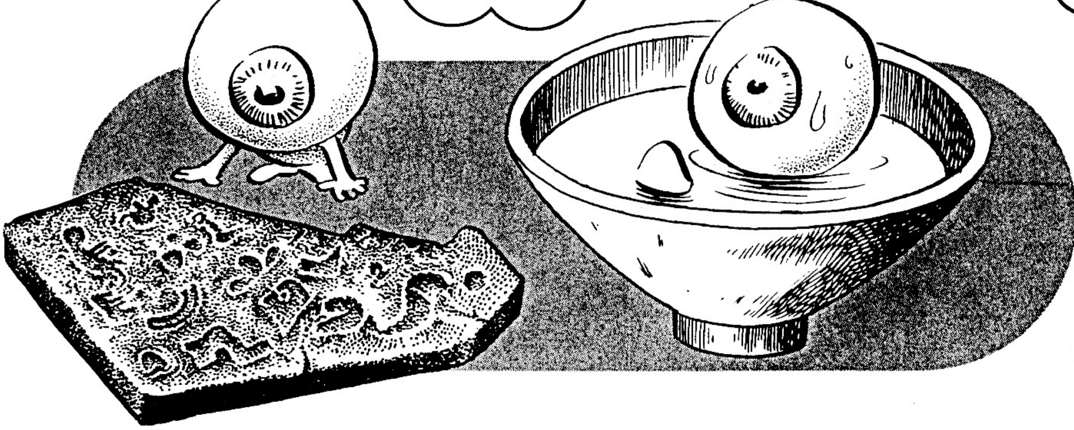




趣味

茶わん風呂

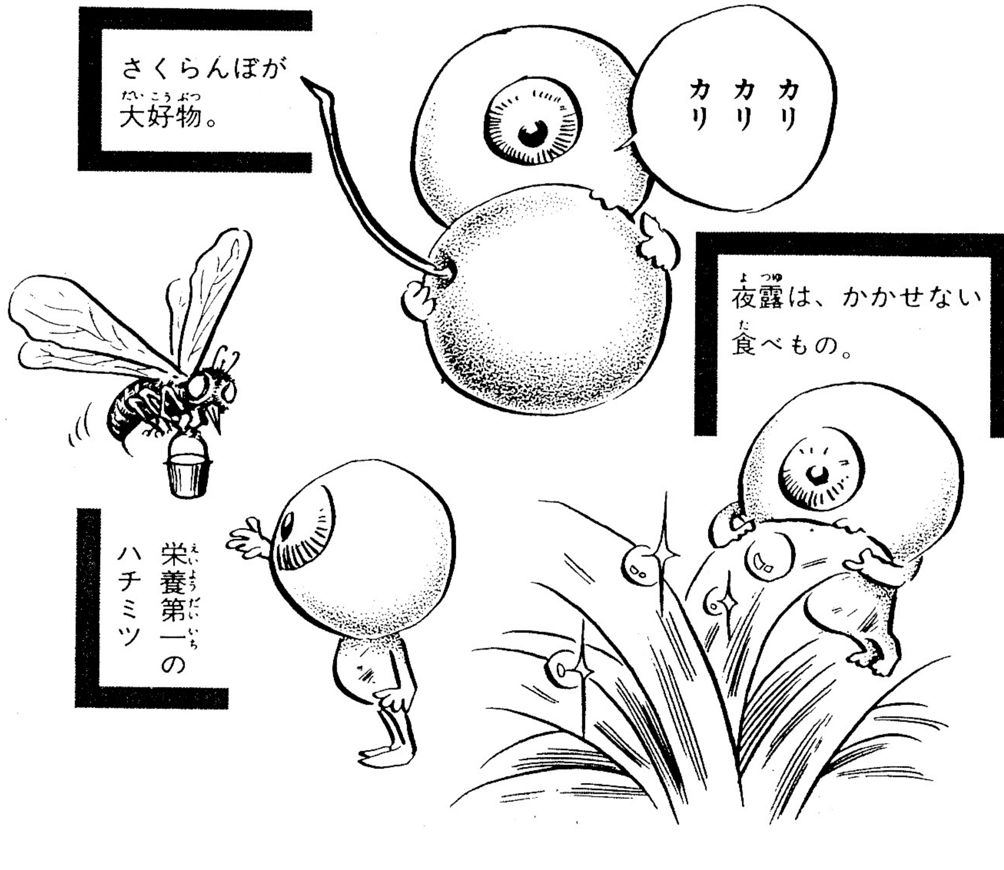
茶わんの中に湯を入れるお風呂だが、
番茶風呂
せん茶風呂
コーヒー風呂
など、いろいろある。



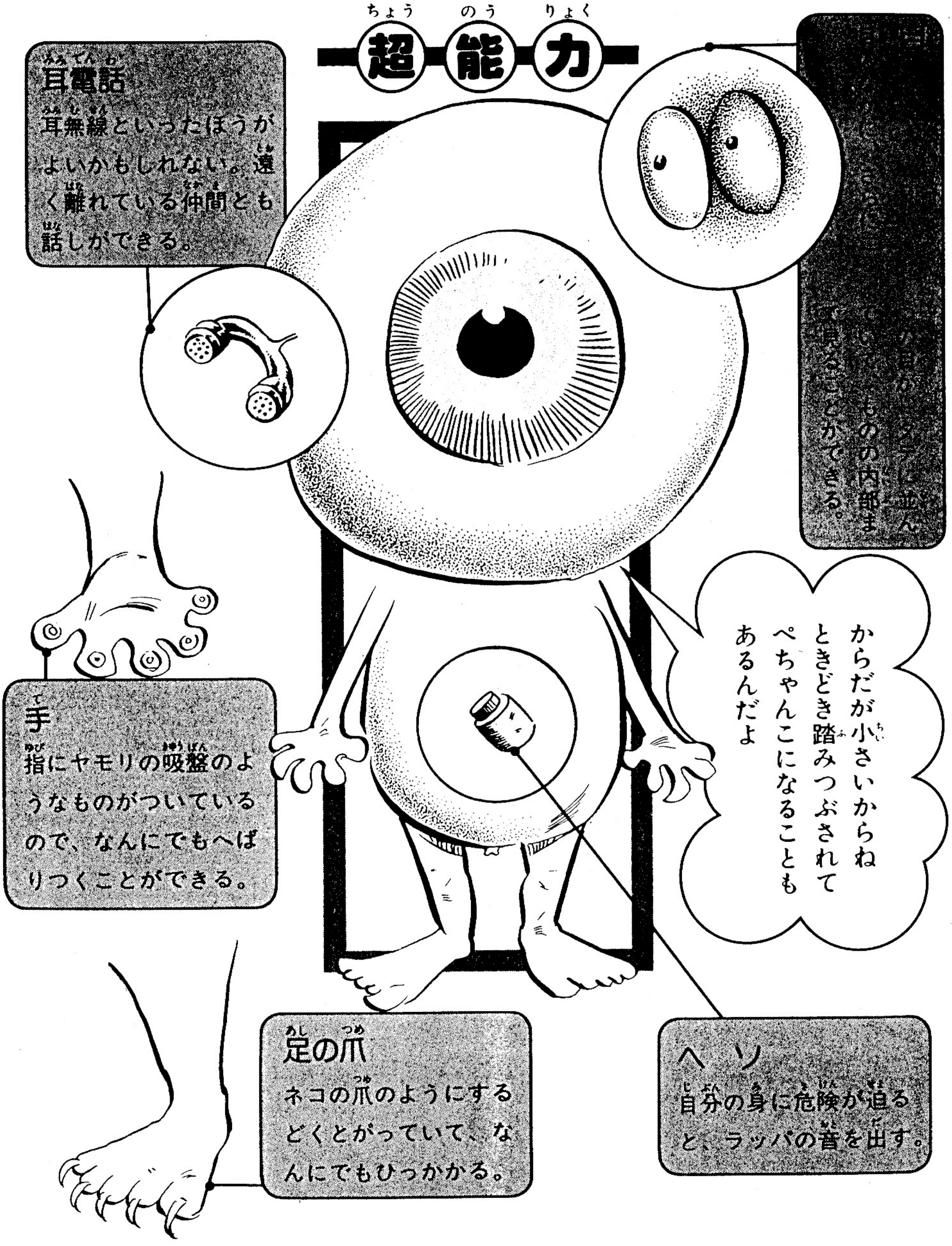
仕事

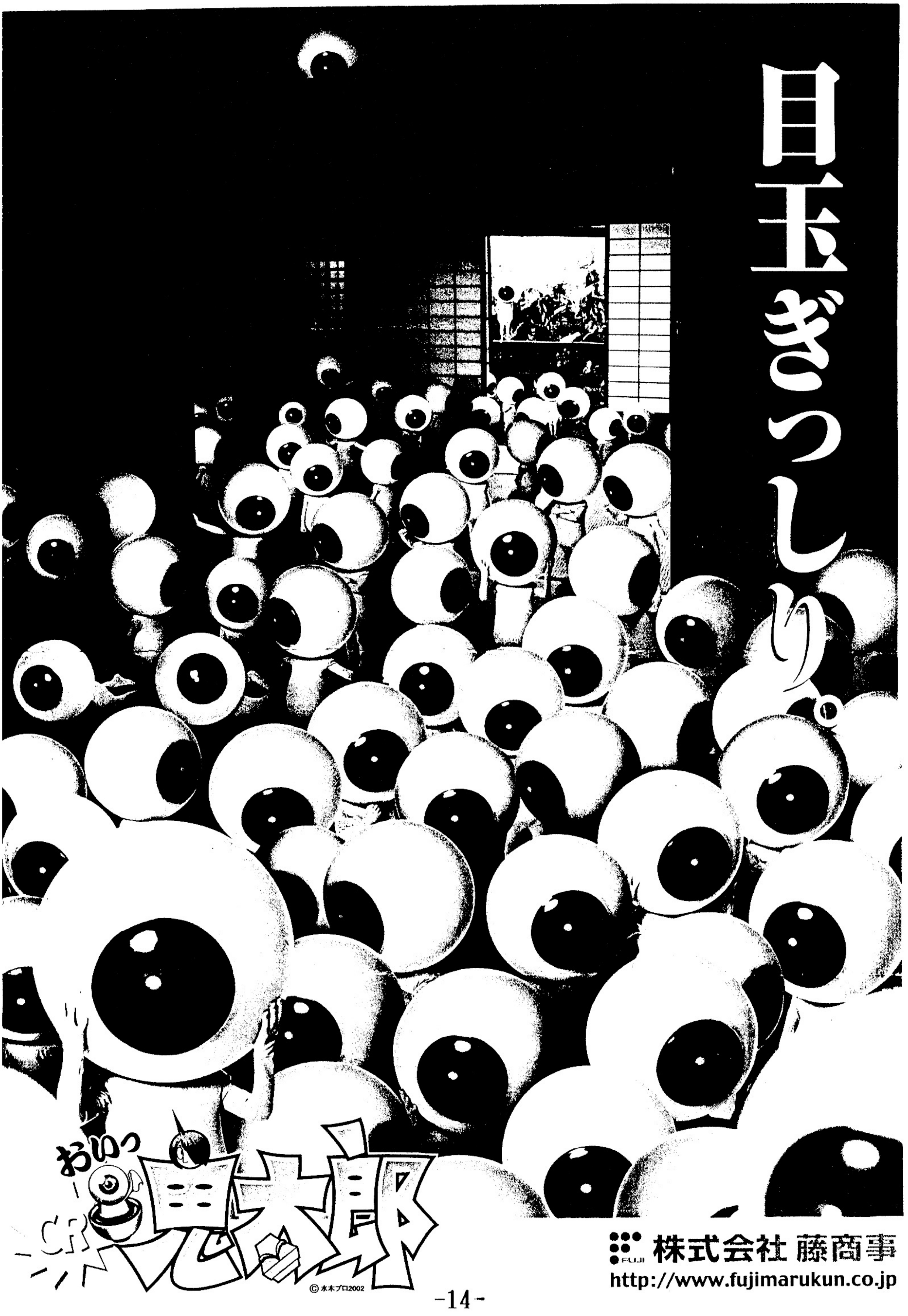
人間の知らない大歴史、妖怪史の研究に、はげんでいる。

食事



超能力


耳電話
耳無線といったほうがよいかもしれない。遠く離れている仲間とも話しができる。
…の目がタテに並んでいて、ものの内部まで見ることができる。
からだが小さいからね ときどき踏みつぶされて ぺちゃんこになることも あるんだよ
手
指にヤモリの吸盤のようなものがついているので、なんにでもへばりつくことができる。
足の爪
ネコの爪のようにするどくとがっていて、なんにでもひっかかる。
ヘソ
自分の身に危険が迫ると、ラッパの音を出す。


目玉ぎっしり。
CR おいっ鬼太郎
株式会社 藤商事
http://www.fujimarukun.co.jp
© 水木プロ2002

技術があるから、人にやさしい
SEIKO CONTACTLENS

アクティブなワシは
コンタクトレンズ派なのじゃ。



©水木プロ・東映動画　ゲゲゲの鬼太郎

セイコーコンタクトレンズの技術は、瞳にやさしい技術です。

セイコーソフトCSI EXは、●中心厚0.035mmの超薄型タイプ（パワー-3.00Dの場合）、装用感がよく連続装用が可能。※ ●瞳にやさしくフィットし、激しいスポーツにも適しています。●お手入れは、つけおきケアの「スーパーバイオステップ」で、とても簡単です。
セイコーハードEX1は、●新素材フルオロフマレートの採用で酸素透過性に優れ連続装用が可能。※ ●自然でクリアーな視界が得られ強度の近視や乱視の方にも適しています。

超薄型ソフトコンタクトレンズ
SEIKO
SOFT CSIEX

高酸素透過性ハードコンタクトレンズ
SEIKO
HARD EX1

コンタクトレンズはセイコーです。

セイコーソフトCSI EX医療用具承認番号(62B)第1747号／セイコーハードEX1医療用具承認番号(02B)第1245号 コンタクトレンズは医療用具です。必ず眼科医の検査・処方を受けてお求めください。
〈連続装用の場合〉●連続装用の承諾書と管理手帳の内容をお守りください ●装用時間（連続装用期間）を正しくお守りください ●取扱方法を守り、正しく使用してください ●定期検査は必ず受けてください ●少しでも異常を感じたら直ちに眼科医の検査を受けてください ◎涙の量、アレルギー体質などが原因で連続装用できない方もありますので、眼科医の指示をお守りください ※眼科医の指導のもと最長1週間の連続装用が可能 〈終日装用の場合〉●装用時間を正しくお守りください ●取扱方法を守り、正しく使用してください ●定期検査は必ず受けてください ●少しでも異常を感じたら直ちに眼科医の検査を受けてください

（連続装用は眼科医の指示によりお始めください）

セイコー コンタクトレンズ株式会社　製造元／セイコーエプソンコンタクトレンズ株式会社

オイ，みんな！
非行や犯罪のない
明るい社会をつくるのじゃ。



「ゲゲゲの鬼太郎」目玉おやじ

青少年を見守る目。地域社会を支える目。

第54回“社会を明るくする運動”

“社会を明るくする運動”は，すべての国民が，犯罪や非行の防止と罪を犯した人たちの更生について理解を深め，それぞれの立場において力を合わせ，犯罪や非行のない明るい社会を築こうとする全国的な運動です。

主唱／法務省

松ちゃんポリスの
ヘタならグズならアホなら書くな!!のコーナー
（※右記はもちろん自分の事です）

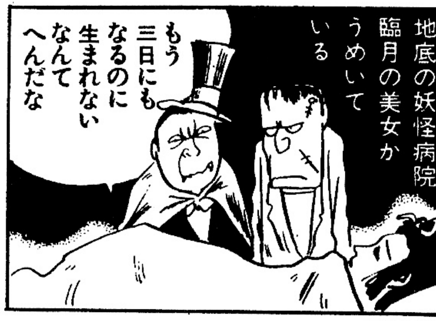
第3回「目玉親父の究極奥義を見た!」の巻

光となり影となり、鬼太郎を支え続ける心優しき目玉親父。今回は、そんな目玉親父の隠された一面に迫りたいと思う。
妖怪たちとの戦いでは、主に頭脳面で鬼太郎たちをサポートする事の多い目玉親父であるが、彼が実戦に参加したケースも少なからず存在する。
火車との戦いでは無数に分裂したり（逆モチ殺し）、死神との戦いでは宇宙から巨大化して飛来したり、吸血妖怪との戦いでは「まぼろしの汽車」を発動させたり、と目玉親父の活躍は記憶に新しい。
が、あえて筆者はタイトルにもある様に、「目玉親父の究極奥義」は、それ以外に存在すると言いたい。鬼太郎サーガの隠れた名作である「鬼太郎のベトナム戦記」に、筆者はそれを発見したのである。
「鬼太郎のベトナム戦記」は異色中の異色作である。あのベトナム戦争に鬼太郎ファミリーが参加していたという、とんでもない設定の社会派作品である。この作品





妖怪がいかにして妊娠するか？ これは謝国権先生にも、ドクトル・チエコ先生にもわからぬ難問である。また、セックス記事なら何でものっていそうな女性週刊誌にものっていなかった
しかし、アメリカはペンタゴン派遣の美女妖怪が、まぎれもなく妊娠の徴候を示したことは、鬼太郎の親父が首尾よく妖怪の子宮へ入りこんだことの、なによりの証拠であった……







を知らない読者の為に、そしていかにして目玉親父は究極奥義を発動させたかを語る為に、あらすじを綴ろう。

ベトナム戦争のさなか、百年ぶりに眠りから覚めた「毛目玉」は、いとこの目玉親父にベトナム庶民の苦境を相談にやってくる。立ち上がった鬼太郎ファミリーは一路ベトナムへ。ベトナム妖怪と協力してアメリカ軍と対決する。

アメリカ軍は、鬼太郎をたぶらかす為に美女妖怪を用意、鬼太郎に差し向ける。骨抜きにされた鬼太郎は、髪の毛を剃られ、大事なチャンチャンコとゲタを奪われてしまう。そこで息子の危機に立ち上がったのが目玉親父なのである！

目玉親父は美女妖怪の子宮に潜入、彼女を妊娠状態にして、その動きを封じたのだ！　これぞまさしく究極奥義！　目玉親父にしか出来ない荒技である！

こうして目玉親父は、チャンチャンコとゲタを取り返し、鬼太郎を復活させたのである。

ドラマはまだまだ続くのであるが、今回は目玉親父の究極奥義について語るのが目的である為、割愛する。

目玉親父の究極奥義について文章にするのは、実は筆者の長年の夢でもあった。こうして念願の夢が叶って、筆者は感無量である。熱き喜びを胸に、筆を置きたいと思う。

文責・松本和也

「誠」を描く人々　漫画家インタビュー①

『劇画 近藤勇 星をつかみそこねる男』

インタビュー・構成　小泉すみれ

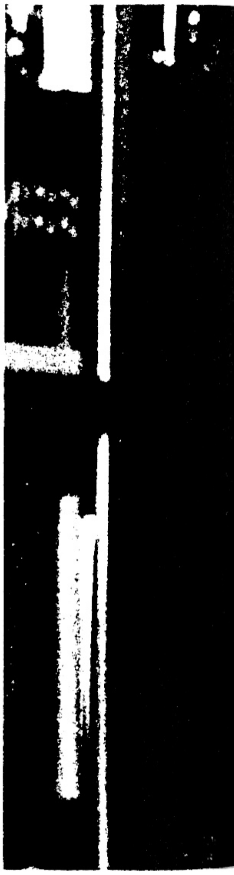


水木しげる

Shigeru Mizuki

1922年、鳥取県生まれ。出兵を経て、貸本漫画でデビューする。66年『テレビくん』で第6回講談社児童漫画賞受賞。『ゲゲゲの鬼太郎』『悪魔くん』『河童の三平』『コミック昭和史』など代表作多数。『劇画近藤勇』は86年に講談社より初版が刊行された。91年に紫綬褒章受章。2003年に勲四等旭日小授章受章。

「なかなか難しいですよ、幸せに生きるということは」



現在は世界の妖怪についての研究のため、各国を精力的に訪ね歩いている。



拳を口の中に入れられることが近藤勇の自慢のひとつだった。宴会芸として披露することも多かったとか。

幼い頃のヒーローだった近藤勇との再会

昭和34年。水木さんが東京都調布市に移り住んだことがきっかけで、この作品は生まれた。付近を散歩するうち、いつしか龍源寺をたずねることになり、偶然に近藤勇の墓に出合ったのだ。生家も寺から歩いて5分ほどの場所にある。「あの有名な近藤勇ちゃんは、こんなところで生まれたのか」。水木さんは急速に親しみを覚えたという。

「今は一緒くたになっちゃってるけど、調布と江戸は違いますからね。近藤勇って人は、いかにも調布の感じなんですよ。頑固で、ちょっとだけ頭が悪いんです。それはどこの都市だって住んでる人に足りない箇所ってのはあると思うけれど、近藤さんの場合も、ちょっとだけ何かが足りないんです。近藤って人は調布で生まれ育って、なんていうか、調布的な考え方で日本と世界とを見てたんでしょうね」

実際に作品に着手したのは今から15年ほど前になる。近藤勇の生涯を中心に、物語は天然理心流の道場で稽古に励む青年時代から始まる。

「まあ、もとは調布在の田舎侍なんですよ。これを描いてた当時は、よほど世間に作品のタネが少なかったらしくて、近藤勇の作品はたくさんありましたね。今でもそれをタネにして小説書いたり飯食ってる人は多いわけです。それを世間の人たちが面白がるから、勇さんの名前はどんどんどんどん世の中に広まるわけだけれど、あまりタネにされすぎてしまったので、私が描く時には、別の近藤勇像を作らないとダメだと思った」

かくして、水木さんの解釈で、近藤勇の一代記が創作されていく。

「近藤さんの魅力は、常に〝突撃者〟であることなんです。剣を抜いて闘うから、人気があった。バカバカしいことにまで勇ましく刀を抜いて闘う人は少なかったけど、近藤さんはやたらに刀を抜いて格闘するでしょ。



『劇画 近藤勇 星をつかみそこねる男』のあらすじ

近藤勇を主人公に、志を持って故郷を出、打ち首になるまでを描いた作品。武州・調布。郷士の息子・勝太は天然理心流の道場主・近藤周助の養子になる。四角い顔に大きな口の勝太が修行の日々を送っていると、土方歳三が厄介ごとを持ち込んできた。奉公先の女をはらませたという。それをうまく処理した勝太は、以後、歳三とともに人生を歩むことになる。勝太は近藤勇と改名し、養父の代わりに師範を務めるようになる。やがて、浦賀に黒船が現れ、勇たちは見物に行く。文久2年、時代は混迷を迎え、勇は試衛館の連中とともに、将軍上洛の際の警護のための浪士隊に応募するが、清河八郎の画策に気づき、芹沢鴨とともに隊を出る。やがて働きが認められ、新選組の名を拝命する。勇は非道な振る舞いが目立つ芹沢を暗殺し、局長となるが…。

※廉価版「劇画近藤勇」(世界文化社)はローソン系のコンビニで発売中。また、調布の深大寺門前の「鬼太郎茶屋」では水木さんの代表作「ゲゲゲの鬼太郎」グッズも手に入る。



上洛して間もない頃の近藤と土方と原田。この後の土方の「京都へ芋掘りに来たんか」のセリフが笑わせる。

そこが面白かったんですよ。だから大衆小説のタネになる。頭の具合もね、賢いわけでなし。だから、現代でも多くの人たちに支持されて、100年ほどずっとタネになるほどの人気を保ってるんじゃないですかねえ。私なんかは子供の頃、「近藤勇だー！」ってチャンバラごっこしてましたからねえ。子供心にも、一番強いのは近藤勇なんだって思ってましたから。たぶん、全国的に人気があったのと違いますか。みんな、子供の時からよく知ってましたよ。子供の時から話を聞かされていただけに、身近なような、奇妙な気持ちを持ってます」

「負け組」なのに新選組に魅力を感じるワケ

腕っぷしが強く、血気盛んなところもさることながら、水木さんが描く新選組の面々は、行動に至る動機が極めてシンプルで、どこかしらのん気な雰囲気を漂わせている。

「情報がなく、ただでさえ先行きがわかりにくかった時代だったけれども、近藤さんたちはその中でも特に鈍感な人たちだった。頭も良くないし、一人一人にしても、そんなにモノを考えない人たちだった。それでも、何か集団でいることが栄光につながるような気がしてたんでしょうね。方向性が間違ってたら元も子もないけれど、集団で活動していれば何かいいことがあると信じていた。池田屋騒動をはじめ、いろんなところに斬り込んでいったりして、なんだか華々しい活動をしていると思っていたんでしょうけれど、まあ、結局彼らは幕府に取り立てられるような立身出世がしたかったわけなんです。いわゆる、星をつかみたかった男たちなんですよ。最後は残念な結果で終わって、勲章をもらうどころか、さらし首になってしまった。不運というか、頭が悪かったというのか」



運も不運も、人生の大きな流れの中では、単なるなりゆきなどの重なりに過ぎない。水木さんの話は、どこかそんな明るさをたたえている。

「あの頃は、倒幕派か佐幕派か、どちらかについていって栄光に授かろうとする場合、よほど大本の考えがしっかりしていないと損をしちゃうわけですよ。そういう意味でも、新選

組の近藤さんは頭が悪かったから損をしてしまった。長州側はどちらかというと頭が良かったですね。新しく政権を執ろうとしていたわけですから。全体的に見れば、幕府ではもうやっていけない時代になっていたのを、そういう時代だと見切って隙間に入り込んで活躍していた連中は、ちゃんと後の時代でも伯爵とか侯爵とかになったわけです。でも、負けた側は悲惨ですよね。負け組と関わったということがわかっただけでも殺されてしまったんですからね」

滅びゆく武士道にこだわり、徒党を組んでいた新選組。「真面目であればあるほどまたコッケイなものだ」とあとがきに記しているように、水木さんは新選組のせつなくなるほど人間くさい面を巧みに描いている。

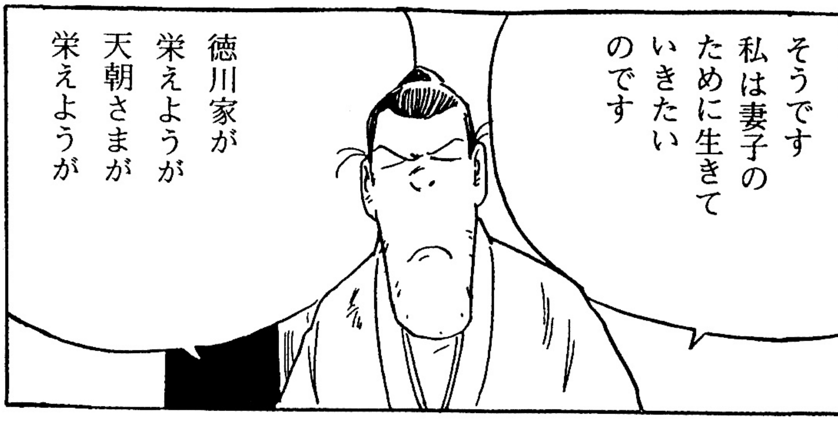
「新選組は、武士になりたいんだけどなれない連中が徒党を組んで、メシを食うってことから始まったでしょう。たびたび事件を起こしたりして面白いもんだから、一時は隊員も多かったでしょうね。何かやらかして宣伝すると、当時は金を出す人も多かったし、儲かったでしょう。初めはそれほど大げさなことを考えてなかっただろうけど、だんだんと人に期待されてやらされるって面も出てきたりして、次第に団体としての方針があやふやになってくる。ただ集まってメシを食ってるうちはよかったんだろうけど、結局は時代に翻弄されてしまったんじゃないのかねえ。ただでさえ、上層部にはものすごく頭のいい学者みたいなのがいなかったし。山南や伊東なんかは学者肌だったけど、一時的な闘いに勝ったとしても、ダ



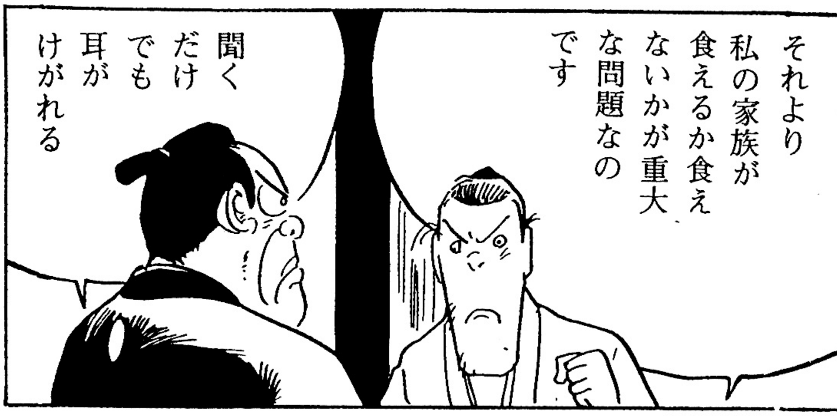
池田屋騒動直前の近藤と原田の会話。男前の原田が重要な場面に登場することが多い。



著者もお気に入りの、池田屋に踏み込むド迫力のハイライトシーン!!



新選組の中では異色の存在の吉村貫一郎。大坂の南部藩邸でのやりとり。



メな方にくっついてたら、最終的にはダメってことなんです」

近藤勇の生き方は現代人に支持されやすい

作品のテーマは、タイトルにもある通り「星をつかみそこねる」ということ。

「星っていうのは、幸せのこと。ミズキサンみたいになることが星（笑）。作品が売れて、お金が入って、脚光を浴びて、こうして人がやってきて取材を受けたりしてね。でも、世の中には圧倒的に星をつかみそこねる人の方が多いです。誰しも希望を持っていろいろなことに挑戦していくのでしょうけどね、たいていの人は星をつかめないんです。星は、体力があって、頭が良くないとつかめないし、運不運っていうのもあります。戦争なんか行くと、特にそういうことを感じるんですね。私のすぐ隣で寝ていた男がワニに食われたりしてね。でも、なぜ食べられたのが私でなくその男だったのかというと、それは運としか言いようがないです。考えてみたら、新選組の連中は悲惨な人生ですよ。実際、負ける側になったらロクなことはないですよ。でも、最近みたいに、お金があっても突然負け組になって失敗することもあるわけだから、近藤さんの姿は多くの人にとって親しみやすいんじゃないですか」

淡々とワニ体験を語る水木さんは、



土方よりも断然近藤の方が好きだという。

「そりゃあ、近藤さんの方がいいですよ。土方は考え方が理論的でしょう。でも、近藤さんは理屈を言わずに、まず闘う。だから、みんな面白がる。時代なんて考え方はなかったんじゃないかな。ただ、メシを食うってことを考えて、得たのは死だけ。真面目に命までかけているのに星をつかめない男。…なかなか難しいですよ、幸せに生きるということは。特に、あの時代にはね。結局は、隊員におだてられたんだね、近藤さんは。隊員たちはバカみたいに見えるけど案外賢いと思うんですよ。近藤さんにくっついてってちゃんとメシ食ってるんだから。でも、新選組にいたのがまずいとなると、下っ端の方は真

っ先に逃げるんですよ。誰が一番幸せだったのかと言えば、末端だったでしょうね」

そんな水木さんの、一番のお気に入りのシーンは池田屋騒動の、斬り込んでいく場面。

「立ち回りの場面はドラマになりやすくて、じっとしてるのはなりにくいでしょ。動きが少ないと見づらいからねえ。それから、日常生活で退屈してる場面も好きですねえ。私は、あの人たちは案外、退屈してる時間の方が多かったと思うんです。今はテレビとかが退屈をかなり救ってますけどね。当時はずっと退屈な時間が多かっただろうと思います。退屈ってのはねえ、怖いもんなんですよ。人を悪くしたりしますし」

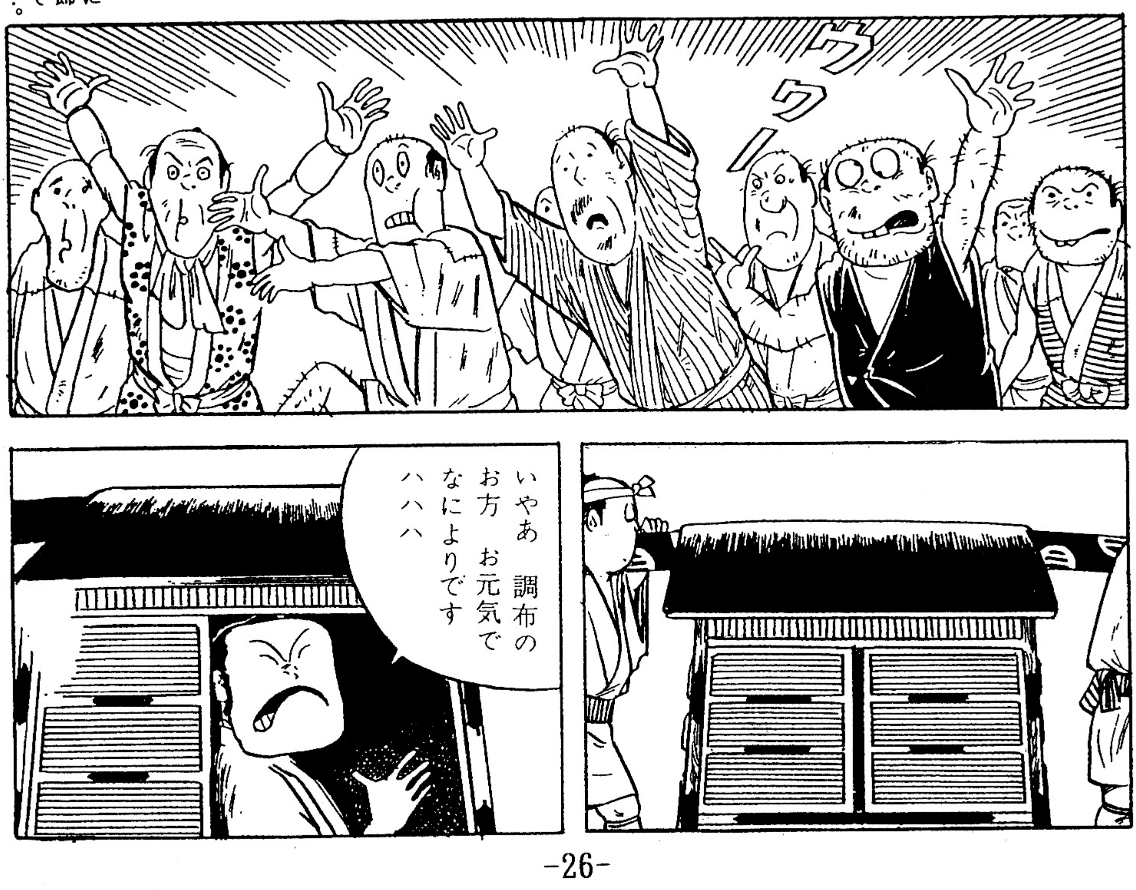
物語は、五稜郭の戦いを前に、近藤の首の行方についての場面を最後にしめくくられる。

「結局、近藤さんの首はどこにあるかわからない。ヒトラーもまたそうだったでしょう。物語を、どこで終わりにするのかは難しい。どこで切るかによって、感動は無限に続くわけだから。もうちょっと欲しい、って思うあたりがごちそうに見えるわけで、全部満足する前に切るとありがたみが出る。読む側が満腹してしまう前に、ちょっと意地悪をした方がいいなあ。今度の大河ドラマはどこまでやるのか、ミズキサンみたいな人を会議に呼べばいいのにねえ。漫画もドラマなんですから、長年やっているミズキサンを呼んで話を聞けばいいのに（笑）」

もし、近藤勇が今の時代に生きていたら、どんな人生を送っているだろうか。

「まあ、いずれにしろ、あまり金が儲かったり成功はしていない人だろうねえ。どうにかメシを食って…。新選組にしたって、結局、支店を出すという発想はなかったわけだからねえ。まとめるだけで精一杯。命がけで闘ったし、強かっただろうけど、倒産する会社にくっついてしまっては…。とはいえ、長生きしなかったからこそ、価値の出た男だからねえ。面白いドラマを見せてくれたけれども、調布で農民になっていた方が幸せだったかもしれないと思いますよ」

甲陽鎮撫隊として甲府に向かう途中、地元に錦を飾る近藤。宴会に継ぐ宴会で隊列は遅々として進まず…。



膨大な資料に囲まれた水木さんの仕事場。ここで水木流の近藤勇と新選組が誕生した!



近藤勇五郎らによって板橋の処刑場から遺体を掘り起こされ、調布へ向かう場面。水木さんならではの緻密なタッチが臨場感を漂わせる。





祝！秋の叙勲 旭日小綬章受賞!!

嗚呼、あこがれの水木サンになりたい！

「のん氣にくらしなさい」、「なまけものになりな
い」、「少年よ、がんばるなかれ」…最高です！水木
生！　束縛を嫌い自由気ままに生きる"水木サ
（先生はご自分のことをこう呼びます）"の生き方
そ正真正銘のスローライフ。疲れ切った現代人
目指すべき人は水木しげる先生なのですよ～！

取材・構成／西原大吾　佐藤新　坂
撮影／梅原渉　佐

〝水木サン〟は生まれた時から〝我が道を行く〟だったんですよ

インタビュー・構成／西原大吾
撮影／梅原渉

水木先生の生き方に、勝手に憧れ押しかけてしまったボク。先生からのんびりスローライフを教わろうと考えていたのだが。現実は厳しかったのだ。先生の生き方はとっても素敵。だがボクのような若造には…

「のん氣にくらしなさい」という水木先生の言葉を聞いて、まず頭に浮かんだのが〝スローライフ〟。「それ流行ってるぽいよね。それにとっても楽ちんそう」などと、何より楽なことが大好きな小生（32歳）は、ヘラヘラと水木先生に会いにいってしまったのです。先生、のんびりな生き方教えてっ！

「水木サンは、ベビーの時からね、自分の好きなことしかしないたちだったんですよ。先生だとか尊敬する人はいろいろいたけど、言うことを聞かない〝我が道を行く〟ベビーだった（笑）。だから兄弟の中で私だけ幼稚園に行ってない。なぜ行かないのかというと、朝寝るのが好きなんですよ。小学校1年の時もダメでしたよ。1時間目は起きられないから2時間目から学校へ行くんです。最初はあんまり遅刻するんで立たされていたけどね、本人はわりと平気なんですよ。なので、1時間目に授業のある算数はぜんぜんできなかったね。そういう呑気さはダメだといさめる大人もいたけど、水木サンは全然聞かない〝我が道を行く〟なんですね」

幼き頃の先生のエピソードだが、恐るべきマイペースぶりだ。ボクなんか、立たされるのが怖くて、とても遅刻なんかできない。楽はしたいくせに、怒られる覚悟は無いのだ。そんな覚悟の無いダメ人間のボクでも、どうすれば幸せな人生をおくれますか先生？

「人が幸せになるにはどうしたらいいのか？　それは人間が知恵を絞って研究しても分からないよねぇ。水木サンの場合は上手くいった感じですけど、それは頑固に〝我が道を行く〟からなんですよ。嫌いなことはしない訳だから、好きな絵で飯を食うんです。好きなことで飯を食うから、あんまり不満が無いのかな。嫌いなことをしながら給料をもらっている人も、たくさんいるかもわからんけど、そういう人はやっぱり病気になりやすいんじゃないですかねぇ。ガマンし過ぎて、お腹の辺たりにしこりが出来ちゃうんじゃないかなぁ。そういう人は、私が見ても真面目すぎるんじゃないかなと思うな。私は不真面目だったからね。だから学校の成績が悪くても別に気にしなかったんですよ。普通の人は、成績が良かった悪かったで大騒ぎするでしょ。それが無かったから勉強もしなかったね。兄貴は勉強していて、成績も一番だったから、後は総理大臣になるんじゃないかと言われていたんですよ（笑）。でも、今は私が面倒を見ているからねぇ」

最初、妖怪マンガのイメージもあってか、ボクは水木先生は仙人のような人だと勝手に想像していた。ところが、先生は世間の動きにも敏感だ。

「新聞は3つ取っているかな。新聞読んでいるから世の中で何が起こっているかは大体わかっていますよ。あとはよくテレビを見るからね。テレビはニュースを見ます。ドラマは作り物だから見ない。家内は『宮本武蔵』を見たいと言うけど絶対見せなかったですね。今度の大河ドラマは『近藤勇』やるんでしょ。そういえば、12月19日に私が描いた近藤勇のマンガが出るんですよ」

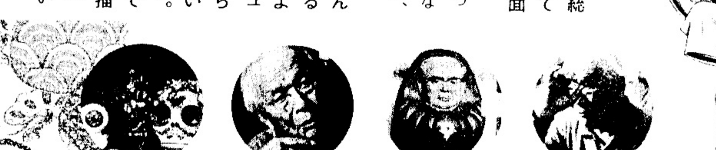
と水木先生。本当にしっかりしていらっしゃる（笑）。



ゲゲゲの鬼太郎『見上げ入道』に登場するガキ大将。好奇心から妖怪を目覚めさせてしまう。この行動力は幼き先生がモデル？









水木サンの八十余年の歴史

◎構成／坂道明

◎一九二二年（大正十一年）　0歳
3月8日、大阪府西成郡粉浜村（現・住吉区東粉浜3丁目）に誕生。1カ月後、父母の実家、鳥取県境港市入船町に帰郷。4歳になるまで言葉をしゃべらず、第一声は「ネンコンババ」（猫の糞）。

◎一九二八年（昭和三年）　六歳
元お手伝いの〝のんのんばあ〟から、妖怪譚や不思議な話を聞く。小学校時代のあだ名は〝ゲゲ〟

◎一九三五年（昭和十年）　十三歳
絵の才能を発揮し始め、毎日新聞に「天才少年画家あらわる！」と紹介される。卒業後、図案職人見習いとして就職するもすぐクビ。でも気にせず。

◎一九三九年（昭和十四年）　十七歳
日本美術学校（現・芸大）の受験資格を得るために、大阪府立園芸学校を受験。しかし51人中たったひとりだけ不合格に。この頃ゲーテに興味を持つ。

◎一九四三年（昭和十八年）　二十一歳
召集令状届き、激戦地ニューブリテン島（ラバウル）に配属される。翌年、空爆で左腕を失う。ナマレの野戦病院に移されトライ族と親しくなる。

◎一九四六年（昭和二十一年）　二十四歳
浦賀に引き揚げ。闇米の買い出し、魚売りなど様々な職を経る。'48年、武蔵野美術学校（現・武蔵美）に入学。翌年、神戸で宿泊した100万円の借金付き安宿を20万円の頭金で購入する。

◎一九五十年（昭和二十五年）　二十八歳
アパート経営を始める。水木通りにあったので、〝水木荘〟と名付け、ペンネームの由来となる。ストリッパーや国際ギャング団などが住人に。加太こうじと知り合い、紙芝居画家を始める。

◎一九五七年（昭和三十二年）　三十五歳
紙芝居に見切りをつけ、単身上京。翌年、漫画家デビュー作「ロケットマン」が刊行される。

◎一九六十年（昭和三十五年）　三十八歳
鬼太郎の誕生編を描いた「墓場鬼太郎」を発表。

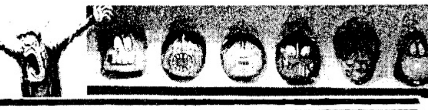
◎一九六一年（昭和三十六年）　三九歳
結婚し、現在の調布に住む。「河童の三平」「悪魔くん」を発表。'64年創刊の「ガロ」でも活躍。

◎一九六五年（昭和四十年）　四十三歳
「少年マガジン」に「墓場の鬼太郎」を連載。「テレビくん」で講談社児童漫画賞を受賞し、超売れっ子に。

◎一九六八年（昭和四十三年）　四十六歳
アニメ「ゲゲゲの鬼太郎」放送開始。

◎一九九六年（平成八年）　七十四歳
境港市に「水木しげるロード」が完成。

◎二〇〇三年（平成十五年）　八十一歳
3月に「水木しげる記念館」、10月に調布市「鬼太郎茶屋」オープン。11月、旭日小綬章を受賞。



軍隊の食事より村の食事のほうが美味しかったね

〃我が道を行く〃を実践される先生だが、しかし戦時中は最前線のラバウルに配属され、米軍の爆撃を受け左腕を失ってしまう。送られた後方の基地で先生は、ある人々と出会う。それは…。

「後方では、手足の無い者をこき使うわけにいかんから、私にも時間的な余裕があったんだねぇ。そこで現地人の村に入り浸っていましたね。村の食事はバナナの葉に芋とかを包んで蒸し焼きにしたもので、軍隊の食事より村の食事のほうが美味しかったね。だから私は入り浸っていたわけですよ。日本の兵隊たちは、彼らを怠け者だと軽蔑していたけれど、現地人たちは逆に兵隊たちを軽蔑していましたよ。バカみたいに働くということをね。ただ私は彼らをバカにしていなかったので、すっかり身内のようになってしまったんですよ。だから終戦で日本に帰るとなると、酋長や婆さんが出てきて、家も畑もやるから、日本軍を脱走してこいという。あまりに彼らが熱心だったんで軍医に相談すると、一度日本に帰って、両親の顔を見ろと言うんです。もっともだと思って帰国したんですが、マッカーサーに占領された日本からは出国できなかったんだよ」



ゲゲゲの鬼太郎『妖怪七人の侍』には、こんなのんびりした妖怪が。その名も南方妖怪チンポ！　南国っていいなぁ。



すごい行動力だ。知らない土地で、知らない人々と、ここまで交流できるなんて。さらに話は続く。

「向こうでは、小山の頂上にそれぞれ集落があって、山の斜面は畑になっているんですよ。食事時になったら畑に降りて行って、食料を取ってくる。気候も年中一緒だから放っておけば作物もすぐ育つんだね。だから山の上の生活というのはとても楽なんだねぇ。自然が上手く彼らを養っているんですよ。水木サンは冬が苦手なんだけど、向こうは気候が良いから年中裸で暮らせるし、生活も日本と比べてとても呑氣なんだね。そういう緑が豊富な所にいるとノンビリした心境になるのかな。だから南方の生活は幸せですよ」

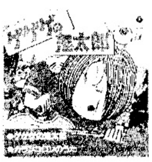


先生は世界中に面白い物を捜しに行く冒険家だ。幼い頃野山を駆け回っていたのが、今は世界になっただけだというのだ。中でも印象に残っているのはイースター島やネパール。中でもメキシコはお気に入りのようだ。その魅力って何だろう？

「なぜメキシコに行くのかというと、ヨーロッパやアメリカとはぜんぜん違う文化があるからです。絵とか彫刻とか、ヨーロッパ文化のものとはまったく違う。私は面白いと思ってるね。やっぱり、メキシコの大胆な、魂を揺さ

名曲“ゲゲゲの鬼太郎”に歴史アリ

アニメ『ゲゲゲの鬼太郎』の主題歌は、アニソン史に燦然と輝く国民的名曲。しかも、アニメ版・鬼太郎はこれまで4回制作され、数多くの歌手によりこの主題歌は歌われている。まず'68年に白黒で第一作がスタート。このとき主題歌を歌ったのは熊倉一雄だ。第二作は第一作をカラーでリメイクしたもの。主題歌も熊倉一雄が歌う同じものだが、この時、他にてんぷくトリオと、声優の滝口順平が歌う2バージョンが発売されている。さらに'85年スタートの第三作の主題歌は、CMでお馴染みの演歌歌手、吉幾三。そして、'96年の第四作では、日本屈指のブルーズミュージシャン、憂歌団が主題歌を担当。ちなみにこの曲の作詞は水木先生ご本人。



▲滝口順平バージョン。滝口氏はドクロベエ様で有名な声優だ



▲故三波伸介が在籍したてんぷくトリオが歌うゲゲゲの鬼太郎

水木サンの第二のふるさと調布へGo！

鬼太郎茶屋探訪記

憩いの小空間で水木ワールドに浸る

◎取材・撮影／佐藤新



11月某日、京王線調布駅。鬼太郎ら妖怪たちの像が飾られた「天神通り商店街」をのぞいた後、深大寺行きのバスに乗る。15分ほどで目的地に到着。寺に向かう人々を出迎えるように、その店はあった。



その数日前、「水木しげる特集をやるから探訪記を書いてくれ」と仕事の依頼が。「というと、鳥取ですか」。水木先生の故郷、鳥取県の境港市には記念館があったはずだ。「いや、そんな予算はないので調布へ」。水木先生が40年あまり住んでいる調布市にオープンした、「鬼太郎茶屋」を取材してこいとの指令であった。



茶屋外観。お約束の顔出し看板もある





で、茶屋である。蕎麦屋を改造したという2階建ての建物は、落ち着いた風情だが、屋根の上の下駄が思いっきり目立っている。庭には妖怪たちの像。ん？よく見ると木の上に鬼太郎ハウスがあるではないか。幹に下駄も。芸が細かいなあ。店に入る。1階はお茶や甘味が楽しめるお座敷と、グッズショップがある。お菓子、カップやお皿、キーホルダーにストラップ、Tシャツにフィギュアなどなど、各種グッズがズラリ。境港の地ビール「鬼太郎ビール」や、水木先生の著作、鬼太郎の原作マンガもそろっている。遊び心にあふれた品も多くて、なかでも「ふりかけばばあ」には笑った。ごま&のり味と、ごま&キムチ味があるそうです。あと、目玉おやじの大活躍（？）は予想以上だった。目玉餅に目玉キャンディー、クッション…。ま、シンプルで特徴ありすぎのキャラだから、商品化しやすいんだろう。それと、キャンディーがブルーベリー味ってのも気が利いていていいですね。目にいい目玉ってことで。



売り場一しシーと“目玉”多し　グッズ売り場はファンシーな小物と“目玉モノ”多し





ぶるような太い線なんかは魅力的なんですよ。ラバウルの人たちもメキシコのような彫刻を作るけれど、メキシコのほうがもっと上手ですね」

そして水木先生は、メキシコの"世界一貧乏な村"の話をしてくれた。

「メキシコ人は極端な表現が好きなんですね。行ってみたらそれほど貧乏じゃない。住んでいる人たちも割りと呑氣で幸せなんですよ。メキシコで"世界一貧乏"なんていうと、本当にそんな気がしてしまうんですけどね（笑）。あれはあれで魅力的なんですよ」

"呑氣"って素敵な言葉だなぁ。ところで、先生は妖怪に出会うために旅行に行くと言われているのですが？

「今は妖怪を商売にしているでしょ、妖怪を感じる旅にしないとマズイですよね（笑）。女の人のスカートの下をとは言えませんよねぇ」



貸し本マンガ家なんて危険な商売をしていた

すっかり、先生の世界の話に聞き入ったボクは、のんびりとは、こういうことなんだとちょっと納得。ところが話は急展開。

「私は、貸し本マンガ家なんて危険な商売をしていたけど、それはお金でハラハラしなきゃいかん商売。お金もらえるかもらえないかは生死の問題だからね。貸し本時代はそういう危険な匂いだけを感じ取ってやってましたね。常日頃からカスカス状態で、嗅覚が極端に発達するんですよ（笑）。だからお金払えない貧乏本屋は下を向いているんですよね。マンガ家は貧乏な連中ばっかりだったから、ちょっと支払いが遅れただけでも殺されかねない勢いですよ。でも、あまり詰め寄って嫌われたら、今度は仕事を切られちゃいますよね。だから適当に言わなくちゃいけない（笑）。マンガの世界は誰も保証してくれないから、水木サンはよく生きてきたと思うね。編集は勝手に切るんです、相手の生活なんて考えることはないね」

ここで、編集Hがいたたまれなくなったのか、先生に謝り始めた。一方、先生の言葉が発せられた瞬間、その場にいたフリーランスもいっせいに編集Hに視線を、気持ちは先生と一緒だ。

「編集は切れ味いいからねぇ。でも切られる緊張でうち震えるぐらいじゃないとダメですね。平気でおっちゃ。そういうことに鈍感なやつは、案外早く消えて行くんですよ。ダメになっていった人いっぱい知っているから、マンガの世界は恐ろしい世界だなと思いますよ」





ゲゲゲの鬼太郎『おどろおどろ対吸血鬼』には、貧乏ゆえに妖怪の甘言にのり、食べられそうになるマンガ家が

水木サンのルーツは"アンデルセン"にアリ

水木先生が、幼い頃から妖怪話に親しんでいたことは有名ですが、実は同様に夢中になっていたのが、アンデルセンやグリム童話、アラビアンナイトだったとか。小学生向けの童話全集を何度も読み返し、16歳の頃には、グリム童話を基にしたオリジナル絵本を何冊も制作している。やはり、ダークな色合いが濃いグリム童話が一番好みなのかと思えば、先生いわく「アンデルセンが好きなんです。『人魚姫』とかね。情緒があるでしょ、アンデルセンは」とのこと。童話作家を目指さなかったのは「だって、儲からんでしょう、童話は」。ごもっともです。


水木しげる記念館で見ることのできる、水木版『白雪姫』。淡い色使いが絶品




同じくグリム原作の、「ルムペルシュティルツヘン」。ぜひこのまま刊行して欲しいぞ



2階に上がる。ここは「妖怪ギャラリー」だ。足を踏み入れると目を引くのは、畳の上に鎮座している大きなガラスケース。なかには日本地図があり、各地にご当地妖怪のフィギュアが置かれている。訪れた方は、自分の出身地付近にどんな妖怪がいるか確認してみて下さい。地図の周囲には妖怪のフィギュアが並び、水木先生の原画も展示されている。ライトアップされたフィギュアはすべて、緻密で重厚な逸品ばかり。鬼太郎や河童の三平のフィギュアもある。あれ、「水木しげる」も。水木先生は妖怪ですか。妖怪かもなあ。

ギャラリーから外に出ると、そこは「癒しのデッキ」。ほどよく茂った木立、眼下には池。気持ちよい風が吹き抜ける。テーブル、というかちゃぶ台には「ごゆっくりお休み下さい」と書かれた札。椅子に座り、ボーっとする。ああ、確かに癒される。このまま眠ってしまおうか……。いやいかんいかん。一応、取材で来てるんだから。室内に戻り、視線をめぐらすと、襖に「のぞいてみてね」と書かれてあるのを発見。その下の穴をのぞくと妖怪・油すましが見えた。ほかにも12月11日発売のGBA用ソフト「ゲゲゲの鬼太郎 危機一髪！妖怪列島」の試遊台が設置されていて、決して広くないスペースを、趣向を凝らして有効に使っている。階段の壁に「かべにご注意 さわるとくずれて妖怪が出ます！」なんて札が貼られていたことにも感心した。

1階に降りて座敷へ。お品書きには、「目玉おやじの粟ぜんざい」（500円）、「塗り壁みそおでん」（350円）などの愉快な品々が並ぶ。何にしようか迷った、というのはウソで、素早く鬼太郎ビール（600円）を注文。「一反もめんの刺身こんにゃく」（350円）を肴に一杯やる。うまい。たちまちいい気分である。ふと棚を見ると、境港の地酒が置かれていて、そのなかの一本に水木先生筆のラベルが張ってある。酒の名は「のん氣にくら

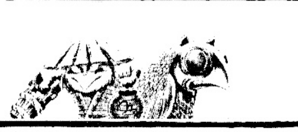

癒しのデッキはボーっとするのに最適




妖怪地図。砂かけ婆は兵庫出身です




一反もめんを肴に、ビールで乾杯！



若い頃は死にもの狂いで働きなさい！

あまりにシビアな先生のお話に、スローライフなんてすでに忘れかけているボク。生きていくって、サバイバルなのだ。だが先生は、いつ切られるかとビクビクしなくても良い方法があるという。その答えはいたってシンプルで当然のことだった。

「それは本の売れ行きが大事なんです。どんなにマンガ家が屁理屈言ったって通らない。本が売れれば少々偉そうにしていても通るからなぁ。売れる人はどこ行ったって売れるわけだから、それは当たり前ですよね。本が売れなくなって食えなくなったマンガ家たくさん知ってます。それでもマンガ描きの地位を確保しようとするんだね」

こんなサバイバルなマンガの世界で、長年に渡り第一線で活躍される水木先生は、その秘密を教えてくれた。

「マンガはストーリーが大事なんですよ。マンガ描きの人はストーリーが弱い人が多いんです。小説なんかぜんぜん書けない人が多いですから。ある程度、いろんな事に興味を持って、本を読んだりしゃべったりしていないと、面白いマンガは書けないんだよ。それを上手な画を描けば金になると錯覚して、みんなマンガの世界に入ってきちゃうんです。水木サンは、初めは画家になろうと思っていたけど、ストーリーも多少出来たから、途中で画家よりもマンガ家の方が面白いと思ったんです。『悪魔くん』とか『河童の三平』『ゲゲゲの鬼太郎』は、全部水木サンの発明ですから。自分で発明したものだから、面白がってマンガを描けるんですよね」



先生から、生きて行く厳しさを、たっぷり聞かせてもらったボク。しかしここまで来た以上、これは聞かねばなるまい。「のんびり生きるにはどうすればいいですか？」

「生きるためには、どうもこうもないですよ。働かにゃならんから。結局、楽して金持ちにはなれないんですよね。人よりも重い石を担ごうという気持ちにならんとダメなんですよ」

しかし、先生は色紙に『のん氣にくらしなさい』と書いているではないか。先生のおっしゃることが分からなくて困惑するボク。すると。

「呑氣に暮らすのは中年から上の人ですよ。若い時は働かないと。若い時から呑氣にやっちゃうと〝自殺〟しかないですよ。結局はね、若い時は怠けたいんだけど、実は一番働かなきゃいけない時のようですなぁ。若い時ノンビリ怠けて幸せだ、てなことを言ってる人は気の毒なほどみんな貧乏なんですよね。若い時は身を粉にして働いていたほうが、幸せになっているような気がしますね。だから若い時からあまり幸せを欲しがっちゃイカンよ。死に物狂いで働く気持ちを持てば、後で幸せになれるんじゃないですか」



つまり、のんびりできるのは、きっちりやる事をやった人だけだという。ただ楽に生きたいというだけで、何もしていないボクは問題外なのだ。それにしても、水木先生はスケールがでかい。人生を楽しむ達人だ。そんな先生は、最後にボクにこう言ってくれた。

「色々なものを面白いと感じたり驚いたり喜んだりする感受性があればいいんです。面白いと思った人生なら、どんな人生でも苦にならないはずだよ」



ゲゲゲの鬼太郎『つきもの』では老後の不安からギャンブルに手を出しひどい目にあう男が。楽してはもうからず！

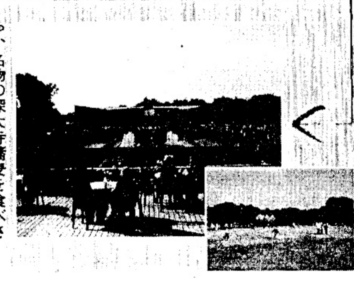


●水木先生からありがたいお言葉をいただきました〜。貴重な色紙を読者の方1名にプレゼント！　のん氣にくらしたいそこのアナタ！　今すぐ応募を（応募方法は左のプレゼントコーナーにあります）。

お寺と植物園にもお寄りなさい

しなさい』。そういえば、表の看板には「なまけ者になりなさい」と書いてあったっけ。そうだよな、仕事なんかしてちゃいかんよ。もう一本ビール頼んじゃおうか。いやこの際だ、境港に行こう。予算がどうしたってんだ、自腹上等ですよ。ええ。そんで水木しげるロードを歩き、水木しげる記念館を見て、地酒をたらふく呑むのだ。そしたら、締め切りがどうしたとか、細かいことにこだわらない人物になれる気がする。よし行くぞ、ついでに境港探訪記も書くぞ。乞うご期待！　掲載日は未定。

ということでお送りした鬼太郎茶屋探訪記。ぜひ訪れてほしいのだが、せっかく行くなら、深大寺も訪ねましょう。ここは、都内では浅草寺に次ぐ歴史を持つ古刹。起伏に富んだ境内は至るところにうっそうとした木が生い茂り、実にいい風情。お寺周辺の土産物屋や、名物の深大寺蕎麦を食べさせてくれるお店にも寄るべし。



深大寺に隣接する神代植物園も、有料だが（大人500円、65歳以上250円、中学生200円、小学生以下、及び都内在住、在学中学生は無料）、訪れる価値あり。東京ドーム10個分ぐらいの広大な敷地に、バラ園、大温室、つつじ園、大芝生などがあり、美しい植物を愛で、香りを吸い込めば、ストレスも吹き飛ぶだろう。寺をお参りし、蕎麦を食い、鬼太郎茶屋で一杯呑み、植物園を散策し、酔いが回ったら大芝生で昼寝、ってコースはどうでしょうか。これから寒くなるんで昼寝はアレですが、たまにはそんな、日々の雑事から解放された一日を送るのもいいかと。できれば毎日そうやって、のんきに暮らしたいですなあ。





■鬼太郎茶屋　深大寺店
住所：東京都調布市深大寺元町5-12-8
TEL/FAX ：0424-82-4059
営業時間：Am10:00〜Pm5:00（月曜日定休）
交通：京王線調布駅・つつじケ丘駅から
「深大寺」バス停下車　バス停横
「深大寺入り口」／「深大寺小学校」下車徒歩３分



水木翁をめぐる人々

◎ここでは水木先生の幅広い交遊関係をご紹介。かくも多くの人から慕われるのは、水木先生の人徳ですねえ

構成・坂道 明

作家

京極夏彦

水木しげるの弟子を自称する妖怪小説家



脚本や、水木&京極対談が掲載された「解体新書」

'94年に「姑獲鳥の夏」で衝撃的なデビューを飾った"妖怪小説家"京極夏彦。弟子を自称するほどの水木ファンとしても知られ、書斎には貴重な水木本コレクション部屋があるほど。'97年12／28放送の「ゲゲゲの鬼太郎」第101話『言霊使いの罠!』には、脚本及びゲスト声優として参加している。黒衣の陰陽師"一刻堂"に扮し、鬼太郎に対しておなじみの決め台詞「この世に不思議なものなどない！」をシブく言い放つのだ。その堂に入った演技はプロ声優顔負け。水木＆京極ファンは必見です。

荒俣宏

その正体は、正義のヒーロー、タイヤキマン！



荒又先生が世を忍ぶ仮面を外すと真の顔が現れるのだ

当代随一の博物学者も、水木先生を深く尊敬するひとり。バリやニューギニアなどへの妖怪フィールドワーク旅行に何度も同行している。また、水木漫画のキャラクター"荒又コリャマタ"氏としても登場。書物の山に埋もれる博覧強記の荒又先生は、実は額に３次元の目を持つ正義のヒーロー"タイヤキマン"であり、水木先生や世界の危機を救うため、ねずみ男の陰謀などに颯爽と立ち向かったりするのであった。その活躍は、小学館文庫「妖怪博士の朝食」全２巻におさめられているのでご堪能していただきたい。

井村君江

「ハリポタ」や「ロード・オブ・ザ・リング」などのヒットで、にわかファンタジー・ブームの現在ですが、そのはるか以前から、妖精について研究していた第一人者。'90年に井村の案内で、妖精譚の故郷アイルランドを訪れた水木先生は、生まれて初めて"英国の紅茶"を飲んだそうです。

大泉実成

「消えた漫画家」シリーズなどで知られるルポルタージュ作家。水木先生とともに、世界各国を探訪した「水木しげるの大冒険　幸福になるメキシコ」「精霊の楽園オーストラリア（アボリジニ）」「水木しげるの妖怪探検　マレーシア大冒険」など、一連のシリーズでの2人の珍道中ぶりは楽しい。

呉智英

「マンガ狂につける薬21」など、多くの著書を持ち、鋭い舌鋒で活字、漫画の区別無く活躍する評論家も水木先生には縁が深い。学生時代から水木プロに出入りし、資料整理などのアルバイトをしていた経験を持っている。応接室に掲げられた『面談30分！』の張り紙にビビッたそうです。

つげ義春

ねじ式meets鬼太郎 つげ名作誕生秘話



多くの有名漫画家が水木先生のアシスタントを務めているが、その筆頭がつげ義春。'66年に「ガロ」編集長の長井勝一の仲介で水木プロに入社し、4年間在籍。当時の日当は水木先生の給料1日分と同じ2千円で、週に3日ほど通う破格の待遇だったとか。また驚くことに「李さん一家」「ねじ式」「もっきり屋の少女」など、つげ漫画の代表的名作の多くがこの時期に描かれている。画風においても、水木作品に影響を受けているのは一目瞭然。

調布在住の水木先生とはご近所同士でもある。

加太こうじ

'50年代「黄金バット」などで大人気を誇った紙芝居作家。水木先生は当時、色塗りなどの手伝いをしていた。その後、加太のツテで貸本漫画の世界へ転向するわけで、漫画家水木しげるの影の生みの親といえる存在です。

佐野史郎

ラヴクラフト・マニアとしても有名な、個性派俳優として知られるこの人も、水木先生の熱狂的ファンを自認。平成版アニメ「ゲゲゲの鬼太郎」の第57話『吸血エリート！』では、エリートの声を演じて話題に。

元アシスタント

池上遼一

水木プロで磨かれたリアル劇画タッチ



水木先生の影響を探しながら再読すべし！

意外に思えるが、「男組」で知られる池上遼一も水木プロ出身。つげ義春の半年後に入社しており、当時22歳の池上にとって、水木先生やつげは"憧れの存在"だったとか。つげに対して生意気な口のきき方をした新入りアシスタントを怒鳴りつけた、というエピソードも。人物専門だったつげに対して、新米の池上はあの銅版画的超細密背景を担当していた。ちなみに、水木先生は池上の声を「空気の抜けたカステラのような声」と形容している。どんな声だ？

鈴木翁二

独自の世界を描く孤高の天才も水木先生門下



オージ的としか言いようのない世界が魅力

「ガロ」を中心に活躍し、その独特の画風と郷愁と幻想にあふれた叙情的世界でカルトな人気を誇る鈴木翁二も、水木プロの釜の飯を食っている。水木先生が「奇妙キテレツなやつばかり」というアシスタントの中でも、鈴木は群を抜く相当な奇人だったとか。水木先生いわく「この天才（？）は絵が下手なのが玉にキズ」とか。

その他

手塚治虫

水木先生の才能に漫画の神様が嫉妬？



角川文庫の「悦楽」などで読めます

才能ある漫画家を大人げないまでにライバル視したことで知られる手塚治虫ですが、水木先生もその"被害"に遭われたひとり。短編『一番病』は、そんな漫画の神様を痛烈かつ軽妙に皮肉った作品として有名。日本一のカンオケ職人になるために、過労で倒れてもカンオケを作り続ける男・徳兵衛の物語で、「カンオケなんて金魚の糞」と言った水木先生を思わす職人に殴りかかるシーンもあったりして。ぜひ一読を。

Presents



妖怪占いピンズ（鬼太郎／目玉おやじ／猫娘）各1名

Tシャツ（子供用Mサイズ・鬼太郎／目玉おやじ／一反もめん）各1名

水木先生直筆サイン入りねずみ男フィギュア　1名

ねずみ男トコトコキーホルダー　1名

●応募要項

a～hのプレゼントと直筆色紙をご希望の方は、ハガキに住所、氏名、年齢、電話番号、この特集の感想、希望商品名を明記の上、〒104-8004　テレビブロス「水木サンになりたい！」係までご応募ください。締め切りは12月5日（金）必着です。

ゲゲゲの鬼太郎がゲームで復活

12月11日、コナミから鬼太郎のゲームソフトが、一挙に3本リリースされる。GBA用ソフトの「ゲゲゲの鬼太郎　危機一髪！妖怪列島（4980円）は、日本各地のボス妖怪を倒しながら物語を進めていくアクションRPG。PSの「～逆襲！妖魔大血戦」（3980円）は、画面上に次々と現れる妖怪を退治しながらステージクリアをめざすアクションゲーム。そしてPS2の「～異聞妖怪奇譚」（6800円）は、鬼太郎と仲間たちを操って妖怪と戦う戦術シミュレーション。3作とも原作の雰囲気を再現しているので要チェキ!



ゲゲゲの鬼太郎 異聞妖怪奇譚

水木サンの故郷 鳥取県境港情報

水木先生の故郷・境港市には、鬼太郎ら妖怪たちのブロンズ像が並ぶ「水木しげるロード」がある。オープンは'93年7月。当初23体だったブロンズ像は年々増えていき、現在では86体。ロードの総延長は800mに及び、ロード沿いには「妖怪ポスト」が置かれた店もある。ロードを抜けると、そこには'03年3月開館の「水木しげる記念館」が。人間・水木しげるとその作品、そして妖怪の世界をさまざまな展示品と映像で紹介している。



2003年11月22号
東京ニュース通信社刊「テレビブロス」掲載

【いざ鎌……じゃなく記念館！】

Y之内　何だか「縁」を感じますねぇ
N宮　「えにし」ってなんですか？
俺様　知らんのか？無知な奴め。ほら、あの田圃にいる巻貝…
Y&N　それは『タニシ』だ！
俺様　信州の方では佃煮にして……
Y&N　ウルセェよっ！（怒）

いよいよその朝が来た！朝飯は昨日の残りのケーキというのが気になるが、格安で御世話になったお礼の気持ちを込めながら部屋の片付け。

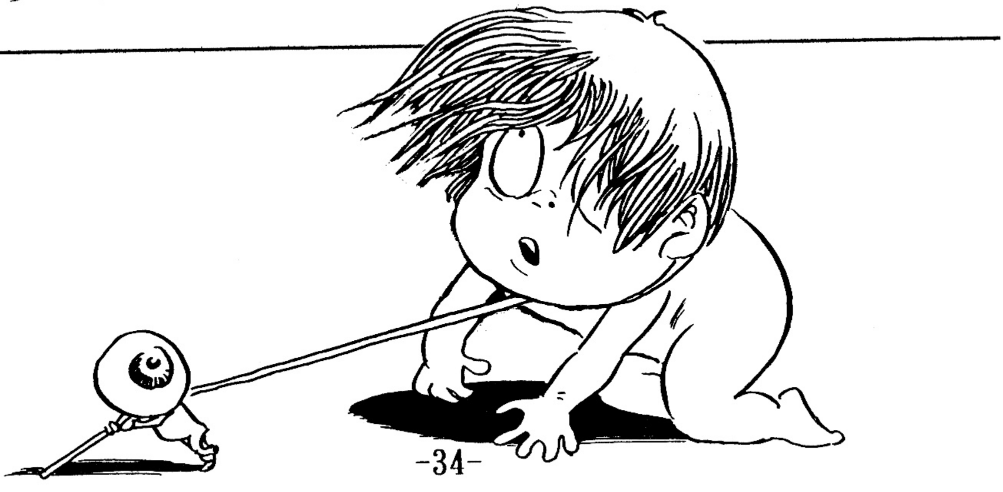
別に水木先生に直接お会いできるわけではないが、この日の為に必死にチョイスした水伝Tシャツと水伝EAST特製のベンチコート（非売品）で精一杯のお洒落をきめる。末席とはいえこれでも水木伝説の準嘱託地方会員見習い補佐の肩書きを背負う俺、丹頂チックでまとめる髪型にもついつい気合いが入ろうってモンだ。

地元の朝刊をチェックすると、いやー、さすが載ってる載ってる載ってる！昨夜の前夜祭も地元ローカルTV局どころか夕方の全国ニュースでトップ報道されたくらいだったから、当然新聞にも載るだろうとは思っていたが、地元鳥取の新聞よりも全国紙の方が大きな扱いをしておりました。さすがは水木先生、既に世代を超えた偶像として認知されてます。

またもや管理人さんの御好意に甘えてしまい、夕方帰路につくまで荷物を預かっていただくことにし、朝イチとは思えぬテンションでいざ会場へ！

にしても、どうせオープニングセレモニーやら何やらで簡単には入場させてはくれないだろうが、一旦中に入ったら人込みと興奮で体温は急上昇間違い無しと予想し、特製ベンチコートを羽織って来たのだが、この十数分後「大正解！」と思い知らされる程の極寒地獄が待っていようとは……この時点ではテンで気付いていない脳天気な一行でありましたよ。とほほほ………





雲ひとつない青空からミゾレ混じりの雨がそぼ降るという、まさに開館記念日にぴったりな水木日和の中、記念館のゲート前は異様なオーラというか、同じ志向性を持つマイノリティー同志でのみ共鳴しあう「凄くイヤな」テンションで既に暴発寸前であった。

其処は昨夜と違う、早い者勝ちの弱肉強食的な席取り戦場。決して他所様に遅れをとるような到着時間ではないはずだったのだが、明らかに此処で朝日を拝んだような連中を先頭に既に長蛇の列。昨夜ウーロン茶でチビチビやっていた私を尻目に、美味しそうに盃を重ねていたT明氏でさえ我々の遥か前であった。不覚。

横入りを警戒する皆様から、殺意の籠った熱い眼差しを送られながらT明氏に挨拶しに行く途中、あれっ？何処かで見たような顔が……記憶がその人物の名前を思い出す前に

『Y之内さんじゃないっすかぁ！』

口が自然に動いて彼の名を叫んでいた。お陰で衆人監視に晒された当人は迷惑そうだったが。

ホントにほんと良く覚えててくれたのぉ……昨夜の夜行バスで関西某県から馳せ参じたY之内氏とは水伝サマーツアーやら「タハッ！」やらでコンビを組んで暴れ回った仲。お互いに志半ばにして同人活動から身を引くことになってしまった（注三十八）が、さすがは筋金入りの水木ファン。実に相応しい場所で数年振りの再会となった。

東京有明ビッグサイト等のイベントでのみ、一～二年に一度、しかも運が良い時にしか会えないような友人をお持ちの方には、この再会の喜びや重要性が痛い程に理解していただけるのでは？

久し振りということでお互いに少し照れもあったが、周囲の迷惑も顧みずに再会を喜んでしまい、気付いた時にはいよいよ開場時間が迫りつつありました。

【渡れルビコン河】

まぁ地元にとっても滅多にないような一大イベントなんだから、なるべく勿体ぶって仰々しくしたいというのは解るんだが、いくら何でも辛すぎた。いろんな意味で……

開場時間が近付くにつれ、記念館正面の呉服屋（注三十九）前に地元の子供達が集合し、境港名

注三十八　氏は現在いち水木ファンとして個人的にＨＰを運営中。興味のある方は探してみて下さい。

注三十九　毎夏来てもずーっとシャッターが閉められたままだったので以前の状態を知らんのだが、開館に合わせて改装したんじゃないかと思うくらいに明るく立派な店構え。

物大漁子供太鼓の見事な鉢さばきを披露してくれたのだが、その子達がまた頭に捻じり鉢巻き、サラシに法被、白の半股引きに雪駄というほぼ完璧な夏祭り衣装。粉雪混じりの強風が吹き付けてるのに。

……子供殺す気かぃ！

厚手のコートやスキーウェアで完全防御したはずのオトナ達がガタガタ震えてるだろーが！

見ているこっちが辛かった子供太鼓がようやく終り、やがて其処に居た全ての人々が待ちに待った開館が宣言される時がやって来た。

平成十五年三月八日　午前九時。それは我々水木ファンが歴史の生き証人となった瞬間であった。

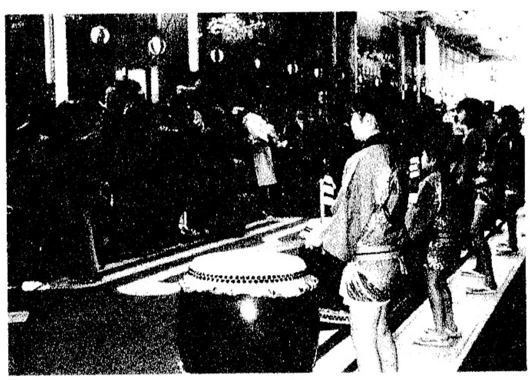
子供達は一目散に控え処の呉服屋に避難。よしよし良く頑張ったね、あとはお兄ちゃんが国連かユニセフかアムネスティ・インターナショナルに通報しとくからね。さぁーて、いよいよ本番御開帳かぁ！と勢い込んで列に戻ると

「続きましてはお待ちかねの……」

「よっしゃぁ！横入りなんかしやがったら狙撃したるぞ！」

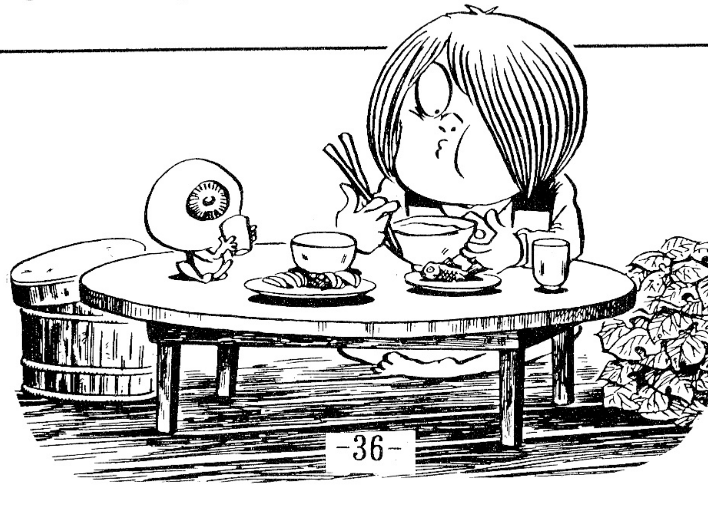
「……名物　境港豊漁荒波太鼓でございます！」

との堂々たるアナウンス。いやぁー、あれだけの人数があれだけ綺麗にコケるのは本場関西でもそうは見れないだろう。



チビっ子相手じゃさすがに野次るのも大人気ないと、頑張るハッピ姿を写真におさめる余裕もあったタワリシチ達だったが、相手が大人じゃ容赦無し。

一心不乱に太鼓を乱舞するオヤヂ達に全員で背を向けるなんて当たり前、殺意に染まった目つきでゲートの向うのアナウンサーやらスーツを着た役人風の爺さん達を睥睨し始めたのだ。出身



地も年齢もバラバラで、互いに氏素性すら知らないタワリシチ達が全員で。
視線で人が殺せるならば、水木記念館は今日から南京大虐殺博物館に衣替えだろう。
そろそろ小声で野次が飛び始める頃、ようやく境港名物フンドシ荒太鼓(注四十)世代別全三部作(注四十一)が終了。
「クッソー、無駄に待たせやがってぇ……」
という思いは皆同じらしく、もはや全員、試合直前の土佐犬状態。
「ハイどうもぉー!境港の…伝統行事……保存会の皆様の……云々、」
褌オヤジに疼いてしまうレインボー野郎は大喜びだっただろうが、少なくとも記念館を見に来た私にはどうでもいいイベントだったため、クソ長い解説も馬耳東風。
何で記念館に入ろうとしているだけで、こんなに疲れなければならないのかよく分からなかったが、ゲート前に並んだ全員がもはやグッタリ。しかし、
「本日全国よりお集りいただきました水木先生のファンの皆様、そして関係者の皆様、お寒いなか大変お待たせいたしました。いよいよただ今より『境港水木しげる記念館』開館記念式典セレモニーを始めさせていただきたいと思います!(注四十二)それではまず初めに……」
まさに明けぬ夜はなく、溶けぬ雪はなしの格言どおり、忍の一字がいよいよ報われる時がやってきたのだ。
「やったー!キャァーホォーホホホ~!」
やけに水木チックな叫び声を挙げたゾンビ達が、今まで何処に隠してたんだ?というくらい大量なカメラを一斉に構えると
「……市長より開会の御挨拶をいただきます。」

報われてねーじゃん! 全っ然!

その後も梅谷陽治館長さんやら文化ナンチャラとかいう役人共が、入れ代わり立ち代わりに祝辞を垂れ流してたのだが、勿論そんなもの記憶に残るはず無しっ!(注四十三)

注四十　何?さっきと呼び名が違う?気にするな、とにかくこっちは寒くて気を失いそうだったんだ。

注四十一　オドレはどっかの一大スペクタクルファンタジー映画かぁ?

注四十二　今までのは記念式典じゃなかったんかい!

注四十三　ひょっとすると祝辞のメンバーが違うかも知れないが関係各位には御許しいただきたい。とにかくこの時の事で覚えていることはフラストレーションが暴発寸前だったことくらいだ。

だいたい実を言うと、この時点でゲートの遥か向こう、記念館入り口には御大が立ってらっしゃって、時々お偉いさんの間からチラチラ見えたり見なかったりしていたのだ。

最初のうちこそ皆シャッターチャンスを狙ってゲートにへばり付いたり背伸びしたりジャンプしたり……先生がチョット動いただけでも黄色い歓声があがって大騒ぎだったのだが、いつまで経っても水木先生は人垣の向う側。「おあずけ」ばかりじゃどんな間抜けな犬でも終いにゃ暴れ出そうってモンだ。

最初は周りをはばかって小声だった野次もだんだんとハッキリ聞こえるようになり、此処にいる全員がいよいよゲートを蹴破って雪崩れ込もうかというその時、ついに御大『水木しげる』が壇上中央に堂々登場！

当日行けなかったタワリシチ達のために当日の先生のファッションをレポートすると

頭にコーデュロイのキャップ。色はダークブラウン

少し濃いグレー色の厚手のロングコートに同柄のスラックス

薄いグレー色のジャケットと、その下に黒いトレーナー（注四十四）

ワインレッド地にペイズリー・パターンのスカーフが襟巻き代わり

黒い厚手の靴下に黒い革靴

という御姿でありました。先生シブ過ぎっ！やっぱいくら故郷でも寒いものは寒かったんだろうなぁ……。

「いよいよ先生の挨拶かぁ！こりゃファン代表として一字一句、聞き漏らさぬようにして、レポートせにゃぁなるまいよっ！」

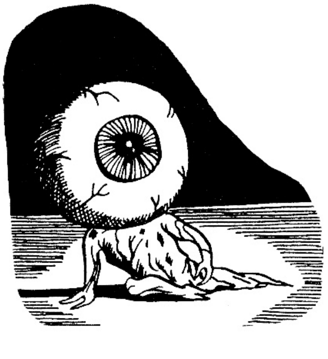
と、溜まったフラストレーションの爆発なのか、黄色い歓声をあげながらシャッターを切りまくるゲート前の泥田坊たちに混ざって、前屈みに拝聴しようとした耳に飛び込んできたのは

「それでは今日の良き日を記念いたしまして……」

おおぉっ？もしかしてゲートを解放してカブリつきで先生の話が聴けるとか？やってくれるジャン！

「……御祝いに地元境港商店街婦人会の皆様によります『鬼太郎音頭』を御覧いただきましょう！　婦人会の皆様はりきってどうぞ！」

注四十四　薄手のセーターだったかもしれません。



はりきってじゃねーよっ！
誉めとンのかゴルァァ！

ゲート前でクーデター勃発。堪え難きを堪え、忍び難きを忍び続けたタワリシチ達もついに堪忍袋の緒が切れたらしく、極寒の潮風が吹き荒ぶなか、怒りの炉心はメルトダウンを起こし始めた。

その怨念は凄まじく、怒髪天を突いたカンデレ達の怒りが天に届くや「あっ」という間に暗雲が立ち篭め始め、白字で『鬼太郎』を染め抜いた、揃いの紺の着物をお召しになった二昔前の別嬪さん達が鬼太郎音頭を踊り始めようとすると、いきなりカラオケコンポがダウン！したかと思ったら今度は小雨がヒョウ混じりの本格的なドシャ降りにっ！

その後、スタッフ達が必死にコンポを復旧させようとしていたが、次に踊り始めたところでついにコンポが小爆発を起こし、哀れ白煙とともに沈黙。

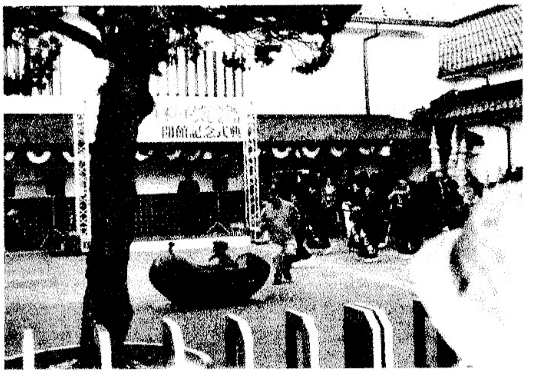
おかげでオバさま達はしばらく手拍子だけで踊っておられたのだが、居たたまれなくなったのかついに途中で引っ込んでしまわれました。

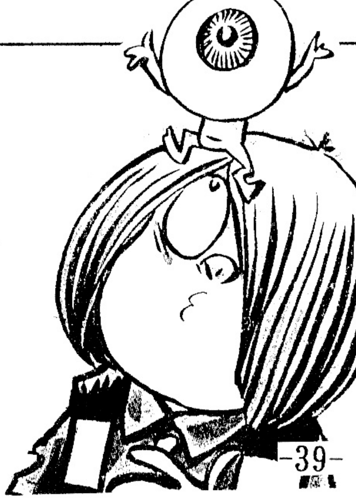
いま考えるとあのオバさま達は何も悪くないし、本場の鬼太郎音頭なんて滅多に観れないんだからかなり残念なことをしたのだが、平常心を忘れた暴徒達はズブ濡れになりながらガッツポーズ。まさに水木ファン恐るべしっ！

普段は社会の片隅に隠れながら、ヒッソリと暮らしているタワリシチ達だが、一朝事あればこのパワーである。

しかし、映画『十戒』も真っ青な天変地異のおかげで一番酷い目にあったのが、何を隠そう水木先生御本人！

何しろ鬼太郎音頭が始まったと同時に降ってきたヒョウのお陰で、壇上に並んでいた人間が全





員、一斉に物陰に逃げてしまったのだが、何と先生は見事に置き去り！先生まで降りたら鬼太郎音頭の群舞がサマにならないからだろうが、誰か避難させろよっ！

それから先生ぇ！歩哨に立ってンじゃないンですから、幾ら何でも物陰に逃げて下さいよっ！ホントに小事にこだわらん御人じゃのぉ……。

とにかく大ブーイングのなか鬼太郎音頭はなし崩し的に中止、そして勝利の大歓声の中、ついにゲートは解放されたのでした。

【先生在る処に嵐あり②】

ズル込みに対する殺気を充満させながら、列は粛々と進み始めた。こんなにアドレリンが過剰分泌したのは、生まれて初めてコミケに行った十八歳の時以来だろうか？もはや興奮で心臓が張り裂けそうだ。

入場料を払うのももどかしく館内になだれ込むと、まずは水木作品のヒーロー達が描かれた巨大イラストが御出迎え。ただ、ヒーロー、ヒロイン達の中心に水木先生が描かれているのは当然として、何でその横にさり気なく「松葉カニ」が？

たぶん私の記憶力が悪いせいだろうが、こんな境港名物「白イカ」と並ぶ、鳥取の名産品が主役を張ってる水木作品って在ったかなぁ？逸る気持ちを最大限押さえ付けながら中二階への階段を上がっていく。

「うーん、いよいよ此処からかぁ！」

等身大の先生のポートレートを左手に見ながら進もうとした時、急に背後から黄色い歓声や怒号や悲鳴が上がったかと思うと、アッという間に人の山崩に巻き込まれた。

朝から一緒に並んでいた列の先頭集団は、比較的年齢が高かったせいか、コミケのように奇声を発しながら他人を突き飛ばしていくお調子者も居らず

「今日は思ったよりもゆったり見て廻れるかも」

と楽観視していたのだが、山手線の終電状態にもみくちゃにされながらこの見通しの甘さを思



い知ることに。

とくに真後の野郎が私の前に回り込みたいらしくグイグイ押して来やがる。普段こそ

「ガンジー以来の無抵抗主義者」

「死にかけチワワ」

と呼ばれるほど大人しい私だがさすがにキレて

「おうっ！ええかげんにせぇやっ！ガキか？てめぇっ」

と、振り向きざまその茶色いコーデュロイのキャップを被った…………

……被った……ん？　被った？

……茶色いキャップ？　ん？　んん？

……コノヒトドッカデミタヨウナ…

…グレーのコートの左腕が風に揺れてるし……

………まさか？でも、え？なんで？

状況が全く把握できず、蟹味噌よりも役に立たない脳みそが、混乱どころか思考停止をおこしている間、人間土砂崩れを率いたその御方は、ニコニコと上機嫌なまま御自身の写真の隅にサインを直筆し始めた。

頭で考えるよりも早く、脊髄反射でカメラのキャップを外し、とにかく闇雲にシャッターを切る！人隗の最前列は私以外報道関係者らしいのだがもはやお構い無し。後ろから叩き付けられる

「邪魔だ！退けよ！」

という罵声も、殺意の波動も無視しつつ、デカい身体をフル活用して、神が与えたもうたベストポジションをキープ・オン！もちろん自分より後方の人間が廻り込もうとすることを、全身全霊でさりげなくブロックすることも忘れない。





やがて自分の等身大写真と肩を並べるという、かなりメタファーな記念撮影がひと通り終った先生は、来たときと同じようにトコトコと帰って行ってしまわれた。

その普通振りは、なおも追い縋ろうとするファンの塊とそれを必死に食い止めるスタッフとの、怒号を交えた攻防戦と余りに対極なもので、まるで相矛盾する断片同士の組み合せが、正常な世界観を錯視させる、「エッシャーの騙し絵」を現実に見ている気分であった。

私といえば、唯一の自慢であるリーチの長さを最大限にいかし、黒山のように蠢く人間の後頭部の間からカメラを差し入れて、なおもシャッターを切りまくっていたが、もはや追い縋っても御迷惑をおかけするだけとようやく我に帰り、水伝仲間と合流すべく踵をかえして会場奥に進ませていただいた。

で、肝心の記念館の中についてなのですが、いろんな人がレポート書いてるし、各ＨＰでもたいがい取り上げられてるし、記念館詣でを楽しみにしている皆様にはネタバレになるので詳しくは書けないが

『濃ゆい！』そして

『良い！』

もう只それだけである。

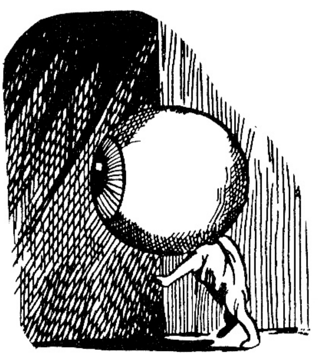
さすがは水木世界を愛してやまない関係各位が、限られた予算や条件の中であったにも拘らず、持てる技術や才能をフル稼動させて創っただけはあります。

もちろん紫綬褒章に続き、旭日小綬章を受賞（注四十五）するほどの、水木先生御自身の文化・芸術・学術的ストックによるところが大きいのは言うまでもありませんが、と・に・か・く・此処では愛を感じるんですよ『愛』を！どんな漫画家も真似できない、これからも模倣不可能であろう『スタンダード・ゼロ』水木世界を愛してやまないファン達の愛を感じるんすよ！

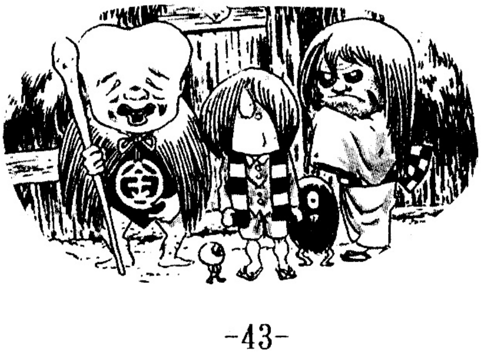
【万引き防止ブザーに納得……】

水伝本部スタッフの諸先輩方にはかなう筈もないのですが、これでも水木ファンの端くれ、水木先生の履歴についてはある程度頭に入っているつもりだったのですが、イヤァ～甘かった甘

注四十五　漫画家では初の快挙！



かった。
初っ端の『げげの間』はいわば『バチカン』で、今まで諸説入り乱れ、ところどころ謎であった先生の歴史に公式見解が打ち出されており、御幼少のみぎりからの写真や思い出の品々など、その細かさたるや日本一の水木ファンを自認する貴君であっても新たな発見が楽しめることうけあいである。
次の『仕事場』はあらゆる水木作品を生み出した、例えるならばベツレヘム聖誕教会における『聖祭壇』のようなもの。おまけにそれがすぐ目の前、手の届く処にぃ～……と思ったが、しっかりと透明な樹脂製シールドで通せんぼされており、ギリギリの処で触れないように工夫されているのだ。
ちなみに私はそれでもしつこく手を延ばそうとして、他の同行者達からこってりとヤキを入れられました。
その後に続く『妖怪の世界』は、これまで数十年間にわたり企画され、数々の伝説や夏休みの思い出を産み出してきた、今は無き『宝塚ファミリーランド』や、いまだ全国で開催され続けている『妖怪展』等々で蓄積されたノウハウを、これでもかとブチ込んだ感のある一大妖怪パノラマ天国！
個人的な意見になってしまうが特筆しておきたいのはやはり『のんのんばあとオレ』。私同様のんのんばあファンには感涙モノです。ちなみに最初の等身大『ぬり壁』は通り過ぎずにちゃんと観察することをお勧めする。ヒントは「目がキュート」。
あと余計な御世話かもしれないが、視力に自信の無い人は『あやしの土蔵』には眼鏡必携かも知れない。私は随分悔しい思いをしたので。
料亭だった頃の唯一の名残りである日本庭園を眺めながら『精霊の間』に入ると、
「よくまぁココまで……」
と改めて圧倒される、先生の『精霊の仮面』のコレクション達に迎えられる。
既に各方面で語り尽くされてきた感があるので、今さら私が余計なことを書かんでもファンならば知らぬ人は皆無であろうが、その数たるや
「この記念館ができるまでの間、どうやって保管してたんだ？」
と思わされる程。



が、膨大な仮面群を見渡していたとき、チラッと視界右端の方に入った仮面に、私が持つ全ての意識が吸い取られた。

「え？あ、あれは…あの仮面……？えっ？　お、おい、まさか？」

駆け寄りながらも自然と目線は釘付けにされ、周囲の状況など解らなくなる。それでも駆けた。

まるで百年前から其処に吊るされているかのように、周囲に溶け込み私を迎えてくれた旧知の仮面………それは今から数年前、日本から飛び出した私が南米エルサルバドルでフラフラと放浪していたとき、地元民でも不可侵とされている旧市街の、渾沌としたメルカード（市場）の片隅で出会ったソレであった。（注四十六）



「出世したなぁ、おい！」

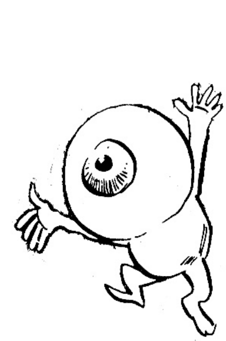
嬉しさのあまり相好が崩れるのを止められない。

この仮面と出会ったエルサルバドルという国だが、一九九二年まで十数年間にわたって休み無く続けられた内戦によって国土は焦土と化し、その後の復興期には主幹産業である綿や珈琲豆相場の世界的な大暴落に見舞われたうえ、復興に取り残された若年層が内戦中にばらまかれた銃火器を使って武装集団「マラス」を形成、政府は彼らが各地で起こす凶悪犯罪に対して、何ら有効な政策を打てずにいるのが現状だ。

もともと南米の蚤と揶揄されるエルサルは石油や石炭、鉄鋼類、宝石類といった、南米ではごく当たり前に掘れば出てくるような地下資源に見放された経済的困窮国で、ジャングルを切り開いたときに出る木材による工芸品が伝統的な産業だったのだが、無計画な伐採や焼き畑により緑の山々は茶色い禿山と化し、現在のアメリカ資本による戦後復興の中では、先祖から受け継いだ祭礼や術式も風前の灯となっている。

そんな荒土と化した祖国に絶望したのか、それとも地球の反対側から水木先生の手許にゆだねられ、此処に祀られることが最初から運命付けられていたのか…。思えば数奇な運命を旅し続けた仮面であった

注四十六　詳しい説明はいずれ「タハ！」最終巻で。



恍惚とした表情のまま動かない私を見て、同行者達が気味悪そうに急かすので、名残惜しいが二階『企画展示室』へ。

実はこの記念館はバリアフリー構造になっており、中二階のメイン回廊は勿論、二階へも問題無く車椅子で乗り込めるのだ。さすがは境港である。

我々が乗り込んだときにやっていた開館記念特別展はズバリ『鬼太郎』。

壁一面に展示された原画（カラーありモノクロあり）の数々をはじめとして、厳重に設錠されたショーケースの中にはメンコや絵本や玩具、食品メーカーのノベルティーグッズ、駄菓子の空き袋や、たしか私が小学生の頃に見たことがあるアルマイトの弁当箱、子供用のフォークやスプーン、サンダルやら鬼太郎型シャンプーの空容器…エトセトラ。いちいち挙げていたら目録だけで本が一冊できそうな物量である。

うーん、さすがは総本山。各方面の意地と面子をかけた苦労が忍ばれます。



個人的に一番爆笑させてもらったのが地元でのみ販売されているらしいネズミ捕り用の粘着シート。皆さんならもう察しがついているだろうが、パッケージが御大の書き下ろしでイメージキャラがそのまんま『ねずみ男』。これだけでも相当豪勢だが、強力な粘着シートに捕まって助けを求めるねずみ男に対し、一旦木綿に乗って飛び去る目玉の親父さんが冷静に一言

「手遅れじゃ!!」

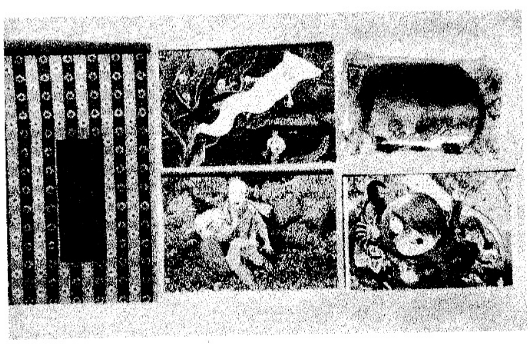
イヤー、そのあと数週間は笑わせてもらいましたワイ。

ちなみに地元のスーパーに走って同じものを手に入れようとしたのですがバージョンが変わっておりました。残念。

漫画や出版物は本棚に並べられ、その前のベンチで誰もがゆっくりと閲覧できる様なっているのにも驚かされた。オイオイ大丈夫かよ？図書館じゃあるまいに、こんなことしたらアッという



間に本がボロボロにされると思うんだが。
それ以上に一日中動かないような猛者も出てくるだろうし、だいいち……と、一番イヤな予感が頭を過ったが、良く考えたら各所に万引き防止用のセンサー・ゲートが設置されており、最短距離で外に持ち出そうとしても最低二回は引っ掛かるようになっているのだ。
……まぁ、それでも構わず…というか、後先考えること無く持って行こうとする馬鹿は沢山いるだろうが。
お楽しみの記念品(注四十七)をいただき外に出ると、ようやく列が「ちょっと混んでる」レベルまで短くなっていた。ふと時計を見るともう昼。まったく時間の感覚が無くなっていたことに気付くが、興奮興奮大興奮の連続では致し方あるまい。うーん…足痛てぇ(泣)
ゲートの外で町内会の皆さんが作って下さったワタ飴をパクつきながら
「そーいえば、ゲートが開き始めた頃にジャグリングの支度をしていた大道芸人っぽい兄チャンやコスプレした奴がうろついてたけど、彼奴らどーなったんだ?」
「まともな飯が喰いたいけど、ワシらが揃って店に入ったら平和な家族連れには悪夢だろうな」
「あの水木ロードにマッチし過ぎな『さ●』とかいう蕎麦屋は？
客層はワシらにピッタリだろ?」
等など、心優しき地元の皆様に光速往復ビンタを食らいそうな暴言を吐きつつ興奮を冷ます水伝御一行様(注四十八)でありました。



注四十七　ポストカード三枚と瓦せんべいが入った特製記念パッケージ。

注四十八　一部"元"水伝

【終章　タイム・アフタ・タイム】

以前水伝サマーツアーに闖入した古賀画伯の御友人が、有志を募って主催した（らしい）境港名所巡りバスツアーに誘われたのだが、驚いたことに水木世界の原点としても名高い『六道絵』で有名な『正福寺』をはじめ、先生にまつわる名所旧跡巡りに無料で、誰でも連れてってくれるとのこと。

その後の予定が無かったら一も二も無く御好意に甘えているところだが、あいにく境水道の向う側、先生が御幼少のみぎりから眺め続け、その世界観の形成に一役を担ったであろう『美保関町』（注四十九）を撮影せねばならなかったので泣く泣く断念。

そのあと皆で極寒の海風に晒されながらも「先生の生家」「鳥取銀行境支店」等々、ファンならではのコアな名所をのんびり巡ったのち三々五々に解散…したのだが、全員狭いエリアをうろうろしているだけなのでエンカウント率高すぎ！

終いには夕方、小雪がちらつく中、美保関の撮影を終えて渡船で境港側に帰ってくると、電車の時間まで一杯ひっかける居酒屋を探すT明氏とまたもや再会。お互いに

「まだ居ったんすか！」

と苦笑いであった。

都心では味わえないほど暗く寒かった夜の米子駅から寝台特急に乗り、いよいよ今度の旅のエンディングを迎えた車中、あっしはこの二日間の大騒動を思い出しながら、美保関町役場地域振興課の皆様の全面協力のお陰で実現した

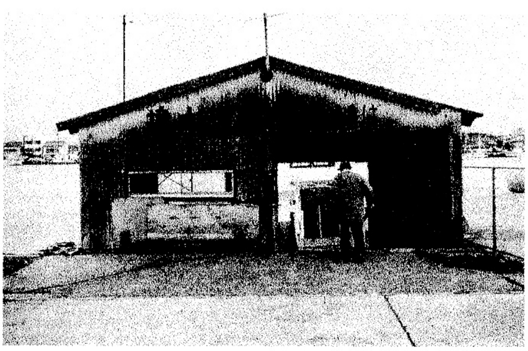
『ロードのついでに渡船で美保関町巡り』

を何とかまとめて発表せねばと頭を捻るのでありました。

〈終り〉

文章・責任　幸治　亮
編集レイアウト　西宮かよ

注四十九　真面目な水木ファンにはくだらん妄想と嘲笑されるだろうが、先生が幼少の頃泊まられた“のんのんばあ”の家は、実はこの美保関町に在ったのでは？と私は思っている。嘘だと思うファンは一度遊びに行かれると良い。あまりにもイメージが合い過ぎているうえに全く観光地ズレしていないのだ。いずれ詳しい行き方を何処かで紹介させていただきます。



『一緒に歩けて幸せ』

記念館きょうオープン



ファンの前でおどけてみせる水木さん＝7日午後6時半ごろ、境港市末広町の水木しげる記念館

水木さんが案内人　ファン81人が内覧会

「ゲゲゲの鬼太郎」などで知られる境港市出身の漫画家、水木しげるさんの妖怪に関する作品やコレクションを紹介する「水木しげる記念館」（境港市末広町）でオープン前日の7日、水木さんが館内を案内する内覧会が開かれ、全国から集まったファンが、あこがれの水木さんとともに記念館を楽しんだ。

オープン日に八十一歳の誕生日を迎える水木さんの年齢に合わせ、市はイベント参加者八十一人を募集。七百二十五通の中から、山陰両県や東京、大阪など、四歳から七十六歳までの八十一人が選ばれた。

水木さんはファンに囲まれながら館内を鑑賞した。「これは先生が集めたものですか」などと尋ねるファンの声に、うなずきながら返答。時折、舌を出しておどけてみせ、カメラを構えたファンを楽しませた。内覧会の後は、ファンや館のスタッフが前庭のステージで〝バースデーイブ〟を祝福した。

内覧会に参加した神奈川県相模原市、フリーター、石井佳世子さん(三四)は「一緒に歩けて幸せ。独特のオーラを放っていますね」と興奮気味に話していた。

この日、水木さんは内覧会に先立って黒見哲夫市長を表敬。水木さんらは市内の街並みについて話し、水木さんの孫の写真を見て談笑した。黒見市長は「記念館も先生の家のようなものですから、長生きして度々帰ってきてください」と水木さんの帰郷を喜んでいた。

八日は、同館前庭で午前九時から水木さんのあいさつやテープカットなど記念式典が行われ、午前十時から一般入場ができる。

日本経済新聞　2003年（平成15年）3月8日（土曜日）（夕刊）

水木しげるさん記念館が開館

鳥取・境港に



記念館で妖怪家族の紹介をする水木さん（8日午前、鳥取県境港市）

「ゲゲゲの鬼太郎」などで知られる漫画家水木しげるさんの出身地、鳥取県境港市に、水木作品や妖怪のすべてを見せる「水木しげる記念館」が完成、八日オープンした。

入館料は大人七百円、中高生五百円、小学生三百円。火曜日休館。問い合わせは同記念館、㊫0859・42・2171。

スポーツニッポン　2003年（平成15年）5月5日（月曜日）

水木しげる記念館

入館者5万人　2カ月で突破

「ゲゲゲの鬼太郎」などで知られ、鳥取県境港市出身の漫画家水木しげるさんを記念した「水木しげる記念館」（同市）で4日、入館者数が5万人を突破した。3月8日のオープンから約2カ月での大台達成。水木人気の高さを見せつけた。

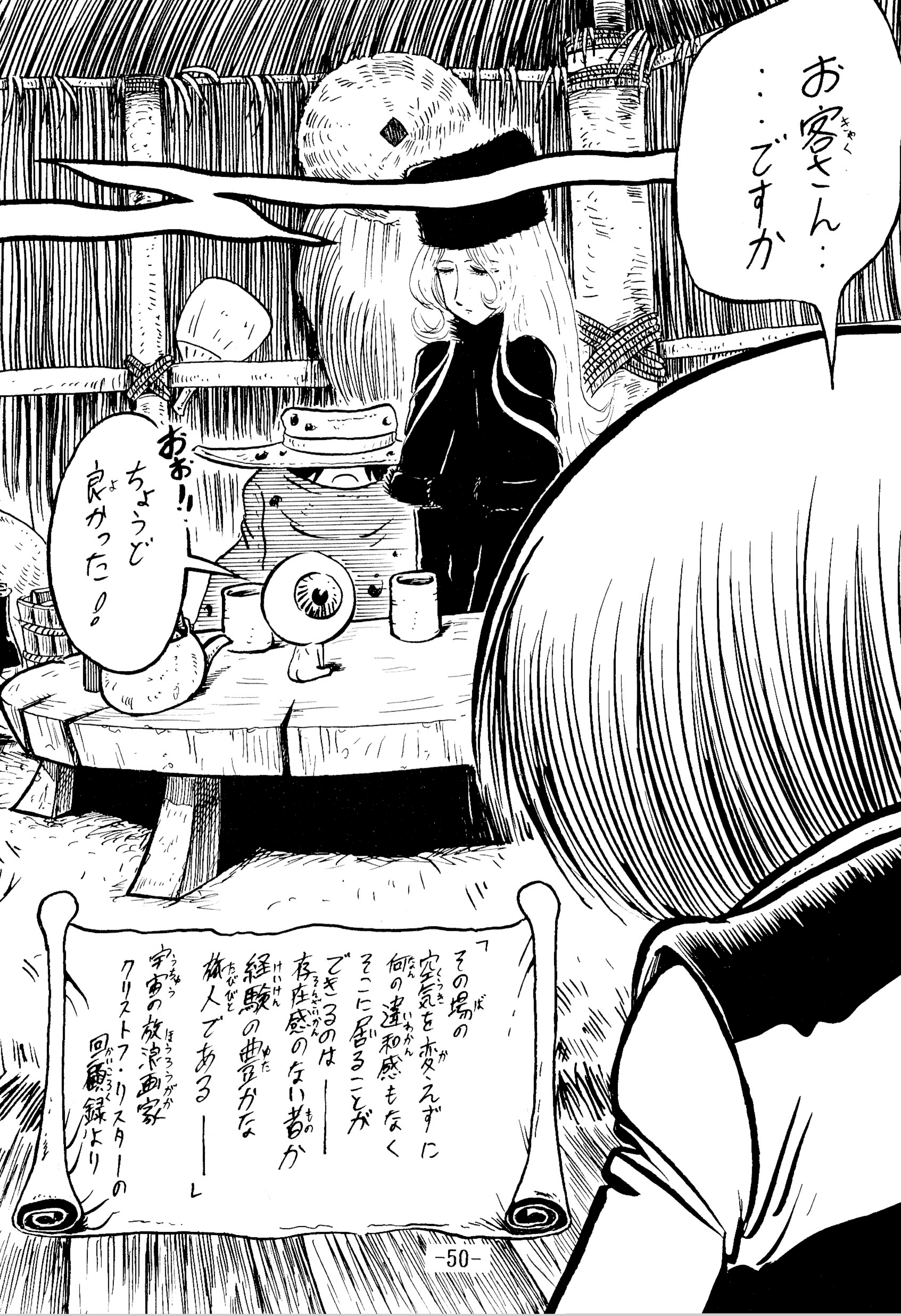
5万人目は島根県斐川町の植田愛ちゃん（3）。梅谷陽治館長から水木さんのサインと鬼太郎のイラストが描かれた直筆色紙が贈られた。愛ちゃんの母博美さん（43）は「家族や親せきと11人で初めて来ました。とにかく驚きました。色紙もありがたいです」などと話し、感激した様子だった。記念館には水木さんが学生時代に描いた絵、世界中から集めたお面や人形、昔の漫画本など約950点を展示してある。



「水木しげる記念館」5万人目の入場者となり、梅谷館長から色紙を贈られる植田愛ちゃん（左から二人目）



カラ~ン
カロ~ン
がさっ
がさっ
コンビニ まほろば
コンビニ まほろば
ただいま もどりました
父さん
すぐに茶わん風呂を用意しますね
あっ


お客さん……ですか
おお!! ちょうど良かった!
「その場の空気を変えずに何の違和感もなくそこに居ることができるのは――存在感のない者か経験の豊かな旅人である――」
宇宙の放浪画家クリストフ・リスターの回顧録より


駄漫画(だまんが) FINAL(ファイナル) WARS(ウォーズ)
誰か俺に
メーテルの フィギュアか
ドールを くれ!!
古賀弘明(こがひろあき)

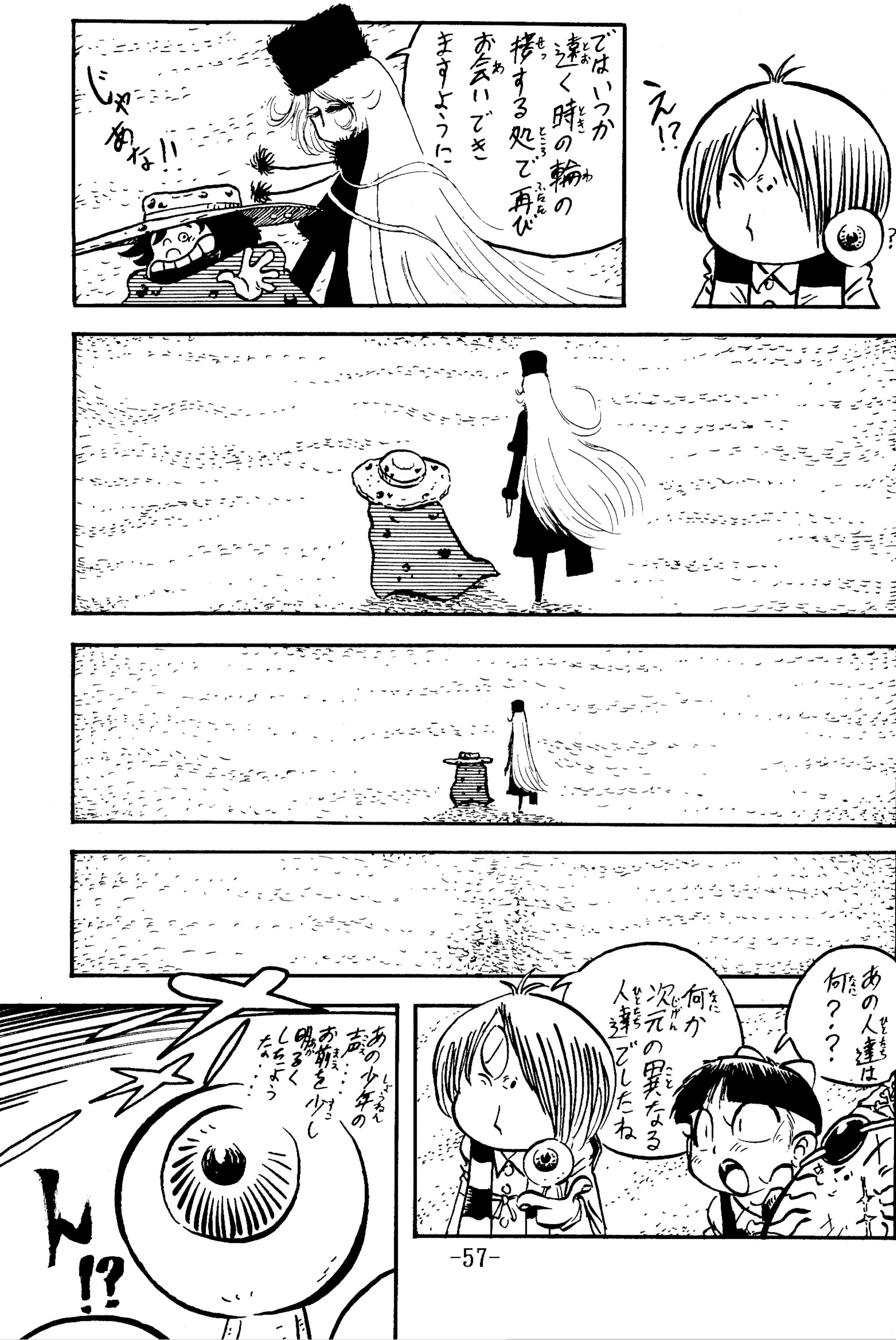

この人のトランクが盗まれたというわけですが・・・・
でもなぜ・・僕たちに
妖怪の仕業とでも・・・
ほんの一瞬目をはなしたスキに盗られたんだそうだが・・・
・・・・・・盗んだ奴の人相からするとどうやら・・・
アイツですか・・・・しようのない男ですねえ・・・・・
ムフフフ 大美人の持ち物に興味があったのよん♡
すみません○!! すぐにつかまえてきますから!!。
盗まれた事自体は心配していません どんな事があっても戻ってきますから・・・・
ただ・・・・


まま？
盗んだ方がお気の毒な事に……
？
気の毒とな……
お助けェー！
あの声は!?

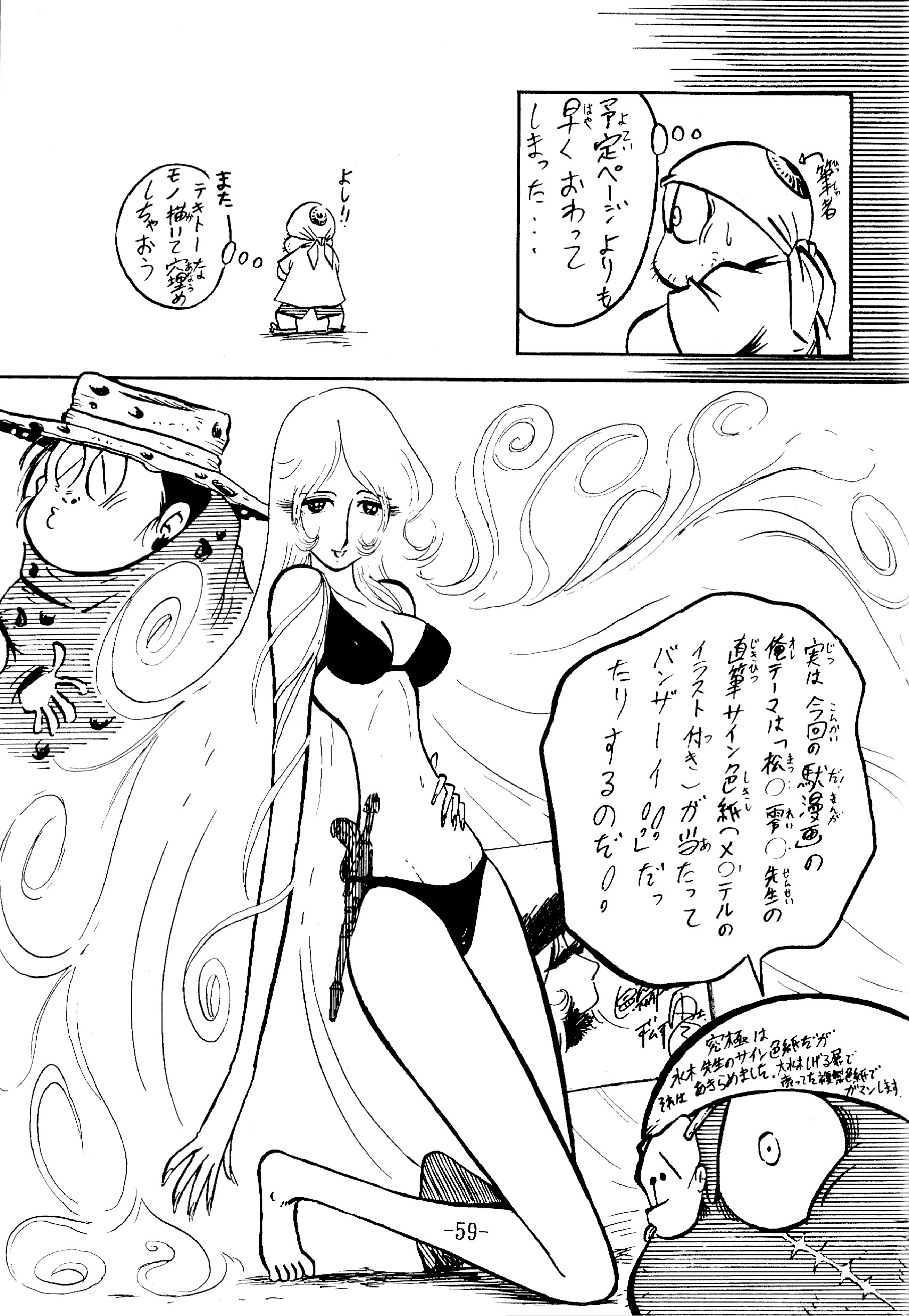

ぎょぎょ




あのトランクの特殊な防犯システムでー
持ち主以外の奴が無理矢理開けたりするとそいつが嫌うモノが最も実体化してしまうんだ
トランクも無事に戻りました
中の物も無事みたいで良かったですね
ばーか
それは絶対に大丈夫です…盗もうものならその人は生きてはいないでしょうね

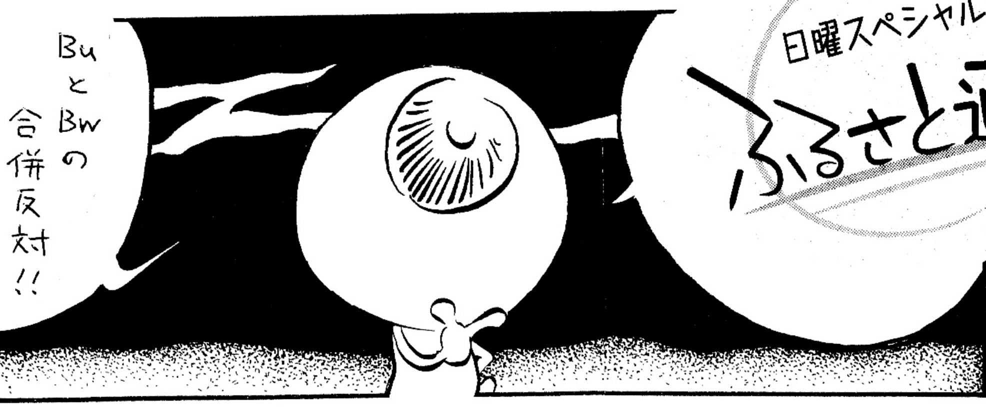

ではいつか遠く時の輪の接する処で再びお会いできますように
じゃあな!!
え!?
?
あの人達は何??
何か次元の異なる人達でしたね
あの少年の声…お前を少し明るくしたようだの…
ん!?


遠く時の輪の接する処――
それは運命に導かれた
者がたどりつく
終着駅だという人も
いれば――
強い絆で結ばれた者同志が
たとえ離ればなれになっても
めぐりあう事ができる
プラットホームだという人もいる――
ただ本当にたどりつけるのは
光も時間も
追い越す事ができる者
だけであるらしい――
おしまい


筆者
予定ページよりも早くおわってしまった・・・
よし!!
また テキトーな モノ描いて 穴埋め しちゃおう
実は今回の駄漫画の俺テーマは「松○零○先生の直筆サイン色紙「メ○テルのイラスト付き」が当たってバンザーイ!!だったりするのだ!!
究極は水木先生のサイン色紙だが それは あきらめました。大水木しげる展で売ってた複製色紙でガマンします。

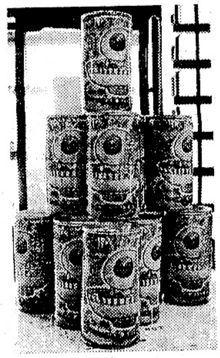

おぎゃー
1986年頃に出た鬼太郎のアニメのムック本に「ハーロック鬼太郎」と「エメラルダス・ユメコ」のイラストがあったのでまったくの無縁とは云わせんぞ…………
まぁオフィシャルなものではなかったようだが…
雪乃五月
おーーー
大首!?
はっ
特集合わせ
俺の漫画に欠かせないモノを描いてなかった……
……というところで
今度こそ
おしまい
2004年7月16日
古賀弘明 画

日曜スペシャル ふるさと通信



とくせん土産　鳥取

「目玉のおやじ汁」と「妖怪汁」



鳥取県境港市出身の漫画家、水木しげるさん（八三）の描く妖怪たちにあやかって、まちおこしが進む同市の「水木しげるロード」。その沿道にある一部店舗などで、ゆず風味の清涼飲料水「目玉のおやじ汁（ドリンク）」、シークワーサー風味の「妖怪汁（ドリンク）」（いずれも一本百二十円）が販売され、人気を呼んでいる。

妖怪をイメージさせようと、「汁」と書いて「ドリンク」と読ませるインパクトの強いネーミング。清涼飲料水のキャラクター商品などを手がける「アプリス」（東京都港区）が開発した。

同ロード振興会会長の野々村久徳さんは「見た目の印象よりも、あっさりしてます」とPR。

妖怪に用かい？ 友の会募ります

水木しげる記念館

妖怪ファン集合―。鳥取県境港市の妖怪の館「水木しげる記念館」は、妖怪文化に対する親しみと理解を深めてもらおうと、友の会を発足させ、七月一日から特典付きの会員を募る。

友の会は、年会費一般千八百円。会員証を提示すると、年間何回でも無料で入館（一回七百円）できるほか、同県会見町の国内最大級の県立フラワーパーク「とっとり花回廊」など四施設の入園料が割引される。

桝田知身館長は「まず二千人くらい会員になってもらい、新しい仲間を連れて何回でも足を運んでほしい」と話している。



水木しげる記念館

友の会
会員証

写真貼付欄
(2.5cm×3cm)

6ヶ月以内撮影
正面・無帽のもの

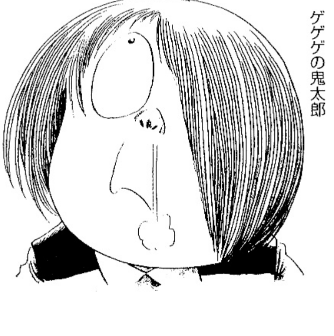
会員番号:

氏名:

有効期限:　　年　　月末

©水木プロ

水木しげる作品の妖怪仲間が集合した、友の会の会員証



水木しげるロード

まちかどストーリー

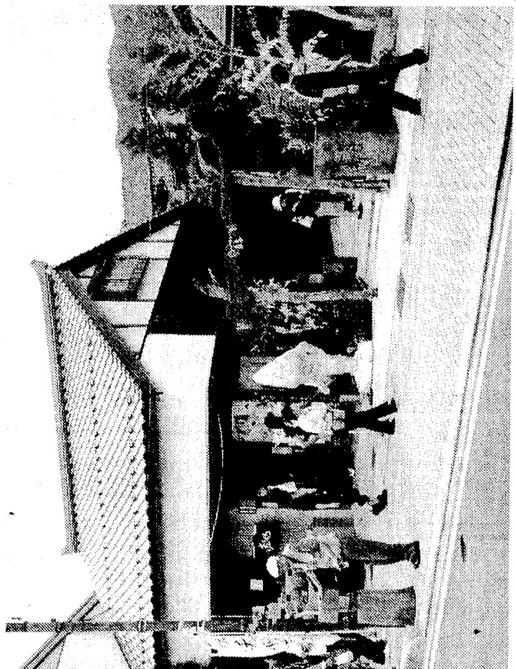
妖怪に囲まれ童心に

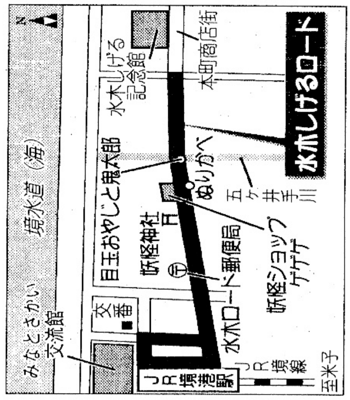
国内有数の漁港・境港で知られる鳥取県境港市。JR境港駅を降りると、黄色と黒の目を引く「ちゃんちゃんこ」にげた履きのいでたちの男が目に入った。「ゲゲゲの鬼太郎」が歩いているではないか。よく見れば街灯の電球は「目玉おやじ」だ。

もちろんのことだが、鬼太郎は着ぐるみ。市観光協会のメンバーらがかぶり、妖怪のまち・境港をPRしている。鬼太郎以外にも「ねずみ男」や「猫娘」などがあるが、変わり種は「サラリーマン山田」。サラリーマンを名乗るだけあって名刺交換に応じてくれる。

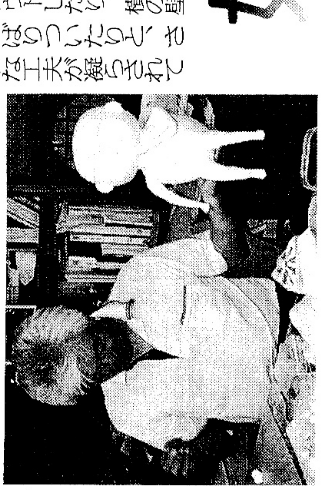
平成四年から整備が始まった「水木しげるロード」。鬼太郎らを生み出した漫画家・水木しげるさん（八三）の出身地であることを生かしたユニークなまちおこし。その中心が同駅前から続く水木しげるロードと昨年三月、水木さんの誕生日に開館した「水木しげる記念館」だ。

ブロンズ像は整然と並んでいるわけではない。台座の中央部をくりぬいた中にレイアウトしたり、横の壁面にへばりついたりと、さまざまな工夫が凝らされている。一筋縄でいかない妖怪たちらしい。


妖怪のブロンズ像とグッズを扱う商店が並ぶ水木しげるロード＝鳥取県境港市



妖怪見物をしていると「妖怪ポストはこちら」との文字が目についた。水木ロード沿いに並ぶ店の中でも数少ない手作りのグッズを販売する「妖怪ショップ ゲゲゲ」だった。ドアを空けると同ロード振興会会長も務める主人の野々村久徳さん（五八）が「いらっしゃい」と優しく声をかけてくれた。


樹脂粘土を使って手作りのオリジナルグッズを作る野々村さん

ちょうど大きなサイズの人形を作っている最中だった。「シルエットを完成させたばかりです」と笑顔で紹介してくれた。机には「サーフボードに乗る一反木綿」が並んでいた。そのほとんどが樹脂粘土を使って野々村さんが作ったオリジナルグッズだ。

八年にショップをオープンさせたが、当時は普通のグッズを売っていた。「ここに来ないと買えないものを」と翌年から手作りグッズ販売を始めた。ガラス張りの店舗だけに、作業している姿は外から丸見え。興味を持った観光客が入ってくることも多いという。

「ただ見物するだけでなく、遊んで心を残していってもらいたいんです」。野々村さんは、その一環としてはがきを出せばスタンプを押して郵送する妖怪ポストも設置した。今では多くのリピーターをかかえるまでになった。

妖怪たちに囲まれ、童心に帰ることができる「水木しげるロード」。カランコロンというげたの音が耳に残った。

（鳥取支局米子通信部 高橋健）

メモ

水木しげるロード 水木さんが描く妖怪たちを使い、まちおこしを図ろうと、境港市が、平成4年から4年をかけて、JR境港駅から続く約800メートルの目抜き通り沿いに、約80体の妖怪たちのブロンズ像を設置した。多くは、30センチ前後の小さい像だが、鬼太郎やねずみ男は、設定通りの「等身大」のもの。沿道には、ゲゲゲの鬼太郎をはじめ、妖怪たちのグッズを扱う商店、飲食店が立ち並ぶ。

個人的な話であるのだが去年の２月に車にはねられ、全治３ヶ月のケガをした。ハネられてから周りの人に揺り起こされるまで記憶が完全に飛んでしまっていた。頭をかなり打ったらしく出血もしていて、ＣＴスキャンやMRI 検査とかいろいろ受け、入院も勧められたのだが「イヤだ！」の一点張りで家に帰り、２日休んだ(土日の休日)だけで普通に仕事をした。医者も「信じられない！」と言っていたが日頃の鍛錬のおかげと確信している。だが！自分自身は憂鬱であった。日課のトレーニングが(当然なのだが)半分も出来なくなってしまっていた。しかし！あきらめる事無く、毎日稽古をしているうちに、体は人と違いウソをつかないもので、１年半かかってしまったけれど、事故にあう前以上のバーベルを持ち上げる事が出来、ここ最近の出来事では一番嬉しい事だ。今では１２５ｋｇまで上げられるようになった。

前号でも書いた事だが「継続は力なり」という事が本当に体（筋肉）にしみた。

先生も私以上に片腕がないというハンディーを背負いながら半世紀以上も画業に専念されている。しかもその事を、本当は大変なのだろうけれど、周りの人たちに苦に見せていない所がものすごい人だ！

そういう所もすべて含めて先生に惹かれているのです。





長崎（ながさき）の水虎（すいこ）

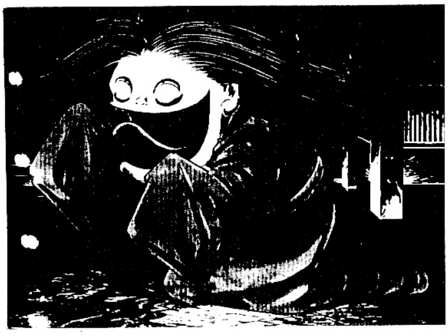


鳥山　石燕｛今昔画図続百鬼（巻之上　雨）より｝

昔,長崎港に面した,今の五島町あたりでよく**水虎**が出たという。和漢三才図会によれば**水虎**はもともと中国の河川に棲み,三･四才の小児のような動物であるという。**長崎の水虎**はどうやら中国の**水虎**が海を渡って長崎にたどりついたものらしい。

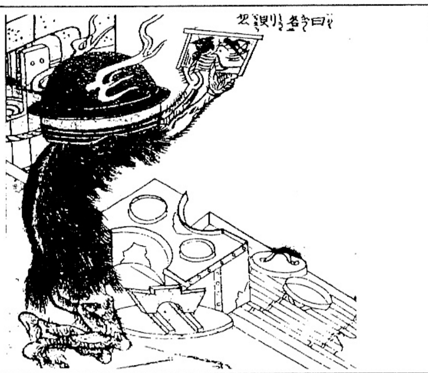


泣き婆（なきばばあ）



与謝　蕪村（蕪村妖怪絵巻）より

遠州(静岡県)見付けの宿にこの婆が出現したという。これが家の門口にきて泣くとその家では必ず不幸があるという。地方によっては,葬式のときに泣き婆が出現する。身内でもないのに,喪主であるかのように大声で泣き,参列者の涙を誘うというものである。



鳴釜（なりがま）



鳥山　石燕｛画図百鬼徒然袋（巻之下）より｝

昔ある農民が釜を掘り出した。これが人から人へと渡り,京都のある住職の手に入った。住職がお茶を入れる為に湯をわかすと蒸気でふたが動くがこの時,釜が音を立てると決まって雨が降るといわれ,以来,天気の予知が出来ると近所で大評判になったという。



苦笑（にがわらい）



松井文庫（百鬼夜行絵巻）より

この苦笑は人間が不機嫌で無理をして笑いたくもないのに,己を突っ張って自らをあざむこうとしている時,その場に現れるという。そして,にがにがしい物の言い方,相手の気にさわるような言葉使いで,人に憎まれるのを好むのだそうだ。



二本（にほん）の足（あし）

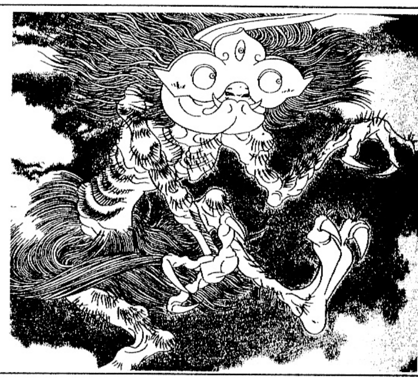


松井文庫（百鬼夜行絵巻）より

下半身は赤いふんどしをしめた普通の人間なのだがその上に直接,大きな頭が乗っていて白い足袋をはいたアンバランスな姿で現れる。なにかをするという具体的な話はないが,この姿から想像するにとにかく走りまわる妖怪のようだ。

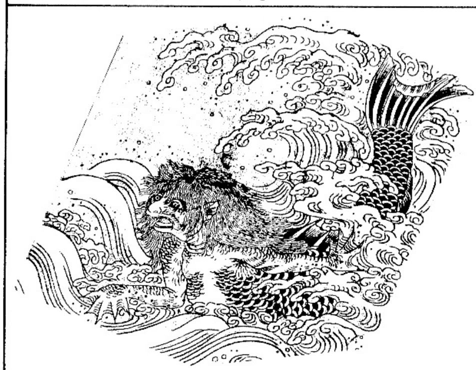


如意自在（にょいじざい）



鳥山　石燕｛画図百鬼徒然袋（巻之中）より｝

よく背中がかゆくなった時、なかなか思うようにかけないでいる時に背中をかいてくれる妖怪であるが、爪がするどくなっているので気を付けないと体中に傷をつけられてしまうという。



人魚（にんぎょ）



鳥山　石燕｛今昔百鬼拾遺（上之巻　雲）より｝

昔の人の**人魚**に関する書物を統合してみると口は猿のように出ていて,歯は魚のように小さく,声は雲雀笛のように静かな音であるという。また身によい香りがあって,その肉は味がよく,これを食べると長生きするといわれる。



鶏の僧（にわとり そう）



岡田　玉山（絵本妖怪奇談）より

寺の僧たちは精進料理という植物だけの料理を食べて修行する訳だが,ある寺の僧が我慢できず隣の家の鶏を食べてしまった。和尚が僧にその事を問いただしていると,口と尻から鶏の変化が現われ,コケッコッコーと泣いたので食べた事がばれてしまったという。

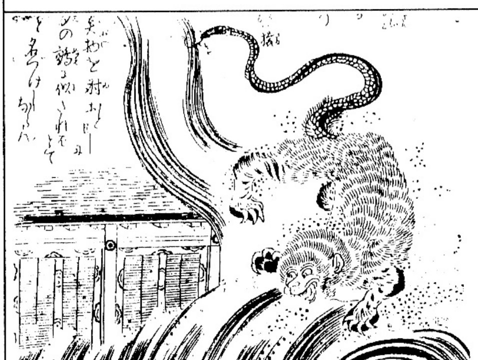


入内雀（にゅうないすずめ）



鳥山　石燕｛今昔画図続百鬼（巻之上　雨）より｝

平安時代の中頃,藤原実方と藤原行成という人達がささいな事でケンカになり,皇居内で実方が行成の冠を庭に投げ捨てて退出する事件があった。この一件を見ていた一条帝は,実方を左遷し,行成を昇進させた。左遷された実方は非をみとめつつも失意のうち死んでしまった。この実方の怨念が雀となって宮中内のご飯をついばみ人々は**入内雀**と呼び，実方の怨霊を恐れた。

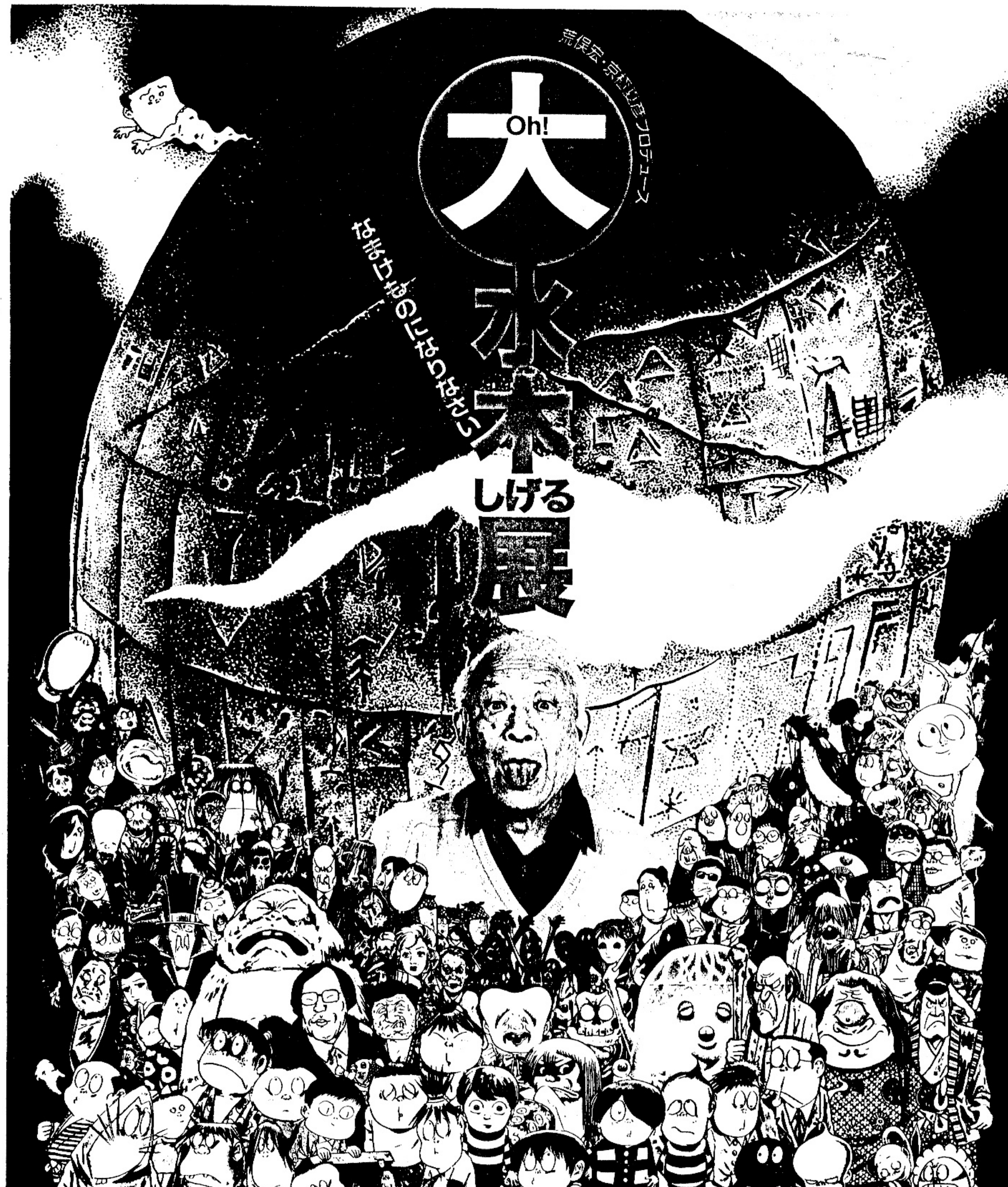


鵺（ぬえ）



鳥山　石燕｛今昔画図続百鬼（巻之下　明）より｝

鵺という妖怪はあいまいな怪人的な表現をするのに使われる。何を考えているのかわからない「鵺的人物」によく出会うがこの妖怪の正体が,頭は猿,体は狸,尾は蛇,手足は虎,というのだから,まさにいるのかいないのかわからないようなシロモノだ。



4月29日～5月30日	鳥取県立博物館
6月4日～7月11日	福岡県立美術館
8月5日～8月16日	神戸・大丸ミュージアム
8月19日～8月31日	京都・大丸ミュージアム
9月11日～10月31日	岩手県立美術館
11月6日～2005年1月10日	江戸東京博物館
2005年4月9日～5月22日	北海道旭川美術館
2005年6月上旬～7月中旬	岐阜市歴史博物館
2005年7月下旬～9月上旬	高知県立美術館

■主催／
朝日新聞社
美術館、博物館
■協力／
水木プロダクション
水木しげる記念館
フォルスタッフ

げげげ通信

http://www.mizukipro.com/gege.htm



水木プロダクションのホームページ

水木プロダクション近況

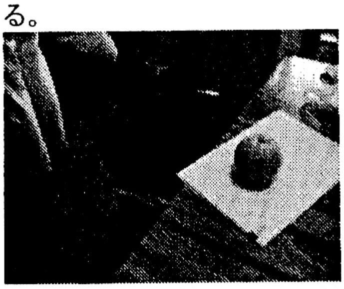
グレープフルーツ　その2 （6月24日）



今日はよほど早く食べたかったのか、「ムイムイ」（水木語で「むけ！」の意か）
と書かれたグレープフルーツが・・・・。もちろんスタッフは、すかさずむいた。

これも好物。グレープフルーツ （6月21日）

水木プロの台所のテーブルに、よく冷えたグレープフルーツがさりげなく1つ置かれていることがある。
それを「仕舞い忘れ？」と冷蔵庫に戻してはいけない！「食べたいから、今スグむけ！」という水木の無言のメッセージなのだ。
スタッフが全部むくの待ちきれずに、いつも途中でもほおばってしまう、子どもみたいな水木である。



「タベタイ！」無言のメッセージ



きれいにむいてフォークも用意しているのに・・・待ちきれずガブリ。

久しぶりのテレビ収録 （6月9日）

水木は「たけしの誰でもピカソ」の収録のため、久しぶりにスタジオ入り。
多少緊張していたせいもあったかもしれないが、「水木節」は健在！水木の話や身振り手振りにスタジオは笑いの渦。
たけしさんや渡辺満里奈さんも、しばししゃべれないほど笑いのツボにはまっていた。大サービスの水木であった。
最後にたけしさんの似顔絵を30秒ほどで描き上げ、そっくりなのでビックリ！さすが水木である。
「最近歳を取ったかも」と心配していた我々であったが、まだまだ元気な様子にホッとした。
7月30日テレビ東京系で放映。



和むスタジオ内。荒俣宏氏も出演してくれた。(右から2人目が荒俣氏、3人目が水木)

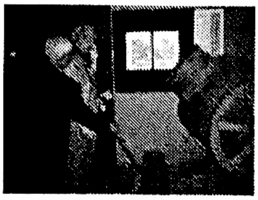
Oh！水木しげる展開催！ (5月4日)

4月27～29日、水木は、「oh!水木しげる展」の内覧会・開会式に出席するため鳥取へ。
28日は内覧会をゆっくりと見て回った。
展覧会のコンセプトの一つに「水木が喜ぶ展覧会にしよう」というものがあったというが、
確かにに水木は大喜びであった。過去出版された貸本や昔の原稿を懐かしそうに見入っていた。
また、今回の水木展のために製作された「死人帳」や「霊界輸送機」などの実物に
「あんたこれ、誰が作ったんですか」
「○○さんの発案で・・・××さんが・・・」
「ほぉ、そりゃあんた、相当水木サンに冒されとる！ワハハ」と上機嫌。
妖怪が描かれた昔の巻物にも興味津々、博物館のお目こぼしを頂いて写真に撮りまくり。
特に「おならで化け物を退治する話」が載っている巻物がお気に入りで、「ほー！」と言いながらシャッターを切りまくっていた。

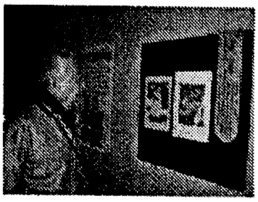
28日博物館の前で



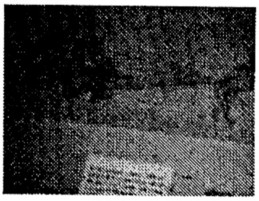
霊界輸送機にビックリ



自身の原画に見入る



「おならで化け物退治」の絵巻



好物、かしわ餅 (4月26日)

この季節になると、水木はかしわ餅を買ってくる。来客の中にも水木がかしわ餅が好きなのを知っていて
買ってきてくれる人もいる。今日は、頂いたかしわ餅を自室で食べようと、持って出た瞬間！
「落ちてしまったがな！」(←方言)

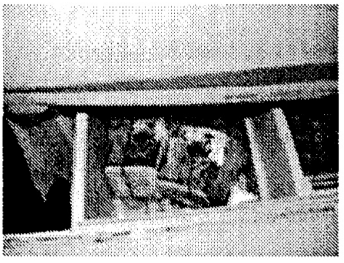


← 落ちたかしわ餅

捨てようとすると「洗って食べる！」と言い張り、洗ってから一口でパクリと食べた水木であった。

また凍らせちゃった！（4月20日）

水木は、食べ物を凍らせてみるのが好き。毎年夏になると、いろいろ凍らせてみる。
フルーツやお菓子を凍らせるのだが、美味しいときもあれば、失敗の時もある。（失敗が多い）
去年、「実験だ」といって、あんみつを凍らせた。寒天がすかすかになってしまって失敗！
でも、本日！・・・冷凍庫から凍ったあんみつが発見された。あー、もったいない！



かちかちに凍ったあんみつ



凍ってないあんみつを賞味

出版物情報

平成１６年　水木しげるの関係書籍

中央公論 new!	9月号	中央公論新社
ソフィア文庫　神秘家列伝　1 new!	7月25日	角川書店
ウォーキングマガジン	10月号	講談社
アイランドコミックス　今昔物語	9月5日（コンビニで発売）	嶋中書店
アイランドコミックス　鬼太郎夜話	8月5日（コンビニで発売）	嶋中書店
東京新聞　サンデー版 「大図解・妖怪」	7月25日	中日新聞東京本社
ダ・ヴィンチ 「アラーキーの裸ノ顔」（水木の顔をアラーキーが激写）	9月号	メディアファクトリー
松江文化情報誌　湖都松江 「小泉八雲特集後編」	第8号（9月中旬）	松江市文化協会
すけるとんクラブ （鬼太郎などの絵がパズルに）	7月14日発売号	日本文芸社
別冊宝島　ゲゲゲの鬼太郎　妖怪百物語 「水木世界の特集　インタビュー等のDVD付き」	6月25日発売	宝島社
妖鬼化　4（ソフトカバー版）←click!	6月30日	ソフトガレージ
アイランドコミックス　河童の三平1、2、3 new!	5月20日、6月19日、7月20日 （コンビニで発売）	嶋中書店
暮しの手帖 「大切なもの」	8月号（7月25日発売）	暮しの手帖社
朝日新聞（生活面） 「暗闇の大切さ」	6月16日	朝日新聞社
週刊ポスト 「著者に訊け（水木サンの幸福論）」	6月14日発売号	小学館
アサヒ芸能 「みんな漫画が好きだった」	6月8日、15日発売号 （2回連載）	徳間書店

アサヒカメラ 「あの有名人のお宝カメラ」	7月号	朝日新聞社
コミッカーズ 「OH!水木しげる展の紹介等」	8月号	美術出版社
進路探求プログラム「私の履歴書」コース 水木しげる （高校生向け進路指導用冊子）	3月31日	日本経済新聞社 教育開発室
朝日新聞 （読書面） 「自作再訪」（転機になった作品[鬼太郎]について）	5月23日	朝日新聞社
in English 「水木のインタビューを英語に翻訳」	5月27日号（創刊号）	竹書房
暮らしの風 「水木しげる妖怪草紙」	8月号	朝日新聞社
コミックボンボン「ゲゲゲの鬼太郎 R妖怪千物語」連載 「原作を元に、ほしの竜一氏が子供向け漫画に」	6月号より	講談社
毎日中学生新聞 日曜版	5月2日	毎日新聞社
週刊現代 「書いたのは私です ～水木サンの幸福論～」	4月24日号	講談社
論座 「本棚拝見」	6月号（5月6日発売）	朝日新聞社
週刊文春 「この人のスケジュール表」	3月25日発売号	文芸春秋
マンガの力の15人（仮題） 「現在漫画界の力になっている15人の漫画家を紹介」	6月発売予定	NHK出版
水木サンの幸福論 ～妖怪漫画家の回想 ←click! 「15年8月日経新聞に連載された、私の履歴書に加 筆。水木3兄弟の鼎談、鬼太郎の誕生（漫画）も収録」	3月22日発売	日本経済新聞社

テレビ関係

テレビ東京 「たけしの誰でもピカソ」

水木しげるの特集。水木の日常を撮影したビデオを流すほか、水木の生い立ち、作品について紹介。
水木本人が久しぶりにスタジオ入りして収録。荒俣氏も出演。
7月30日放送。

テレビ東京 「美の巨人たち」

「小川芋銭」の特集の中で水木が、河童や芋銭について語っている。水木が河童を描いているところも。
5月22日放送。

ずいひつ

紙芝居、貸本マンガの時代

水木しげる



無力な主人公

私が長い間（十五、六年）暮らしてきた紙芝居界、貸本マンガ界といったところは——

まあ不運というのか、日の当らぬ場所とでもいうのか、ほんのわずかな例外をのぞいては、なにをやっても、うまくいかないといった人が多かった。

不運な人間ほど、幸運をほしがるもので、何度も、幸運にむかってジャンプするのだが、小野道風の蛙みたいに、何回かこころみていれば、柳の枝にぶら下れるというものでもない。

みな半ばあきらめに似た気持で、日々を忙しさにまぎらわしながら送るわけだが、なにしろ、日常生活がフライパンで焼かれるような貧ケツ生活だから、じっとしていることはゆるされない。ゆるされないというより、物理的にじっとしておれないのだ。

だからむやみに働くわけだが、いくら働いても、紙芝居は一巻（十枚）で、二、三百円、貸本マンガの場合一頁二百円、たまに一頁三百円の場合があると、うれしさのあまり、しりもちをついたものだ。

馬琴は武士の血を引いていて、原稿料を上げなかったそうだが、紙芝居画家とか貸本漫画家も、芸術的武士を自任してか、画料の値上げが、ぜんぜんダメ。

——ときているから、救いようがない。勢い、喫茶店で世の中を呪い、果ては医療費の値上げとか、サンパツ代の値上げを呪ったものだ。

とにかく、目にみえないアリ地獄とでもいうやつであろう。一度その世界に落ちてしまうというか、きてしまうと、いくらあがいても、再び地上にはい上れないのだ。

私もその中の一員として、あがき、もがきつづけたわけだが、ちかれたといって捨児をしたオッサンのように、全くつかれるだけで、人並みな生活にははい上れないと、半ばどうしようもないおのれの無力をあざ笑いながら、あきらめの目をもってながめたのが、私がよく使う主人公の顔というわけだが——。



ねずみ男

この顔は、私のココロを表したものではあるが、実は現実に、そっくりの人がおり、その人も、することなすことを不運というか、神に見はなされたというのか、何一つ成功しない。

即ち、力が実らないわけだ。

小野道風の蛙のように、何度か柳につかまろうと、とびあがるのだが、とび上る度に、ますます不幸になってゆく。

それでも、彼はあきらめず、しっこく柳をめざすのだが、それはちょうど、ねずみ男が何一つ成功しないのに、たゆまず努力し、こころみるのと同じだ。

このねずみ男にも、よく似た男がおり、それをモデルにしたわけだが——。

氏は貸本マンガ家だった。

いわずと知れたひどい貧乏だったが、氏はたゆまない智恵者であった。

「あんたねえ、その人を自分の思い通りにしようと思ったらねえ、前のバンから考えて言葉の城壁をもうけて、パチンコ玉がそこにころがりこまざるを得ないようにせにゃいかんよ」とか、

「あんたねえ、この十円玉が（当時新宿—水道橋の電車チンは十円だった）どれだけの働きをするかということは、前のバンから考えて、使わんけりゃあいかんよ」といった忠告なども、うけたことがあるが、なかなかの策士であり、アイデアマンでもあった。

ところが——、

どうしたわけか、何一つ、成功しない。しかし彼は、うむことなく、電車の中などで人が居ねむりしている時でも、一人言をいいながら、新しい策をねっているのが常だった。

紙芝居の時のねずみ男はねずみに似ていたが、その男に会ってから、ねずみ男をこの男の顔そっくりにしたら、ねずみ男が生き生きとしてきた。

まあ、そういう世界の人は、みんな人が好くて、それなりに親切でもあり、働き者でもあるわけだが、なにせ、生息しているところが、誰をみても貧乏人ばかりで、地下水が少い国のように水が上ってこないのだ。

貸本マンガの出版屋にしてからが、ちょっとなにかあるとつぶれる、といったぐあいだから、たまるのは質札ばかりで、ものがなしいというか、情けないというか、なんとなく、そこはかとない無力感が風のように体内を通りすぎる感じだった。

そうした時、仲間に会うと笑い声のない笑いで、お互に答えあったものだ。

紙芝居と東京・下町の子供たち——

紙芝居がやってきた

鴇尾銀八



水木しげるが神戸で加太こうじと出会い、紙芝居の習作をはじめた昭和二十五年（一九五〇年）十月、僕は東京・中央区の下町に生まれた。

　紙芝居を見ていたのは何歳ぐらいの頃だったのか、はっきりとは覚えていないが、おそらく小学校二、三年生の頃までだったろうと思う。つまり、紙芝居末期の数年間だ。もっとも、画劇社があった地域やその周辺の荒川区や葛飾区、足立区、台東区あたりではでは、もっとあとまで来ていたらしい。

　僕が紙芝居を見始めた頃は、町内には三人の紙芝居屋さんが来ていた。それが一人、また一人と来なくなり、数年のうちに誰も来なくなっていた。けれども、その頃はもう漫画（少年、冒険王、漫画王等の月刊誌）に夢中だったし、日本映画も全盛で、毎週のように父親に連れられて見に行った。そしてテレビ。その頃は、まだ高くて、下町ではテレビを持っている家が少なかったので、僕らはテレビのある友達の家で見るのが日常だった。（いつも狭い家に三人から五人ぐらいはいた）

　そして、いつのまにか僕らは紙芝居屋さんのことを忘れていた。

　小学校に行っている子供たちが帰ってくる三時から四時頃になると、紙芝居屋さんは自転車でやってきた。荷台に紙芝居と飴やソース煎餅、その他を入れた大きな箱をくくりつけている。三人のおじさんのくる場所はそれぞれ決まっていて、近くの中学校の通りの角、お風呂やさんのそばの路地、そして僕の家の裏の空き地だった。なぎら健壱も「下町小僧」に書いているが、三人が来る時間は微妙にずれていて、かち合った記憶がない。

　小学校二年の夏休みだった。

　紙芝居屋さんは、いつもの場所にやってくると、拍子木を打ち鳴らす。これが結構遠くまで聞こえる。町内で遊んでいた僕たちは、遊びを中断して急

● この頁の話は「下町小僧」なぎら健壱・著（ちくま文庫）がお・ススメです。ちなみに彼は一丁目、私は八丁目で、同じ地区の生まれです。

いで駆けつけると、そこかしこから他の子供たちも集まってくる。二十人ぐらいが集まると、おじさんは拍子木を打つのをやめる。待っていた僕たちはあんず飴や、ソース煎餅などの駄菓子を買って、紙芝居が始まるのを待つ。

ヒーローもの（黄金バットとか）や怪奇もの（猫娘みたいな因果ものとか）やお笑い系のものもあったが、その日の紙芝居の内容は覚えていない。

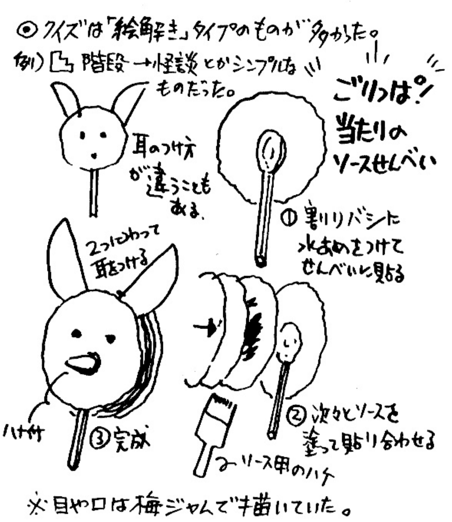
いつも何本かの紙芝居の間に一枚物のクイズがあった。三題ぐらいで、当てるとソース煎餅十枚がもらえた。これは結構価値があった。（通常は割り箸の先に付けた水飴に裏表二枚の煎餅を貼り、さらに一枚を二つに割ってウサギの耳風に差したものだった）その日二問目のクイズ。しばらくしても誰の手も挙がらない。その場にいた五、六年生たちにも解らないようで、シンとしていた。僕はうれしくなって、思い切り手を挙げた。

クイズを当てたのはそのときが初めてだった。よっぽどうれしかったのか、おじさんが当たりのソース煎餅を作るのをそばでじっと待っていたのを、今でもはっきり覚えている。

＊　＊　＊

クイズの答えは「怪談・乳房榎」。

一週間ほど前たまたま見た、新東宝の三本立て怪談映画の一本だった。今にして思えば、この頃の新東宝の怪談は小学生が見るようなタイプの映画ではなかったから、子供向きとはちょっと言い難いクイズだったと思う。



※新東宝（一九四七〜一九六一）十四年間に五百本の映画を制作。後期（五十五年以降）はエロ・グロ路線を走るが、『東海道四谷怪談』『地獄』等の名作もある。

昭和33年（1958年）はこんな年だった

※この年、水木しげるの実質的貸本デビュー作「ロケットマン」が刊行される。以降、多岐なジャンルにわたり次々と作品を発表する。

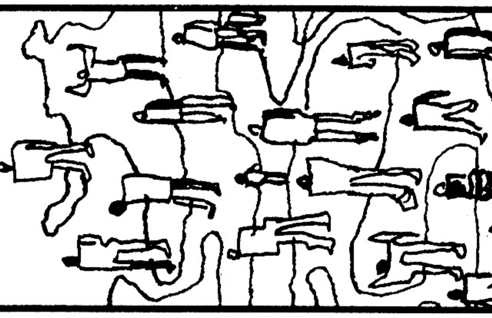
- 怪獣ラバン
- 戦場の誓い
- 飛び出せピョン助
- 地獄の水　等



■この年は日本映画のピーク。
観客動員数：1億2000万人

1月	米国・人工衛星「エクスプローラー1号」打ち上げ成功
2月	TV「月光仮面」放映開始／長島、巨人軍入団
3月	関門トンネル開通
4月	売春防止法施行
5月	富士重工「スバル360」発売
6月	フランス「ドゴール内閣」成立
7月	映画「怪談乳房榎（新東宝）」公開
8月	日清食品「即席チキンラーメン」発売
9月	アサヒビール、日本発の缶ビール発売
10月	日本初のカラー長編アニメ「白蛇伝」公開
11月	特急こだま（東京、大阪間）運転開始
12月	一万円札の登場／東京タワー完成

◎新横浜ラーメン博物館は昭和33年の下町をイメージして作ってあるそうです.



2004年(平成16年)5月23日

朝日新聞

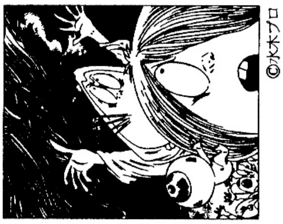
自作再訪

極貧から多忙生活へ ありそうでない幸福

水木しげる

ゲゲゲの鬼太郎

鬼太郎は紙芝居作品に初登場。貸本マンガを経て65年、「少年マガジン」に「墓場の鬼太郎」の題で掲載。67年、アニメ化に伴い改題、妖怪ブームに火をつけた。ちくま文庫。



©水木プロ

それはやはり〝鬼太郎〟です。それこそ〝全力投球〟というやつでしょう。

いや〝全力投球〟という努力感みたいなものもなかったから、いわゆる〝火の玉〟みたいになってやったということでしょう。

だから〝鬼太郎〟はどの部分でも面白いというのが〝ネツレツ〟です。

まア、鬼太郎のことをながながと書いてみてもどうということもないから、当時の作者の貧乏生活について記してみる。

だいたい貸本マンガだから1冊かいてもってゆくわけで、1カ月位はかかる。

1カ月というと長いから金は1文もない。原稿が出来てそれを出版社にもってゆく時の電車チンはいつもゼロだった。

従って質屋にゆき、電車チンを作ってから出版社にゆく。

だいたい原稿料はもらえたが、たまにもらえない時があった。

その時は電車に乗れないのである。

まア、それこそ〝タイヘン〟な生活だった。

出版社の方も何時倒れてもおかしくない経済状態だったから、なんだか毎日が〝地獄の活劇〟みたいな生活だった。

そういう時に〝鬼太郎〟が現れるわけだが。

必死に面白がっていた。不思議と〝金〟のことは考えないで、やたらに面白がってかくという感じだった。

だけど〝貧乏と苦戦〟の時代だったから、あまり思い出さないようにしていた。

こういうふうに原稿を依頼されると思い出すが、その頃の心象風景は世界中が北極みたいな感じだったから、夢をみても寒い感じがした。

まア、それを〝鬼太郎〟が解放してくれたわけだが、解放と同時に今度は〝多忙〟という鬼が現れて、〝幸福〟なんてどこへやら、〝ワハハ〟というおどろきとも泣きともつかぬ音が出るようになり、それがずっとつづいた。

人間はなかなか心にえがくような幸福生活は出来ないものだ。

まア、それでも極貧生活から抜け出せたのは良いことではあったが、〝多忙生活〟という一種の苦界に入るのも妙な気持ちだった。

おっと、鬼太郎についてかくのだったな。

まア、鬼太郎は始めは苦戦したが、面白がってかいていたわけだから、これほど幸せなことはなかった。しかし〝時間〟のない毎日、仕事だらけの毎日が数十年つづくわけだが、正直これには〝参った〟。

即ち、幸福はありそうでないものらしい。多忙多忙の毎日で、気がついてみたら老いていた。

（みずき・しげる／漫画家）



撮影／馬場磨貴氏

「ゲゲゲの鬼太郎Ｒ　妖怪千物語」

月刊コミックボンボンにて、
好評連載中！！

※作画担当の「ほしの竜一」氏は、「サムライトルーパー」、「ＳＤガンダムシリーズ」、「ファミ拳リュウ」などの作品で知られる、コミックボンボン誌上のベテラン作家である。今後の活躍に期待したい！！



文責・松本和也

鬼太郎茶屋へ御用改めでござる！

↑と、叫んだら相方に「大丈夫？」といわれた「妖気な主婦」







▲調布ゆかりのヒーロー、鬼太郎ファミリーと新選組のコラボ。でも公式キャラはあくまで「イサミ」くん。

水伝の大事な在庫を預からせていただいております新明（シンミョウ）香織です。

「こいつ新入会員か？」とお思いの方もいらっしゃるでしょうが、『フハッ５５号』の月ドラ鬼太郎を担当した木村香織と同一人物です。夏と冬のコミケでよく同人誌売ってます。

平成十五年六月に、独身ライフ（負け犬ライフ？）を満喫した後、縁あって一般市民？に嫁ぎました。住所と姓は変わりましたが、水木伝説の為に非力ながら協力していくことには変わりありません。よろしくお願いします。

ところで、新姓『新明』はあまり馴染みがない姓らしく、よく間違えられるんですワ。「しんめいさん」とか「神明さん」とか。（笑）

そういえば「新命明」という人がいたな。アオレンジャーの本名だっけ（笑）関係ねーか！

「フハッ」誌上では、今後も無難な旧姓の方使用しますが、通販申し込みは「新明姓」でお願いします。遅れ馳せながらご挨拶まで。

いきなり話題が一年とんでしまうのですが、平成十六年六月、鬼太郎茶屋に配偶者の車で遊びに行ってきました。一番近くて便利とされる「中央高速・調布ＩＣ」を出口とするルートが横浜方面からでは利用できないので、思ったより時間がかかりました。世田谷近辺の一般道が道幅狭くて超不安でした。道間違えた？ひょっとしてカーナビの案内が狂ってる？？次回来訪時に困らないように、周辺に詳しい方のアドバイスお待ちしてます。



さて、今を盛りと咲き誇る植物園のバラを眺めながら、期間限定の「ちょうふ新選組フェスタ」を軽くチェック。大河ドラマの実際の衣装やセットのレプリカ、幕末の歴史がわかる地図や年表の展示が中心でそれ程、目新しいものは無かったのですが、鬼太郎ファミリーの新撰組スタイルのディスプレイがあったので、すかさず記念撮影デス！

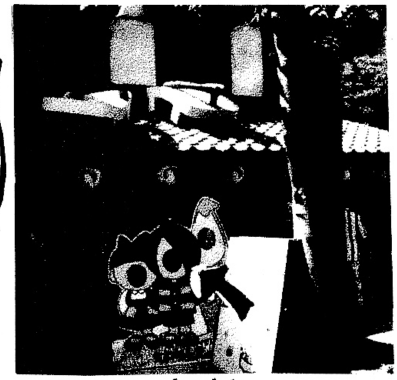
＊余談ですが、「大河・新選組」に戸田恵子さんが寺田屋の女将役で出演されているのは、みなさんご存知だと思いますが。「御用改め」に来た近藤らと堂々と渡り合う演技がカッコイイ！さすが３作目鬼太郎の声優です。惚れ直しますな。

《「新撰組フェスタ」は平成十六年十一月二十八日まで。有料》



▲野外フィギィア群。もうかなり痛んできた(コラ!!)





▲お約束(笑)

そして、本命の鬼太郎茶屋へ到着。年季を感じさせる古びたたたずまいに感心し、茶屋まわりに育った木々が与えてくれる天然の涼風で夏の暑さを忘れてしまいました。ついでに鰹節の山を見つけた猫みたいに大人の落ち着きも忘れてシマイマシタ。超お約束の顔だし看板で写真をとり、中庭の等身大フィギアと写真をとり、2階の妖怪ギャラリーでうんちくを垂れ、迷いながらグッズを買ったりではしゃぎまくりでやんす！

その後喫茶コーナーで『目玉ぜんざい』と『鬼太郎ビール』堪能しました（夏メニューになったので甘酒等がなくなって、かき氷やソフトクリームが充実してます。）座敷と縁側を含めるとかなりの人数が、軽食を楽しめそう！「貸切で、誕生パーティとかひらけないか？」と無謀な野望に、心躍らせました（笑）

ところで、もともとこの茶屋はお蕎麦屋さんだったそうですが、現在のメニューにお蕎麦が無いのが残念！わざわざ他の茶店で生蕎麦買って家で茹でて食べました…せっかくだから、ここで名物の深大寺蕎麦も食べた〜い！わんこ蕎麦みたいなものでもいいから是非メニューに入れて欲しい〜。

こうして、帰りも一般道の狭さに、ヒヤヒヤしながら帰宅したのですが、運転手として一日がんばってくれた配偶者の感想を。

「いや〜。深大寺って見所色々あるんだねぇ。鬼太郎茶屋しかなかったらどうしようかと思った…」…一般人の考え方はなかなか新鮮だ！





「レアかもしれない…」と撮った「Jリーグ FC東京 夏休みゲゲゲの鬼太郎フラッグ。ちゃんとデ〜ン」鬼太郎の絵入り。写真潰れたので、下手な図説付(笑)



コミックマーケットで販売を手伝ってくれる十八歳以上の責任感ある会員さん募集！問い合わせは通販住所まで。初心者可。丁寧に指導（笑）

2004.5.2 SUN 毎日中学生新聞

「ゲゲゲの鬼太郎」などの漫画で知られる水木しげるさん（82）の展覧会「Ｏｈ！　水木しげる展」が現在、鳥取県立博物館で開催されている。水木さんの少年時代の絵や、戦争体験を描いたスケッチ画など約500点が展示され、「妖怪漫画家」とは違った意外な一面を知ることができる。　【清水多佳子】

水木しげるワールドの原点 悲惨な戦争体験にあった

足跡一目で 鳥取で展覧会開催中


戦争体験などを語る水木しげるさん＝自宅で

子供のころから人一倍好奇心が強く、この世にある不思議なものや現象に関心を寄せていたという水木しげるさん。幼いころに家に手伝いに来ていた「のんのんばあ」というおばあさんとの出会いをきっかけに、「死後の世界」や「妖怪」など目に見えないものに関心を寄せていった。

今回、展示されるのは、そんな10代のころに描いた絵本や漫画、戦争中のことを描いた絵、そして戦後、漫画家になる出発点となった紙芝居の原画などだ。

仲間たちの死を見て…

1943年、太平洋戦争に召集されて、南方におもむき、ラバウル（パプアニューギニア）で左腕を失うほどの重傷を負った水木さん。展覧会には、「ラバウル戦記」という兵士たちや現地の人々を描いたスケッチ画があり、目をひく。この世とは思えない陰惨な戦場と、仲間の死を見て、「死後の世」への関心が深まり、あの世とこの世を自由に出入りできる「妖怪」に水木さんがひかれていく過程が紹介される。

荒俣宏さんが案内役も

「水木写真館」は海外へたびたび一緒に旅行をしている、博物学者の荒俣宏さんが案内役を務める。水木さんが妖怪を感じた瞬間にシャッターを切った写真が初公開されるなど、妖怪好きにはたまらない魅力がいっぱいだ。

この展覧会のために描き下ろした「人生絵巻」にも注目したい。水木さんが生まれてから故郷・同県境港市に「水木しげる記念館」がオープンするまでを描いた、10㍍にも及ぶ大作で、見ごたえ十分だ。

「戦争で弾が飛んできて、死にかけたことも面白がって描きました。危険なことでも、怖かったことでも今では楽しく思い出して、描くことができるんです」と水木さんは語る。

昭和史も学べます

同博物館の学芸員、福田雪江さんは「鬼太郎だけではない水木さんの素顔を見ることができるし、水木さんを通して昭和史を学ぶこともできます」とこの展覧会の魅力を話している。

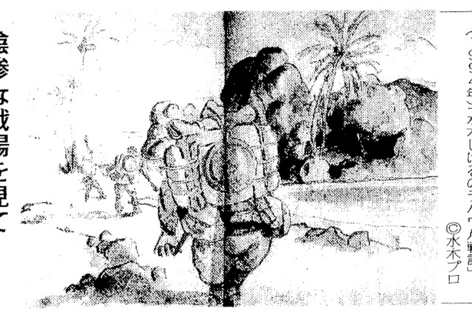
30日まで。６月４日からは福岡県立美術館で開催し、以後、来年９月まで全国を巡回する。

◆水木しげる　1922年、境港市出身。65年「テレビくん」で第６回講談社児童漫画賞、89年「昭和史」で第13回講談社漫画賞受賞。91年紫綬褒章2003年旭日小綬章を受章。３月に自叙伝「水木サンの幸福論」（日本経済新聞社）を出版。


「人生絵巻」の一部　©水木プロ

陰惨な戦場を見て「死後の世界」に関心


鳥取県でくつろぐ鬼太郎一家　©水木プロ


「ラバウル戦記」より「背嚢を背負って歩く」（１９９４年）「水木しげるのラバウル戦記」©水木プロ

江川達也の時事漫画　小６女児同級生殺害事件。加害女児の将来の夢は「マンガ家」

「都合よく殺人を正当化して描くマンガや映画やドラマが子供を殺人鬼に教育する」（江川達也）

この加害女児の将来の夢はマンガ家だったそうですが、ハッキリ言って今日のマンガ家の大半は、潜在的に彼女と同じメンタリティを持っていると、私は思っています。思い込みが激しく、他人には無神経だけど自分の痛みには敏感。妄想力はマンガ家の資質でもありますが、リアルがなさ過ぎます。昨今、殺人を扱うマンガが大幅に増えましたが、殺人は謎解きの"お題"でしかなく、その死による家族の悲しみは描かれず、殺人描写の正当性ばかりが考えられる。また、主人公が殺した相手が死んでも簡単に生き返ったりするご都合主義。そういえば、昨年、やはり長崎で駿君を殺害した少年も『三国志』オタクでした。

一方、『ゲゲゲの鬼太郎』の作者・水木しげる氏は第二次大戦中、戦場で"死"というものを間近に体験しています。そのため水木氏の作品では死の哀れさや悲しみがリアルに描かれています。だからこそ逆に、"生"もリアルに描ける。それは『ゲゲゲ～』のネズミ男を見ればわかります。相手が強いとすぐに寝返る、そういう卑小な存在を、善でも悪でもない形で描いている。それが人間の「リアル」。多くの読者は鬼太郎ではなく、人間臭いネズミ男に自身を投影したものですが、最近のマンガはそんなリアルな存在を登場させません。意欲も才能もない作り手の苦肉の策としての過激表現が、安易な殺人を助長していくのです。

「ＳＰＡ」６月15日号　コラム部分のみ掲載

Special スペシャル その2

コナミから『鬼太郎』をモチーフにしたソフトが発売されたのを記念して、妖怪が大好きな柴田亜美先生が取材に行ってきたよ！

「妖怪が大好きなんです～！」柴田亜美先生が水木しげる先生に直撃取材!!



本誌で『ドキばぐ』を好評連載中のマンガ家、柴田亜美先生が、長年の夢を実現！ コナミから昨年12月11日に、『ゲゲゲの鬼太郎』を題材としたゲームが3本同時に発売されたのを記念して、あの水木しげる先生の取材が行われることに。自他ともに認める妖怪好き＆水木しげる先生ファンの柴田亜美先生がこの情報をキャッチし、担当のチップス小沢に同行を直訴！ 小沢も妖怪＆水木先生のファンということもあり、珍しく意見が一致。こうしてふたりが水木先生のインタビューを行うことになったのだ。その模様をお届けしよう！



←↓あこがれの水木先生を前に、いつもの取材とは様子が違った柴田先生。見るからに緊張していましたよ。ええ。

『鬼太郎』のゲームがなんと3本同時に発売！

コナミが昨年の12月11日に、『ゲゲゲの鬼太郎』のソフトを3機種でリリース！ ジャンルもプレイステーションがアクション、プレイステーション2がシミュレーションRPG、ゲームボーイアドバンスがアクションRPGとそれぞれ異なるのだ。

PS2 ゲゲゲの鬼太郎　異聞妖怪奇譚



PS ゲゲゲの鬼太郎　逆襲！妖魔大血戦



GBA ゲゲゲの鬼太郎　危機一髪！妖怪列島





コナミコンピュータエンタテインメントジャパン
制作推進部　プロダクトコーディネーター

内田和伸氏

今回の『ゲゲゲの鬼太郎』シリーズ3本で、ディレクションを担当させていただきました。僕は昔から『鬼太郎』が大好きで、小さいころから水木先生の作品にあこがれていたので、今回の3タイトルも企画を考える段階で自分から「やりたい！」とアイデアを出しました。昔から好きだった『鬼太郎』のゲームを手がけることができたので、自分にとっては思い出に残るタイトルですね。しかも水木先生にお会いすることもできたし、もう言うことなしです！

柴田亜美(以下、**柴田**)　こうして水木先生とお会いすることができて、本当に感激です～！ 私は妖怪が本当に大好きで、去年だけでも水木しげるロード(※❶)に4回も通わせていただいたくらいなんですよ～。

水木しげる(以下、**水木**)　ああ、境港のね。あそこには水木サン(※❷)が生まれた家がまだそのまま残っていますよ。境港は本当に何もないところでしょ。魚がたくさん獲れるだけで。で、今日は何の取材ですか？

チップス小沢(以下、**小沢**)　今日は、週刊ファミ通というゲーム雑誌の取材で、この模様をマンガで描かせていただこうと思っているんです。

柴田　私、じつはマンガ家なんですよ。

水木　ほう。で、何で取材を？

小沢　コナミさんから、『鬼太郎』のゲームが3本発売されたので、それを記念してマンガにさせていただこうと……。

水木　『鬼太郎』がゲームに……？ それはテレビゲームのゲーム？

小沢　そうです。テレビゲームの……。

水木　じゃあいっぱい宣伝しないと！

一同　(笑)。

柴田　先生は、昨年の世界妖怪会議(※❸)では恐山にも行かれていますよね。

水木　ああ、恐山ね。あそこは寒いからあまり行きたくない。

柴田　寒いのはお嫌いですか？

水木　暖かいところがいいね。水木サンは、寒いのは好きじゃないから。

柴田　では、パプアニューギニア(※❹)はどうでしょう？

水木　パプアニューギニアは暖かくていい場所ですね。冬がないから文化が発達する必要がなかったので、いまだに縄文時代みたいですよ(笑)。南方の島なんか、まだ電気がなくて、ランプだけのところもあるし。電気は明るすぎるから、妖怪がなかなか出られなくなったんだ。昔はランプや行灯だったから妖怪も見えたんだけどね。

この対談の模様は　ページの『ドキばぐ』にも載ってるよ！

❶**水木しげるロード**：鳥取県境港市にある、妖怪のモニュメントが飾られた観光地。柴田先生は取材やプライベートで、何度もこの地を訪れている(『ドキばぐ』2巻参照)。
❷**水木サン**：水木先生は、自分のことを「水木サンは～」と表現する。
❸**世界妖怪会議**：全国の妖怪にゆかりのある場所で毎年行われているイベント。
❹**パプアニューギニア**：第二次世界大戦中、水木先生が駐在したのがパプアニューギニアのラバウルという場所だった。戦後は本気で、ここで暮らすつもりだったらしい。

鬼太郎茶屋に行ってきたよ!!

水木先生の取材を無事終えた柴田先生が向かったのは、東京都調布市にある深大寺。ここには、鬼太郎のグッズやお土産を扱っている"鬼太郎茶屋"があるのだ。さっそく記念撮影をして、店内のグッズを物色する柴田先生。ここでも至福のときを迎えましたとさ。ちなみに鬼太郎茶屋では、"目玉おやじぜんざい"、"塗り壁味噌おでん"などの甘味のほか、"鬼太郎ビール"、"妖怪酒"などを堪能できる。『鬼太郎』ファンの人は、ぜひ足を運んでみてはいかが？ お問い合わせは、妖怪舎東京オフィス(鬼太郎茶屋内 ☎0424・41・1398)まで。



↑←鬼太郎茶屋で大はしゃぎの柴田先生とチップス小沢。いい大人です。

「週刊ファミ通・1月30日号

← ← 左頁から始まります← ←



☆水木先生の登場コマを中心に再構成しました。

本来は４頁の作品です。

著作権を侵害する意図はありません。（木村）

こちら側の頁からお読みください← ←

■ついに夢の取材が実現。みんなで唄いたいくらいハッピーです。



「週刊ファミ通・1月30日号」柴田亜美『ドキばぐ』より抜粋

新入会員紹介



イラスト／会員・福島優美子さん

①住所 〒300-
茨城県霞ヶ浦町

②氏名 いいづか まさと
飯塚真都

③年齢 15

④性別 男・女（男に○）

⑤電話番号 ☎029-897-

⑥水木漫画で一番好きな作品
マンモス・フラワー等
（おもに現代風短編）

⑦自由欄（自己紹介、イラストなんでも結構です。）
水木先生をこよなく愛する少年です。「ゲゲゲの鬼太郎」をはじめとする水木作品の価値がわかっていると思います。だからこそ入会して、もっと水木先生のよさを未来へつたえようと思っているのです。水木先生最高!!
{ 一番好きな日本妖怪は死神
〃 世界妖怪はテーセース
全体的に好きなのは、吸血鬼エリート。

①住所 〒892-
鹿児島市

②氏名 よしまる やすお
吉丸泰生

③年齢 58才

④性別 男・女（男に○）

⑤電話番号 ☎099-222-

⑥水木漫画で一番好きな作品
ゲゲゲの鬼太郎

⑦自由欄（自己紹介、イラストなんでも結構です。）
40年近くになる愛読者の一人です。子供にキタロウの名付けを試みましたが諸事情で果せず、孫にもトライしましたがこれまた成果を得られず次回にチャレンジします。

①住所 〒879-
大分県大分郡

②氏名
佐藤達矢

③年齢 43

④性別 男・女（男に○）

⑤電話番号 ☎097-582-

⑥水木漫画で一番好きな作品
河童の三平

⑦自由欄（自己紹介、イラストなんでも結構です。）
はじめまして。水木作品数百冊に囲まれて生活しております。が、まだ完全制覇にはほど遠い状況です。どなたかレア物をお持ちの方、拝読可能ならご連絡いただけないでしょうか？お礼いたします。
E-Mail：tatsuyasato90@hotmail.com

①住所 〒470
愛知県豊明市

②氏名 中原清志
③年齢 44
④性別 男・女（男に○）
⑤電話番号 ☎0562-97-
⑥水木漫画で一番好きな作品 ゴマスリ二等兵

⑦自由欄（自己紹介、イラストなんでも結構です。）

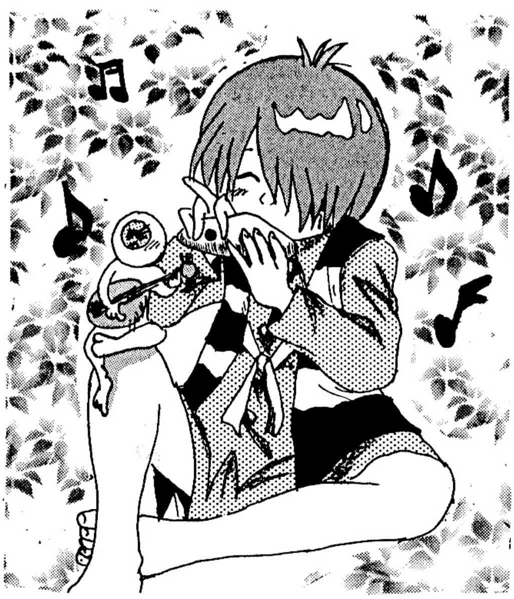
バックナンバー希望
墓場の鬼太郎以来のファンです
この会で まだ 出会っしない
作品に めぐり会いたいです。

①住所 〒928
石川県輪島市

②氏名 久保洋
③年齢 37
④性別 男・女（男に○）
⑤電話番号 ☎0768-22-
⑥水木漫画で一番好きな作品 総員玉砕せよ

⑦自由欄（自己紹介、イラストなんでも結構です。）

子供の頃から「鬼太郎」のマンガやアニメを見て育ちました。
水木先生のマンガも友達と購入し、まわし読みしました。
水木先生の描くストーリーと絵が好きで、子供の頃からとりこになり、大人になってもその熱は冷めませんでした。
「ねぼけ人生」という伝記を読んでから、水木先生の人生にも興味を持つようになり、いま「水木伝説」を知って入会を決意しました。



イラスト／会員・福島優美子さん

①住所 〒915-
福井県今立郡
イマダテ

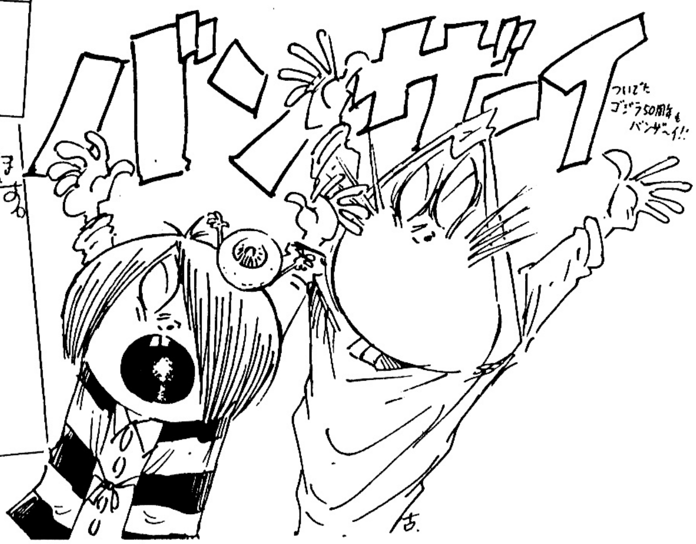
②氏名 細井秀信（ホソイ ヒデノブ）
③年齢 36
④性別 男・女（男に○）
⑤電話番号 ☎0778-42-
⑥水木漫画で一番好きな作品 のんのんばあとオレ

⑦自由欄（自己紹介、イラストなんでも結構です。）

水木伝説のスタッフ、全国の会員の皆様
こんにちは。
福井県で水木しげる先生を研究している
越前水木会の細井です。36才男です。
先生を研究し、マンガ、フィギュアを集めて29年になります。
会員の方々との交流を今後楽しみにしています。

①住所　〒989
宮城県亘理郡
②氏名　佐藤 正孝
③年齢　29
④性別　男・女
⑤電話番号　☎090-3123-
⑥水木漫画で一番好きな作品　鬼太郎シリーズ
⑦自由欄（自己紹介、イラストなんでも結構です。）
普通のファンではありますが宜しくお願いします。

鬼太郎アニメ第５部
放映決定！！



①住所　〒604-
京都市中京区
②氏名　杉本 理（オサム）
③年齢　32
④性別　男・女
⑤電話番号　☎075-231-
⑥水木漫画で一番好きな作品　錬金術
⑦自由欄（自己紹介、イラストなんでも結構です。）
Tツカ オ○ムより F.A フジ○より
もっともっと水木氏の作品が
世に広く読まれても良いと
思います。宜しくおねがい
いたします



①住所　〒740-
山口県岩国市
②氏名　堅田 真一
③年齢　25
④性別　男・女
⑤電話番号　☎090-1336-
⑥水木漫画で一番好きな作品　河童の三平
⑦自由欄（自己紹介、イラストなんでも結構です。）
水木しげる先生のDVD「水木サン大全」、
毎日の様に観ております。

①住所 〒201-
東京都狛江市

②氏名 野口芳明
③年齢 45
④性別 (男)・女

⑤電話番号 ☎03-3480-
⑥水木漫画で一番好きな作品 河童の三平 or 陰き川

⑦自由欄（自己紹介、イラストなんでも結構です。）
年令的に貸本世代ぎりぎりでした。
もちろん鬼太郎、悪魔くん、そしてペーソスあふれた
短編も大好きでした……ところが子供も沢山
出来て水木さんを忘れかけた頃近く(深大寺)
に、鬼太郎茶屋が出来て一気にあの頃の
ファンに戻ってしまいました。水木伝説は地獄流し
[redacted]のていねいな作りを見て、スバラシ絵など
思い、ぜひ会員になりたいと思いました。
よろしくお願い致します。

①住所 〒236
神奈川県
横浜市金沢区

②氏名 ながしま じゅんこ 長島順子
③年齢 47才
④性別 男・(女)

⑤電話番号 ☎045-784
⑥水木漫画で一番好きな作品 ゲゲゲの鬼太郎「牛鬼」

⑦自由欄（自己紹介、イラストなんでも結構です。）
はじめまして、鬼太郎ファンの長島と申します
ファンになってからは長いのですが、水木大
先生の書かれるマンガはみんな大好きです
特に鬼太郎ファミリーが好きです。最近
ぬりかべさんに興味がうつりまして……
とにかく…みんな大好きです。
いつまでも大先生を応援していきたいと思います。

①住所 〒580-
大阪府松原市

②氏名 前野亜里沙
③年齢 23
④性別 男・(女)

⑤電話番号 ☎072-336-
⑥水木漫画で一番好きな作品 血太郎奇談

⑦自由欄（自己紹介、イラストなんでも結構です。）
会報、楽しみにしています。
宜しくお願いします。



①住所 〒377-
群馬県渋川市

②氏名 相川聡
③年齢 27
④性別 (男)・女

⑤電話番号 ☎0279-24-
⑥水木漫画で一番好きな作品 どれが一番かは、きめられないが、一番最初に好きになったのは、鬼太郎です。

裏も書いて下さい。

⑦自由欄（自己紹介、イラストなんでも結構です。）
はじめまして、相川です
これからよろしくおねがいします
fan-mail@optstyle.com



水木展、グッズをネット販売



「ゲゲゲの鬼太郎」でおなじみの漫画家・水木しげるさんの作品と人物の魅力を紹介する「大水木しげる展」（朝日新聞社など主催）が、7月11日（日）まで、福岡市中央区天神の福岡県立美術館で開催されています。会場で人気の本展オリジナルグッズ＝写真＝がインターネットでも購入できます。

水木さんが本展のために自身の波乱に満ちた人生を描いた10㍍の「水木しげる人生絵巻」を、和紙に再現した直筆サイン入りレプリカ「人生絵巻豪華版」（4万1790円）と3㍍に縮小した普及版（3990円）や、鬼太郎とシルクハットをかぶった水木さんが手を振る「記念フィギュア」（1260円）、本展の監修者で作家の京極夏彦さんがデザインした公式ポスター（980円）など6点を販売しています。

◇申し込み　玩具メーカー「やのまん」のホームページ（http://www.yanoman.co.jp/）

◇展覧会に関する問い合わせ　福岡県立美術館（092・715・3551）

展覧会はこのあと、大丸ミュージアムKOBE（8月4日～16日）、大丸ミュージアムKYOTO（8月19日～31日）、高知県立美術館（05年7月31日～9月25日）などを巡回します。

●平成十六年六月二十二日　朝日新聞 ▶

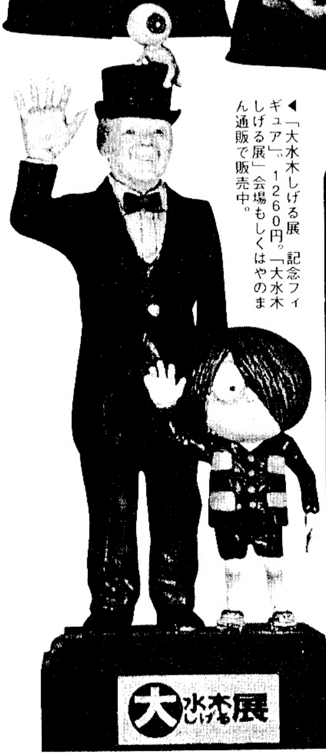
妖怪世界を凝縮！

「大水木しげる展」と「妖怪道五十三次展」が、全国の会場で順次開催！　これを記念して限定アイテムがいくつか用意された。いずれもイベント会場で販売されるが、やのまん通販でも購入可能だ。「手ぬぐい」「一筆せん」などの通常商品も新ラインナップが多数登場。

問やのまん



◀▼「水木しげる座像シリーズ」開運座像・のんき座像・しあわせ座像、各819円。「大水木しげる展」「妖怪道五十三次展」もしくはやのまん通販で。



◀「大水木しげる展　記念フィギュア」。1260円。「大水木しげる展」会場もしくはやのまん通販で販売中。

ビネットフィギュア「妖怪道五十三次」

全4種類のビネットフィギュア。「大水木しげる展」「妖怪道五十三次展」もしくはやのまん通販で販売。詳しくはhttp://www.yokaido53.com/を参照。各1680円。



水木しげるシリーズ　写真付き切手（Pスタンプ）

鬼太郎や目玉おやじ、ねずみ男などおなじみのキャラクターや妖怪たちで構成された写真付き切手のシリーズです。

「写真付き切手・ゲゲゲの鬼太郎 其の壱」は、鬼太郎や目玉おやじ、ねずみ男など

おなじみのキャラクターと鬼太郎が対決した妖怪たちで構成された

80円切手10枚の写真付き切手シートです。

これから登場する予定の水木しげる　写真付き切手シリーズ

【NO.1】ゲゲゲの鬼太郎　其の一　…　4/12発売

定価2625円（税込）

【NO.2】ゲゲゲの鬼太郎　其の二　…　2004年夏頃発売予定

【NO.3】妖怪切手　其の一　…　2004年秋頃発売予定

【NO.4】妖怪切手　其の二　…　2004年冬頃発売予定

全て予価2600円（税込）



※掲載されているデザイン・写真は製作中のため変更になる場合がございますのであらかじめご了承下さい。

■お問い合せ先　株式会社ピンチェンジ　切手係

〒140-0004　東京都品川区南品川2-4-5 NAビル1F
TEL:03-5460-2522（9:00～17:30　土日祝休み）　FAX:03-5460-2772
メールアドレス：info@p-change.com

くさった国

{編集後記だよ～ん}

ビートたけしの「誰でもピカソ」(水木先生出演)を見ました。たけしの似顔絵を描いてましたがいや～さすが先生ですね!! 迷いのない筆づかいで一瞬のうちに出来上がりました。お見事です!! やっぱり水木先生、いい味を出してますね。
(てんめい)

ありがとう、わぁでい!!
さようなら、わぁでい!!

松ちゃんポリスこと
松本 和世

サマーイベント本当に出来なくて残念!! 人手不足ですから!!
会長:切腹 (>_<)
その代わりに京都大丸にスタッフみんなで乗り込むぞ――っ

ブラック会長Kこと 北迫でした!

サマーイベントできなくて残念でした。

ごめんねー!

吉田

ちょっと! ちゃんと確認してから扉を開けなさいよ!!

「石」

●水木先生の自伝は、「私の履歴書」以前に何冊も本になっていますが、漫画作品と同様に、また焼き直しか!と思わせて、その実新しい発見をさせてくれます。

『～幸福論』も買い求めましたが、こちらには、前口上の「幸福の七カ条」(これまでにも、多くの水木人生標語がありましたが、今回もまたナットクの連続です。)、水木三兄弟の言いたい放談(今迄ありそうでなかった好企画)、そして40年近く単行本に再収録されなかったガロ版「鬼太郎の誕生」と盛り沢山の内容でした。

●『ようかいかわらばん』2月号で、栗本さんの貸本漫画等のコレクションを垣間見ました。私などは、この分野はハナからあきらめているので、羨ましい限りです。

先日、近くの書店でやっていた「妖怪道五十三次」展に出掛けて来ました。

直筆の鬼太郎が描かれた桐箱入り複製版画を、「せめてこれ位は欲しいなァ」としばし見つめて・・現実は、ポストカード・専用額・図録を買って帰りました。(これだけでも2万円近くの出費です。)

●グチ話はこの辺でやめますが、『フハッ』では、新連載もいくつか始まったので、次号も楽しみにしています。そして今年一番期待しているのは、全国的に開催される事になった「OH水木展」です。　以上

内田高信

次号予告

フハッ第61号

SILENT SHOCK特集

原稿発送先／〒643－0071
和歌山県有田郡広川町広651－4　栗本典明

原稿の締め切りは10月20日です。

フハッ第60号

目玉おやじ特集

発行／平成16年9月15日

表紙／水木しげる（レイアウト・栗本典明）

編集／栗本典明

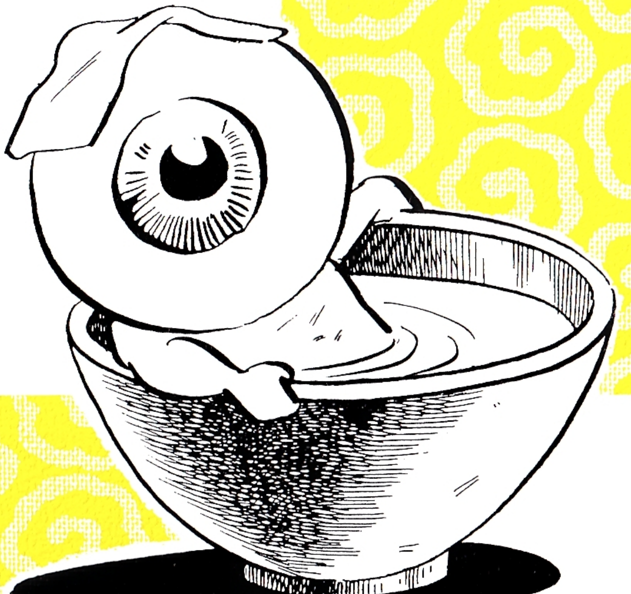
担当／北迫耕治・栗本典明・吉田温代・石川明子
善樹敏秀・松本和也・日比野聖巳・幸治亮

協力／内田高信・古賀弘明・鴇尾銀八・新明香織

多謝／水木しげる先生・水木プロの皆様

印刷／太陽出版株式会社

製作・発行／水木しげるＦＣ・水木伝説
〒663-8223
兵庫県西宮市今津巽町７番２－７０９
北迫方



制作・発行
水木しげるＦＣ

水木伝説